

令和4年度

病虫害発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

# 目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供等	
1. 発生予察情報の一覧	5
2. 病害虫の診断・同定の件数	105
VI. 病害虫の発生経過の概要	106
VII. 作物病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	112
2. 予察ほ場などにおける定点調査	114
3. 水稻巡回ほ場調査	115
1) 圃場における病害虫の発生状況	116
2) 主要病害虫の発生程度別面積	128
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	136
VIII. 野菜病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	142
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	150
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	155
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 予察ほ場などにおける調査	156
2. 巡回調査結果	178

# 令和4年度病虫害発生予察事業年報

## I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病虫害」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病虫害の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

## II. 事業実施方針

病虫害発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病虫害や侵入病虫害、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

## III. 対象病虫害の種類

作物名	対象病虫害
水 稻	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ）、イネミズゾウムシ  (指定外) 白葉枯病、萎縮病、ごま葉枯病、内穎褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ  (指定外) べと病、灰色かび病、軟腐病、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、べと病  (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
ス イ カ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ  (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類

作物名	対象病害虫
キュウリ	(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ） (指定外) 斑点細菌病、疫病、モザイク病、黄化えそ病、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
ナス	(指 定) うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハスモンヨトウ、オオタバコガ (指定外) モザイク病、疫病、すすかび病
トマト ミニトマト	(指 定) 灰色かび病、葉かび病、疫病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、オオタバコガ、ハスモンヨトウ (指定外) うどんこ病、モザイク病、黄化葉巻病、ハモグリバエ類、ハダニ類
エンドウ	(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類（マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ）、ウワバ類、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
イチゴ	(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類（ワタアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウナマ）、ハスモンヨトウ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ） (指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）、ロウムシ類（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）、ゴマダラカミキリ、ミカンハモグリガ
キウイフ ルーツ	(指 定) かいよう病

作物名	対象病害虫
カキ	<p>(指定) 炭疽病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ)、カイガラムシ類(フジコナカイガラムシ)、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類(チャハマキ、チャノコカクモンハマキ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ</p>
モモ	<p>(指定) せん孔細菌病、ハダニ類(クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類(モモアカアブラムシ)、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類(ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ)</p>
ウメ	<p>(指定) 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)</p> <p>(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑病、アブラムシ類(ムギワラギクオマルアブラムシ)、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ</p>

#### IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 任 主 査 主 査 技 師 技 師	林 恭弘 久田 紀夫 衛藤 夏葉 岡本 崇 岡本 晃久 井沼 崇 木村 響 西端 千春
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 主 査 技 師	山本 浩之 武田 知明 松山 尚生
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 査 主 査 副主査	井口 雅裕 大谷 洋子 弘岡 拓人 増田 吉彦
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 主 任 技 師	土田 靖久 菱池 政志 山本 圭太

## V. 病害虫発生予察情報の提供等

### 1. 発生予察情報の一覧

#### 1) 特殊報

令和4年6月13日

#### 令和4年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2. 発生地域：印南町

3. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和4年5月下旬、日高郡印南町のミニトマト施設周辺に設置した侵入警戒トラップにおいて、トマトキバガと疑われる成虫（写真1）が誘殺された。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが確認された。なお、県内では他に紀の川市にもトラップを設置しているが、本地点では確認されていない。

また、現在のところ県内では本虫による農作物の被害は認められていない。

本種は南米原産であるが、平成18年にスペインへの侵入が確認され、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布しており、令和3年5月までに、台湾、中国、中央アジア諸国などで発生が確認されている。また、国内では令和3年10月に熊本県で初めて確認され、12月に宮崎県、令和4年3月に鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、4月に愛媛県で確認されている。

4. 形態および生態

1) 形態

成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長5mm弱、開帳<sup>※1</sup> 約10mm）。前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色である（写真2）。

幼虫は終齢で約8mmに達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する（写真3）。

※1 翅を左右に広げたときの両方の翅の先端から先端までの長さ

2) 生態

ア 1年に複数回の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、南米では年に10～12世代発生することが報告されている。

イ 卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。また、発育下限温度は8℃とされている。

ウ 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

エ 雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄生植物の葉の裏面などに産み付ける。

オ 幼虫は1齢～4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

### 3) 被害

トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される（写真4）。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する（写真5）。

### 4) 寄主植物

トマト、ピーマン、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。

### 5) その他

海外では、ピレスロイド系やジアミド系などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が確認されている。

## 5. 防除対策

- 1) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はないが、植物防疫法第29条1項に基づく措置として、別紙に記載された農薬による防除を行う。なお、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- 2) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- 3) 被害葉や被害果は放置せず速やかに除去し、適切に処分する。

[写真1：神戸植物防疫所 原図]



写真1 誘殺されたトマトキバガ成虫



[写真2～5：熊本県病害虫防除所 原図]

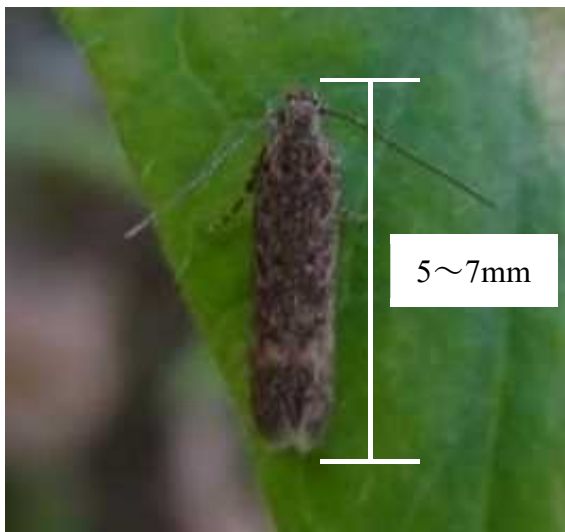


写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ幼虫



写真4 幼虫によるトマト被害葉



写真5 幼虫によるトマト被害果

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ トマト

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ エ類登録
アクリナトリン・スピロメシフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ビレスロイド系 ビレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	3回以内	3A	ビレスロイド系 ビレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和処理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半～定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6～9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作茶土壌混和	4～6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ビレスロイド系 ビレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ピリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		2回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ビレスロイド系 ビレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

## ○ ミニトマト

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン・スピロメ シフェン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	3A 23	ピレスロイド系 ピレトリン系 テトロン酸及びテトラ ミン酸誘導体	○	-
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150～300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	5回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000～2000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時～育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000～3000倍	1番花の開花まで	100～300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000～4000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000～2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

## ○ ピーマン

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェヌロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗後半~定 植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナビル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シベルメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作業土壌混和	4~6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ノバルロン乳剤	散布	3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		2回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン乳剤	散布	200倍	収穫前日まで	100~300mL/m <sup>2</sup>	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ベルメトリン乳剤	散布	300倍	収穫前日まで	100~300mL/m <sup>2</sup>	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
脂肪酸グリセリド・スピ ノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ なす

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
アクリナトリン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	22A	オキサジアジン系	○	-
エマメクチン安息香酸塩・ クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 28	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ジアミド系	○	○
エマメクチン安息香酸塩・ ルフェスロン水和剤	散布	1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6 15	アベルメクチン系 ミルベマイシン系 ベンゾイル尿素系	○	○
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェンジド水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当り25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロラントラニプロール 粒剤	株元散布	1g/株	育苗期後半~定 植時		1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール・ チアメトキサム粒剤	株元散布	2g/株	鉢上げ時~育苗 期後半		1回	28 4A	ジアミド系 ネオニコチノイド系	○	○
シアントラニプロール水 和剤	灌注	400株当り25ml	育苗期後半~定 植当日	400株当り10~20L(1 株当り25~50ml)	1回	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
スピノサド水和剤	散布	5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又は 作条土壌混和	4~6kg/10a	は種時又は定植 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
テトラニプロール水和剤	灌注	200倍	育苗期後半~定 植当日	25ml/株	1回	28	ジアミド系	○	○
テトラニプロール水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ノバルロン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ビフェントリンくん煙剤	くん煙	くん煙処理室の 容積400m <sup>3</sup> (床面 積200m <sup>2</sup> ×高さ 2m)当り48g	収穫前日まで		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ビリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	UN		○	○
フェンバレレート・マラソ ン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A 1B	ピレスロイド系 ピレトリン系 有機リン系	○	-
フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミドくん煙剤	くん煙	くん煙室容積 400m <sup>3</sup> (床面積200 m <sup>2</sup> ×高さ2m)当り 50g	収穫前日まで		3回以内	28	ジアミド系	○	-
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
メトキシフェンジド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアシル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レビメクチン乳剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
還元澱粉糖化物・クロチア ニジン・ビリダリル・ベル メトリン・マンデストロピ ン水和剤	散布	原液	収穫前日まで		3回以内	4A 3A UN	ネオニコチノイド系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
脂肪酸グリセリド・スピノ サド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○

○ ばれいしょ

農業の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ エ類登録
NA C水和剤	散布	800~1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	1A	カーバメート系	○	-
P A P乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
P A P粉剤	散布	3kg/10a	収穫14日前まで		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセタミプリド水溶剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	4A	ネオニコチノイド系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1000倍	収穫30日前まで	100~300L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
カルタップ水溶剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	6回以内	14	ネライストキシン類緑 体	○	○
カルタップ粉剤	種いも粉衣	種いも重量の 0.3%	植付前		1回	14	ネライストキシン類緑 体	○	-
シアントラニリブロール水 和剤	無人航空機によ る散布	40倍	収穫7日前まで	2~3.2L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
シアントラニリブロール水 和剤	散布	4000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ダイアジノン粒剤	全面土壌混和又 は作条土壌混和	4~6kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
トラロメトリン水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
プロフェノホス乳剤	散布	1500倍	収穫7日前まで		6回以内	1B	有機リン系	○	-
ベルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		4回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	5回以内	1A	カーバメート系	○	-
メソミル粉粒剤	散布	3~5kg/10a	収穫7日前まで		5回以内	1A	カーバメート系	○	-
ルフエヌロン乳剤	散布	3000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ さやいんげん

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
MEP乳剤	散布	1000倍	収穫21日前まで	100~300L/10a	4回以内	1B	有機リン系	○	○
PAP乳剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	1回	1B	有機リン系	○	○
エトフェンブロックス乳剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
クロラントラニプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
クオルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
シアントラニプロール水和剤	散布	4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルキサメタミド乳剤	散布	2000~3000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンシアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	3000倍	収穫14日前まで	100~300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
マラソン乳剤	散布	1000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	3回以内	1B	有機リン系	○	○
マラソン粉剤	散布	3kg/10a	収穫7日前まで		3回以内	1B	有機リン系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ ほおずき

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
DEP乳剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	1B	有機リン系	○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	-	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
BT水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	-	11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生産殺虫タンパク質	○	-
MEP乳剤	散布	1000倍	-	100~300L/10a	6回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	1B	有機リン系	○	○
イソキサチオン粉粒剤	作条処理 土壌混和	6kg/10a	定植時		1回	1B	有機リン系	○	-
エマメクテン安息香酸塩乳剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	6	アベルメクシン系 ミルペマイシン系	○	○
テフルベンズロン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	UN		○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	生育初期		6回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メタフルミゾン粒剤	株元散布	3~6kg/10a	生育期		6回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	28	ジアミド系	○	-
アセフェート粒剤	株元散布	6kg/10a	発生初期		5回以内	1B	有機リン系	○	○
シハロトリン乳剤	散布	4000倍	-	100~300L/10a	3回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
テトラニリブロール水和剤	散布	2500~5000倍	発生初期	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
テブフェノジド水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	18	ジアシル-ヒドラジン系	○	-
トルフェンピラド・メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	4回以内	21A 22B	METI剤 セミカルバゾン系	○	○
メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	5回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	発生初期	100~300L/10a	6回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
スピネトラム水和剤	散布	2500~5000倍	発生初期	100~300L/10a	2回以内	5	スピノシン系	○	○



## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ たばこ

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
BT水和剤	散布	1000~2000倍	発生初期(但し収 穫3日前まで)	25~180L/10a	4回以内	11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生産 殺虫タンパク質	○	-
MEP乳剤	散布	1000倍	収穫20日前まで	25~180L/10a	1回	1B	有機リン系	○	○
NAC粒剤	株元散布	3~6kg/10a	移植時		1回	1A	カーバメート系	○	-
PAP粉剤	散布	3~5kg/10a	-		2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水溶剤	散布	1500~2500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート水和剤	散布	1500~2500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
アセフェート粒剤	作条散布後土壌 混和	3~6kg/10a	移植前		1回	1B	有機リン系	○	○
アラニカルブ乳剤	散布	1000~1500倍	発生初期~収穫 10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1A	カーバメート系	○	-
イソキサチオン乳剤	散布	1000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
イソキサチオン粉剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
イソキサチオン粉粒剤	土壌表面散布土 壌混和处理	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
イソキサチオン粒剤	株元処理	3kg/10a	植付時		1回	1B	有機リン系	○	-
インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	1回	22A	オキサジアジン系	○	-
エトフェンブロックス乳剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
クロラントラニプロール 水和剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	1回	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	4000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	○
シハロトリン水和剤	散布	2000~3000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
シフルトリン乳剤	散布	2000~3000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
シペルメトリン乳剤	散布	2000~3000倍	発生初期~収穫 10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ジメトエート・フェンパレ レート乳剤	散布	3000倍	収穫10日前まで	100~180L/10a	2回以内	1B 3A	有機リン系 ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	植付前		1回	1B	有機リン系	○	-
ピフェントリン水和剤	散布	1500倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
プロチオホス乳剤	散布	1000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1B	有機リン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	定植時		1回	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メソミル水和剤	散布	1000~2000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	1A	カーバメート系	○	-
メタアルデヒド・NAC粒剤	株元散布	3~4kg/10a	移植後		1回	1A	カーバメート系	○	-
メタフルミゾン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫10日前まで	25~180L/10a	2回以内	22B	セミカルバゾン系	○	-

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ とうがらし

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロラントラニプロール水和 剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300・/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当たり25mℓ	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~9kg/10a	は種時又は植付 時		2回以内	1B	有機リン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	収穫開始7日前ま で		2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○

## トマトキバガに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はトマトキバガに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○ ししとう

農薬の種類	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	散布液量	本剤の 使用回数	RAC コード	系統名	チョウ目 登録	ハモグリバ 工類登録
エマメクチン安息香酸塩乳 剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○
クロマフェノジド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	18	ジアニル-ヒドラジン 系	○	-
クロラントラニプロール水和 剤	散布	1000~2000倍	収穫前日まで	100~300・/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
	灌注	100倍	育苗期後半~定 植当日	1株当たり25ml	1回	28	ジアミド系	○	○
クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルラミド	○	○
クロルフルアズロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	-
シアントラニプロール水 和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	28	ジアミド系	○	○
ダイアジノン粒剤	土壌混和	6~8g/m <sup>2</sup>	植付時		1回	1B	有機リン系	○	-
ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	UN		○	○
フルフェノクスロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
フルベンジアミド水和剤	散布	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	28	ジアミド系	○	-
ペルメトリン乳剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100~300L/10a	2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	○
ペルメトリン粒剤	株元散布	3kg/10a	収穫開始7日前ま で		2回以内	3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	○	-
メトキシフェノジド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内	18	ジアニル-ヒドラジン 系	○	-
ルフェヌロン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内	15	ベンゾイル尿素系	○	○
レピメクチン乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内	6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	○	○

令和4年11月21日

令和4年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：サツマイモ基腐病

2. 病原菌名：*Diaporthe destruens*

3. 発生確認の経過および県外での発生状況

令和4年10月、串本町のサツマイモ栽培ほ場において、茎の地際部が黒色に変色し、塊根の成り首側が腐敗した株が確認された（図1、2）。株を採取して農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、本県未発生の基腐病であった。

国内において、本病は平成30年に沖縄県で初めて発生が確認された。現在、28都道府県で発生が確認されており、近隣では、大阪府、兵庫県、徳島県で確認されている。

4. 病徴および発生生態

1) 発病すると葉が赤変、黄変し生育不良となる。茎は地際部から、暗褐色～黒色に変色する（図1）。その後、茎葉の枯死や塊根の成り首側の腐敗が生じ（図2）、腐敗は次第に塊根全体に広がる。収穫時には健全に見えた塊根が貯蔵中に腐敗することもある。

2) 発病株では、表層に微少な黒点粒状の柄子殻が形成される（図3）。柄子殻から漏出した胞子は、風雨やほ場の停滞水によって周辺株に広がって感染する。

3) 罹病したつるや塊根で伝搬する。また、植物残さ上で越冬し、翌年の伝染源となる。

4) 本ほ場で茎葉が繁茂する時期は株の異常に気付きにくい。このため、収穫時期が近づき、茎葉の生育が衰える頃になって枯れ上がったように見える場合が多い。

5) 本菌の宿主はヒルガオ科植物（サツマイモを含む）である。

5. 防除対策

1) 本病の未発生ほ場で生産された健全種苗を使用する。

2) 未消毒の苗を使用する場合は、適用のある農薬で消毒する（表1）。

3) 発病株（茎葉や塊根）は速やかに抜き取り、適切に処分する。その後、周辺株への感染予防のため登録農薬（表1）を散布するとともに、以降も新たな発病株がないか注意する。また、収穫後の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。

4) 発生ほ場では、次作の植付前に土壌消毒を行う（表1）。

5) 発生ほ場で使用した農機具や資材は、洗浄や消毒を十分に行う。

6) 排水不良なほ場で発生しやすいため、排水対策を十分に行う。

7) 多発ほ場ではサツマイモの連作を避け、ヒルガオ科植物以外の作物を栽培する。

8) 詳細は、農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)のマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」を参照する（[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator03.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf)）。



図1 地際部の黒変



図2 塊根の断面（左が成り首側）



図3 地際部の茎に生じた柄子殻

表1 サツマイモ基腐病の登録農薬（令和4年11月現在）

農薬名（有効成分名）	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数※
<b>&lt;種いも・苗浸漬&gt;</b>				
トップジンM水和剤（チオファネートメチル）	30分間採苗用種いも浸漬	200～500倍	貯蔵前～伏せ込み前	1回
ベンレートT水和剤20（チウラム・ベノミル）	30分間苗浸漬	200倍	植付前	1回
ベンレート水和剤（ベノミル）	30分間苗浸漬	500～1000倍	植付前	1回
トリフミン水和剤（トリフルミゾール）	17時間苗基部浸漬	500倍	植付前	1回
<b>&lt;本ぼ&gt;</b>				
トリフミン水和剤（トリフルミゾール）	散布	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内
ジーファイン水和剤（炭酸水素ナトリウム・銅）	散布	1000倍	収穫前日まで	-
アミスター20フロアブル（アゾキシストロピン）	散布	2000倍	収穫14日前まで	3回以内
Zボルドー（銅）	散布	500倍	-	-
<b>&lt;土壌消毒&gt;</b>				
フロンスайд粉剤（フルアジナム）	全面土壌混和	40kg/10a	植付前	1回
フロンスайдSC（フルアジナム）	全面散布土壌混和	500ml/10a	植付前	1回
バスタード微粒剤（ダゾメット）	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	30kg/10a	植付21日前まで	1回
ガスタード微粒剤（ダゾメット）	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	30kg/10a	植付21日前まで	1回
キルパー（カーバマナトリウム塩）	前作の作物残渣を含む土壌表面に所定量の薬液を散布し、直ちに混和し鎮圧又は被覆する。	原液として 60L/10a	前作の栽培終了後から植付の15日前まで	1回

※ ただし、同一の有効成分を含む農薬の総使用回数を超過しないよう注意する。

和歌山県農作物病虫害防除所  
電話：0736(64)2300

## 2) 注意報

令和4年4月20日

### 令和4年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：タマネギべと病
2. 対象作物：タマネギ（中生～晩生）
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：やや多～多
5. 発生時期：2～6月
6. 注意報発表の根拠

タマネギべと病越年罹病株（図1）の発生が多く、3月22日付けで令和3年度病害虫発生予察注意報（第4号）を発表したところであるが、4月中旬の調査において二次感染株（図2）の発生がやや多く認められた。

- 1) 4月中旬の県北部における二次感染株の発生ほ場率は43%（平成29%）、発病株率は3.4%（平成1.2%）と平年に比べてやや高い。発生ほ場率は40%を超えており、発病株率は前年より高い（表1）。
- 2) 本病は、気温が15℃前後で降雨が多いときに発生が多くなる。大阪管区气象台より発表された1か月予報（予報期間：4月16日～5月15日）によると、降水量が平年並または多い確率ともに40%の見込みであり、今後の気象条件により本病の多発生が懸念される。

表1 4月中～下旬の県北部におけるタマネギべと病二次感染株の発生状況

	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和4年 (本年)	平年
発生ほ場率(%)	27	43	33	39	50	5	11	13	23	47	43	29
発病株率(%)	0.4	0.4	0.1	3.4	4.2	0.1	1.5	0.2	0.7	1.0	3.4	1.2

注) 調査場所：平成24～令和3年は和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町。令和4年は岩出市、紀の川市、かつらぎ町  
平年：平成24～令和3年の4月中～下旬における調査の平均

## 7. 防除上の注意事項

- 1) ほ場をこまめに見回り、発病葉を除去して早急に薬剤散布を行う。除去した発病葉は、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。また、収穫後の発病葉は翌年の発生源となるので、集めてほ場の外に持ち出し適切に処分する。
- 2) 分生胞子の飛散による感染拡大を防ぐため、発生が認められないほ場においても予防散布を徹底する。
- 3) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 4) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
- 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300



図1 タマネギベと病越年罹病株

※越年罹病株：10～12月頃苗床やほ圃で感染し、翌年の2～3月頃に発病が認められる株。葉の光沢がなくなり黄化・湾曲し、生育が悪く草丈が低くなることが多い。



図2 タマネギベと病二次感染株の病斑

※二次感染株：越年罹病株上に形成された分生胞子により感染し発病した株。葉に淡黄色の楕円形～長卵形の病斑を生じる。また、二次感染株上にも分生胞子が作られ、適した条件になると分生胞子による感染と発病を繰り返す。4～5月に発生が多くなる。

令和4年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：クビアカツヤカミキリ
2. 対象作物：スモモ・モモ・ウメ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：前年比 多
5. 発生時期
  - 1) 幼虫の排出するフラス（糞と木くずが混ざったもの）：3月下旬～10月
  - 2) 成虫：5月下旬～8月中旬
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 県北部における令和4年4月末現在の被害確認園地数は158園地（前年比3.0倍）、被害確認本数は533本（前年比2.1倍）と被害が急速に拡大している（表1）。
  - 2) 成虫の年間移動距離は平均で約2kmといわれている。本種が食入した木材の運搬や自動車への付着など、意図しない人為的要因により飛び地状に分布が拡大する可能性がある。
  - 3) 成虫の発生盛期は6月中下旬～8月上旬であり、羽化した成虫は多数の卵を産み続けるためこの時期に防除を徹底する必要がある。

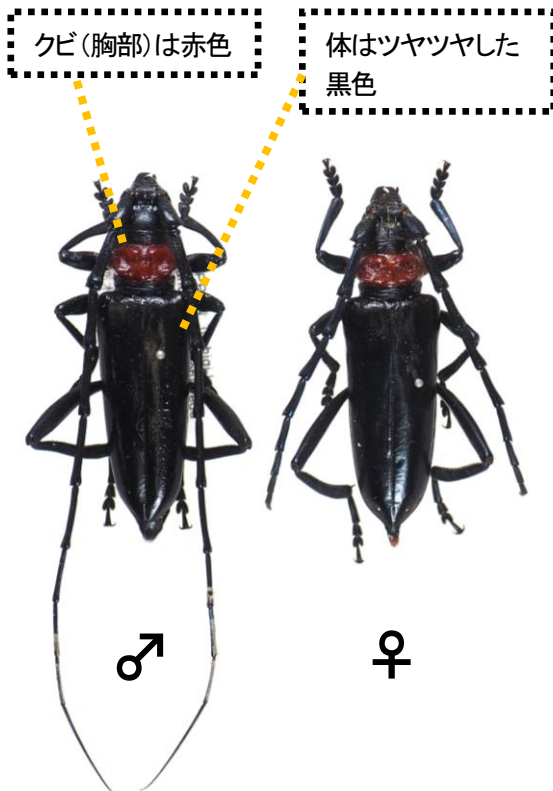


写真1 クビアカツヤカミキリの成虫



写真2 樹幹から排出された大量のフラス  
（かつらぎ町スモモ園：令和3年3月撮影）  
現在は全樹伐採



表1 和歌山県におけるクビアカツヤカミキリ被害確認数の推移

市町名	樹種	令和2年5月末		令和3年5月末		令和4年4月末 <sup>*1</sup>	
		園地数	被害本数	園地数	被害本数	園地数	被害本数
かつらぎ町	スモモ	4	18	16	143	36	226
	モモ	6	18	17	65	40	139
	ウメ	2	7	8	20	11	30
橋本市	スモモ	- <sup>*2</sup>	-	4	7	12	33
	モモ	-	-	1	2	18	23
	ウメ	-	-	1	1	15	25
九度山町	スモモ	-	-	-	-	1	1
紀の川市	モモ	-	-	3	8	7	21
	ウメ	-	-	-	-	2	9
岩出市	モモ	1	2	2	4	4	6
	ウメ	-	-	-	-	3	8
和歌山市	スモモ	-	-	-	-	4	5
	モモ	-	-	-	-	3	5
	ウメ	-	-	-	-	2	2
計		13	45	52	250	158	533

\*<sup>1</sup> 令和4年5月末の値は現在集計中

\*<sup>2</sup> -は未確認

## 7. 防除上の注意事項

1) 果樹園内を定期的に見回り、できるだけ早期に被害を発見し対策を行う。被害が確認された園地やその周辺園地では「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル(暫定版) [https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085\\_d/fil/manual.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/d00204085_d/fil/manual.pdf)」を参考に以下の防除を徹底する。



防除対策  
マニュアル

- (1) 成虫は見つけ次第捕殺する。
  - (2) 成虫発生盛期の6月中下旬～8月上旬にクビアカツヤカミキリに適用のある薬剤(表2)を10～14日間隔を目安に散布する(収穫後も防除を継続する)。その際、葉だけでなく幹や枝にも薬液がかかるように散布する。
  - (3) 幼虫はマイナスドライバーやクジリ等で掘り取るか、針金で刺殺する。掘り取りや刺殺ができなかった場合はスプレー式の農薬を食入孔に噴射する。
  - (4) 被害樹の枝幹には、羽化成虫の分散防止のため成虫発生時期(5月下旬～8月中旬)に目合い4mm以下のネットを2重に巻き付ける。ネットを樹皮に密着させると成虫がネットをかみ切るので、ネットと樹皮の間に余裕を持たせ空間を作る。ただし、羽化成虫はネット内部で交尾・産卵したり、ネットをかみ切り隙間から脱出したりする場合もあるので、ネット設置後も定期的に見回り捕殺する必要がある。
  - (5) 被害が激しい樹は、幼虫を全滅させるのが困難で早期の枯死が予想されるため、成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に伐採(抜根)し、被害拡大を防止する。伐採樹は放置せず、粉碎(10mm以下)または焼却処理する。なお、本種は特定外来生物に指定されているため、保管や移動に規制がかかるので注意する。
- 2) サクラも本種の発生源となるので、サクラの被害にも注意する。
- 3) 本種の成虫やフラスを見つけた場合は、直ちに農作物病害虫防除所もしくは管轄する各振興局農業水産振興課に連絡する。

表2 クビアカツヤカミキリに使用可能な農薬一覧（令和4年6月17日現在）  
（使用時期が収穫前日までの薬剤の背景を色付け）

成虫対象

作物名	IRACコード	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用方法	本剤の使用回数
もも	1A	オリオン水和剤40	成虫発生期 (但し、収穫14日前まで)	1000倍	散布	2回以内
	1B	スミチオン乳剤	成虫発生初期 (但し、収穫3日前まで)	1000倍	散布	6回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫21日前まで	1500倍	散布	2回以内
	1B	スプラサイドM	収穫60日前まで	200倍	樹幹部及び主枝に散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	3回以内
	21A	ハチハチフロアブル	成虫発生期 (但し、収穫前日まで)	1000倍	散布	2回以内
	28	テツパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
すもも	1A	オリオン水和剤40 <sup>*1</sup>	成虫発生期 (但し、収穫7日前まで)	1000倍	散布	3回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤 <sup>*1</sup>	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	28	テツパン液剤 <sup>*2</sup>	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
うめ	1A	オリオン水和剤40	成虫発生期 (但し、収穫7日前まで)	1000倍	散布	3回以内
	1B	スミチオン乳剤	成虫発生初期 (但し、収穫14日前まで)	1000倍	散布	2回以内
	1B	スプラサイド水和剤	収穫14日前まで	1500倍	散布	2回以内
	4A	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内
	4A	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
	22B	アクセルフロアブル	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
	28	テツパン液剤 <sup>*2</sup>	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
果樹類	—	バイオリサ・カミキリ <sup>*3</sup> (生物農薬)	成虫発生初期	1樹当たり1本	地際に近い主幹の分枝部分に架ける	—

\*1 小粒核果類(うめを除く)に適用がある

\*2 小粒核果類に適用がある

\*3 カミキリムシ類に適用がある

幼虫対象

IRACコード	農薬の名称	主な適用作物名	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
3A	ロビンフッド <sup>*4</sup> (スプレー式)	もも、すもも、うめ、おうとう	収穫前日まで	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	5回以内
—	バイオセーフ (生物農薬)	もも、うめ	幼虫発生期	2500万頭(約10g)	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—

\*4 カミキリムシ類に適用がある

くん蒸剤

IRACコード	農薬の名称	主な適用作物名	くん蒸時間	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
8F	キルパー40	もも、すもも、うめ (伐倒木、枯損木)	14日間以上	被覆内容積1m <sup>3</sup> あたり 原液750~1500ml	加害された伐倒木を集積したも のまたは枯損木に所定量量を 散布し、直ちにビニール等で密 閉し所定期間くん蒸する	1回
8F	NCS	もも、すもも、うめ(伐倒木)	14日間以上	被覆内容積1m <sup>3</sup> あたり 原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤 を散布し、直ちにビニール等で密 閉し、くん蒸する	1回

和歌山県農作物病害虫防除所（紀の川駐在）  
電話：0736(73)2274

令和4年7月14日

令和4年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：モモ、カキ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 加害期間：5月中旬～
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 紀の川市粉河の予察灯における6月26～30日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが384頭（平成59.8頭）、ツヤアオカメムシが114頭（平成50.6頭）、7月1～5日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが253頭（平成94.9頭）、ツヤアオカメムシが118頭（平成35.6頭）であった（図1、図2）。
7. 防除上の注意事項
  - 1) ほ場内への多飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。
  - 2) 山林に隣接するほ場では飛来が多く、集中して加害される傾向があるので、特に注意する。
  - 3) 台風通過後や強風後には、一時的にはほ場への飛来が多くなる可能性があるため注意する。
  - 4) 有田川町奥、みなべ町東本庄の予察灯への飛来量は平年に比べてやや多いので、県中部、県南部も今後の発生に注意する。
  - 5) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報  
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>) や各地域の振興局、JA等の情報を参考にする。
  - 6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

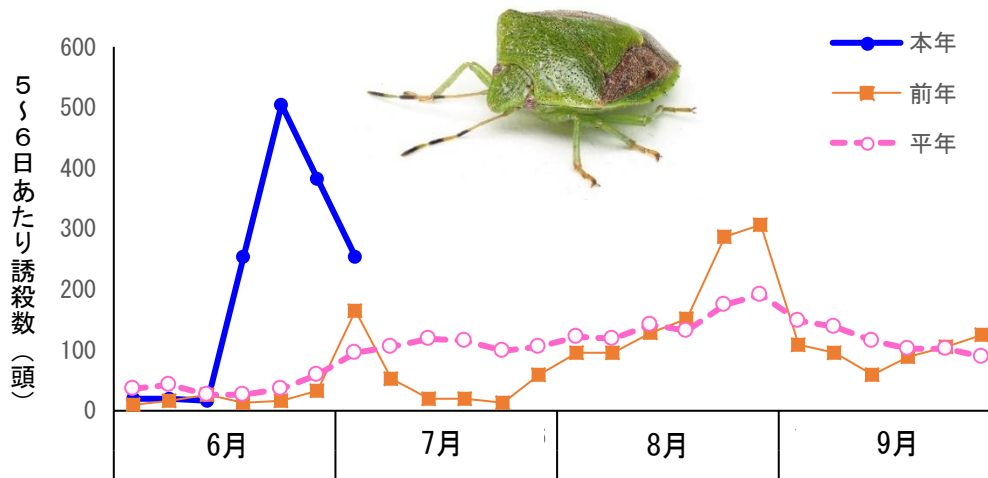


図1 紀の川市粉河の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

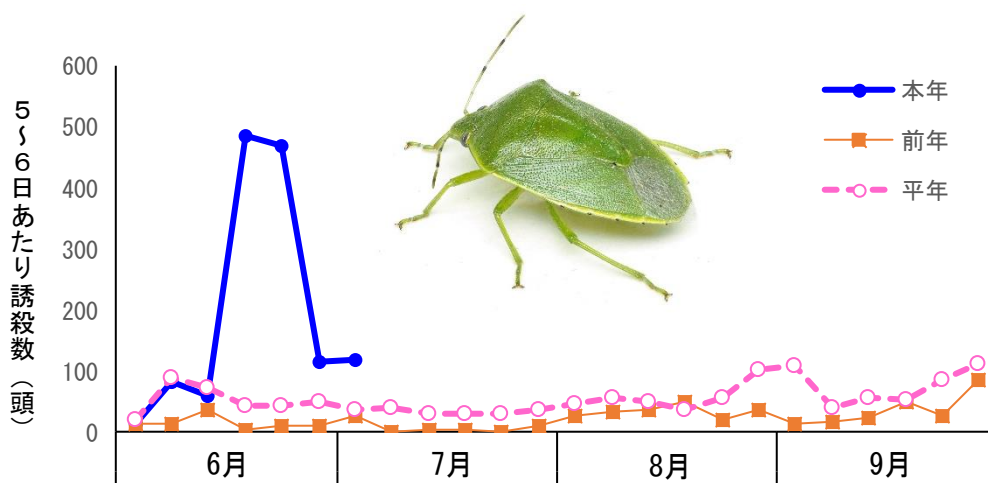


図2 紀の川市粉河の予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺消長

和歌山県農作物病虫害防除所 紀の川駐在  
電話：0736(73)2274

令和4年8月26日

令和4年度病害虫発生予察注意報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：カキ、カンキツ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
3. 対象地域：県北部、県中部、県南部
4. 発生量：多
5. 加害期間：5月中旬～
6. 注意報発表の根拠

果樹カメムシ類については7月14日付けで、県北部のモモ・カキ・ナシ・ブドウ・キウイフルーツを対象に病害虫発生予察注意報（第3号）を発表したところであるが、依然として平年を上回る飛来が認められている。また、8月以降、県中部、県南部においても多発傾向である。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1167頭（平年511.1頭）（図1）、ツヤアオカメムシが568頭（平年190.5頭）（図2）であった。
  - 2) みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1899頭（平年1030.0頭）（図3）、ツヤアオカメムシが899頭（平年519.3頭）（図4）であった。
7. 防除上の注意事項
    - 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きい。ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
    - 2) 山林に隣接するほ場では飛来が多く、集中して加害される傾向がある。
    - 3) カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生ウンシュウミカンで被害が大きい。
    - 4) 台風通過後や強風後には、一時的にはほ場への飛来が多くなることがあるので注意する。
    - 5) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。

6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>) を参照し、適正に使用する。特に収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

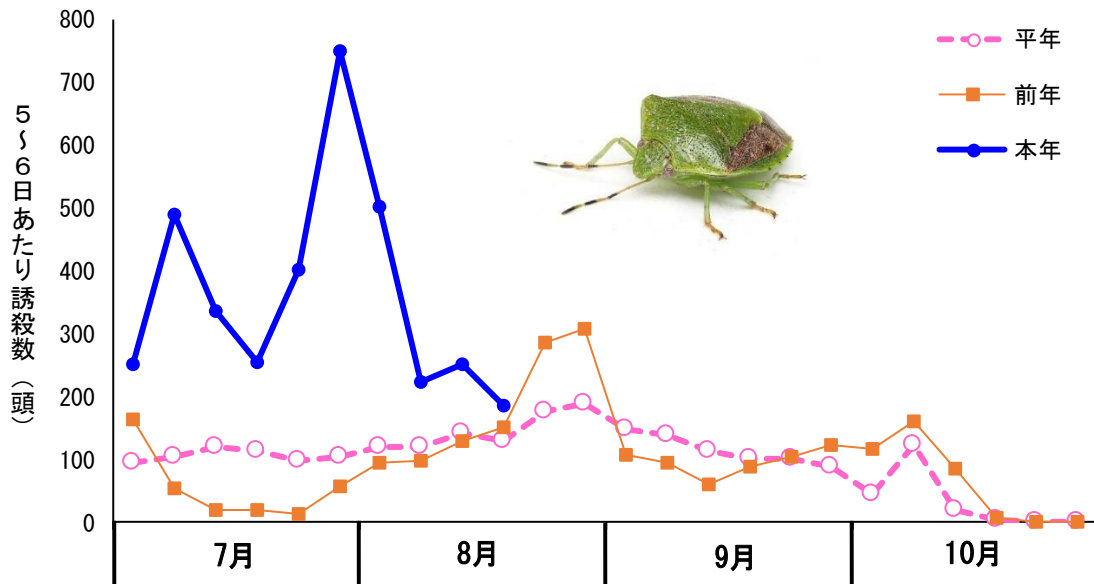


図1 紀の川市粉河の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

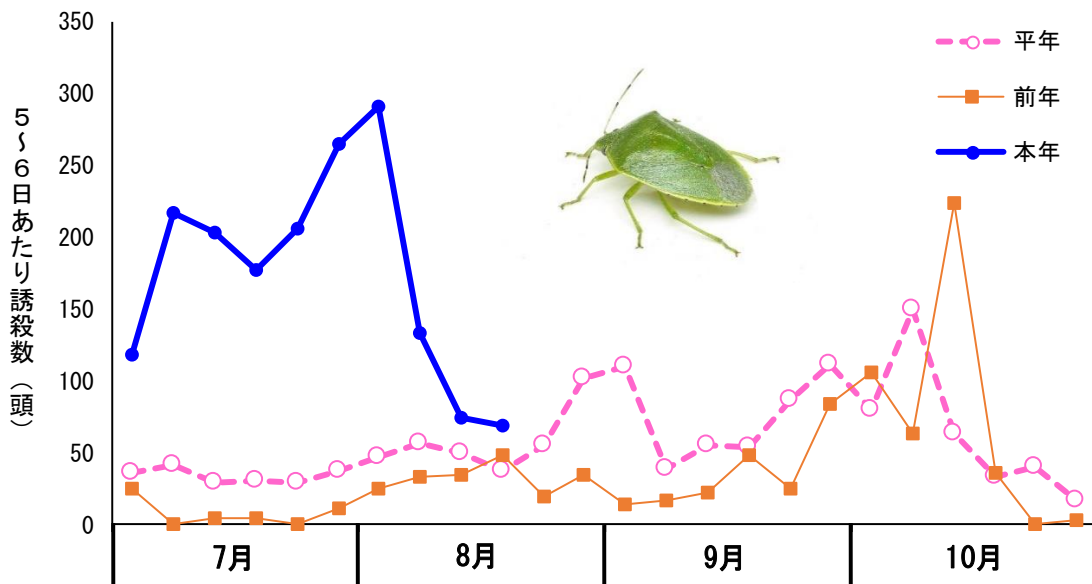


図2 紀の川市粉河の予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺消長

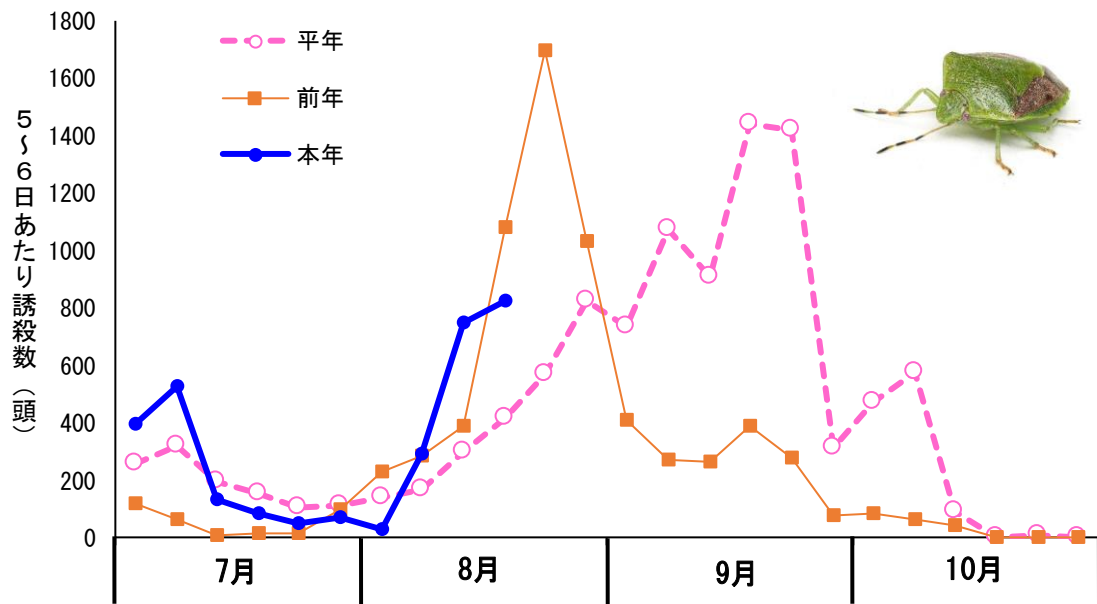


図3 みなべ町東本庄の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

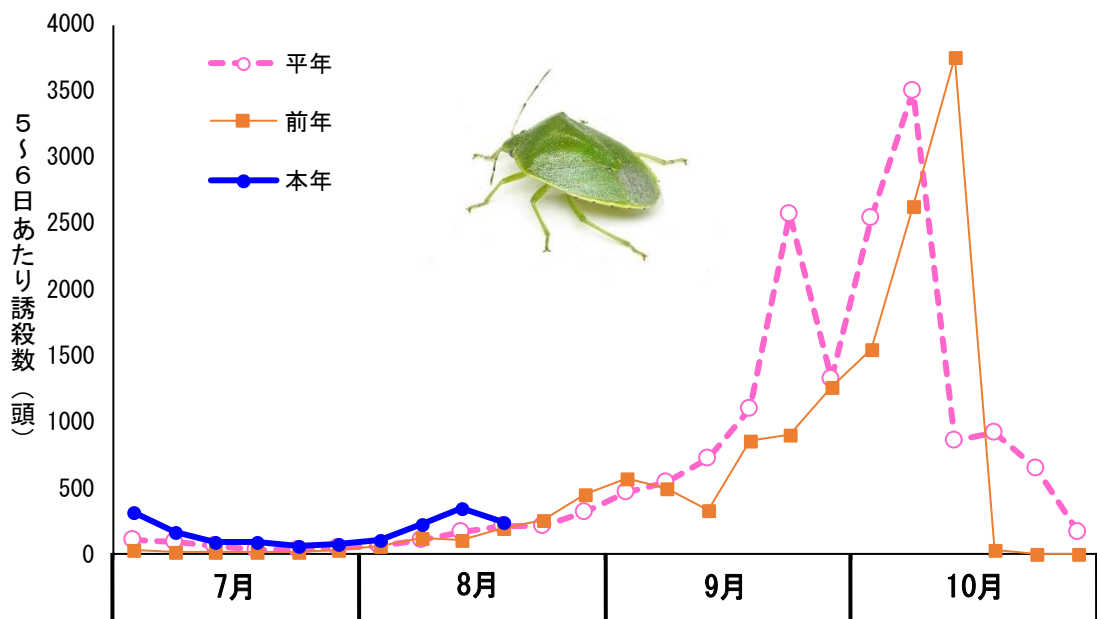


図4 みなべ町東本庄の予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺消長

和歌山県農作物病虫害防除所 紀の川駐在(0736-73-2274)  
有田川駐在(0737-52-4320)

令和4年10月28日

令和4年度病害虫発生予察注意報（第5号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ウラナミシジミ
2. 対象作物：サヤエンドウ、実エンドウ
3. 対象地域：日高地域
4. 発生量：多
5. 発生時期：9月～11月
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 10月下旬の日高地域（御坊市、印南町）の露地栽培エンドウ類での発生状況は以下のとおりである。
    - ①被害発生ほ場率は93%（平成67%）、被害株率は34.0%（平成23.9%）と平年に比べて高い。被害さや率は11.2%であり、多発した平成28年（15.2%）と同程度である。
    - ②1花あたりの卵数は0.32個（平成0.18個）と平年に比べて多い。
  - 2) 大阪管区气象台の発表によると、向こう1か月（10月22日～11月21日）の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%である。このことから例年に比べて被害が長期化するおそれがある。
7. 防除上の注意事項
  - 1) 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し適切に処分する。
  - 2) 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。
  - 3) トレボン乳剤、アディオオン乳剤、パダンSG水溶剤は、1齢幼虫のさやへの食入阻止効果が高い。
  - 4) 防除資料として、農業試験場ニュース125号  
([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125\\_d/fil/noushinews\\_125\\_mushi.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125_d/fil/noushinews_125_mushi.pdf))を参照する。
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)を参照し、適正に使用する。



写真1 花や蕾に産卵する  
ウラナミシジミ成虫



写真2 蕾に産卵された卵と  
1 齢幼虫（直ぐにさやに食入）



写真3 さやを食害する  
幼虫

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300



### 3) 防除技術情報

令和4年5月27日

#### 令和4年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

#### カキ炭疽病の発生状況と防除対策について

5月中旬現在、カキ炭疽病（写真1）の発生が一部地域で多い傾向です。今後、本病の発生に好適な気象条件となった場合、さらに発生量が増加することが予想されるため、前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場では、防除を徹底しましょう。

1. 病害虫名：カキ炭疽病
2. 対象作物：カキ
3. 対象地域：県北部
4. 予想発生量：やや多
5. 発生時期：5～11月
6. 発生状況等

- 1) 前年10月の「富有」の発生ほ場率は59%（平成47%）と平年に比べやや高く、発病果率は7.5%（平成2.7%）と平年に比べ高かった（図1）。
- 2) 本年5月の「富有」の発生ほ場率は6%（平成2%）、発病新梢率は0.7%（平成0.1%）といずれも平年に比べやや高かった（図2）。
- 3) 本病菌の胞子の発芽適温は25℃前後で、枝や果実の病斑上に形成された胞子が降雨のたびに飛散して感染が広がる。5月19日発表の近畿地方1か月予報によると、平均気温はほぼ平年並の見込み、降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発病に好適な条件となる可能性がある。また、近畿地方の梅雨入り時期は平成6月6日ごろである。

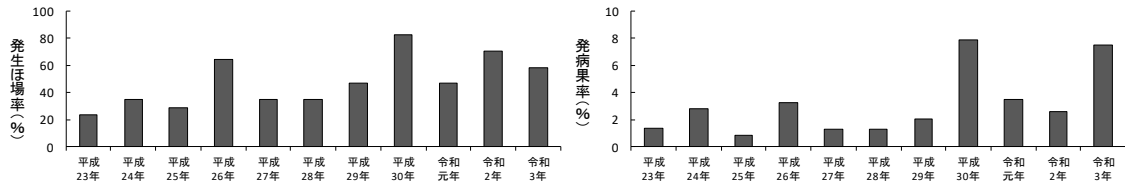


図1 カキ炭疽病の10月の発生状況(左:発生ほ場率、右:発病果率)  
品種:「富有」、調査ほ場数:17ほ場

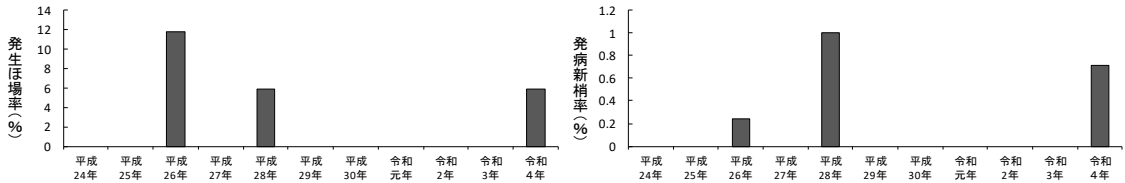


図2 カキ炭疽病の5月の発生状況(左:発生ほ場率、右:発病新梢率)  
品種:「富有」、調査ほ場数:17ほ場



写真1 カキ炭疽病による新梢の病斑

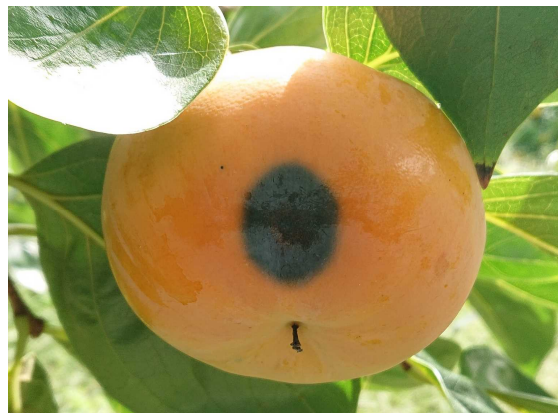


写真2 カキ炭疽病による収穫期の果実の被害(参考)

#### 7. 防除上の注意事項

- 1) 発病枝や発病果実は伝染源になるため、見つけ次第切除してほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 2) 防除適期は6月上旬～7月中旬と8月下旬～9月下旬である。前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場では、特に防除を徹底する。また、降雨が続くと予想される場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は降雨後速やかに散布する。
- 3) 同一系統の薬剤（QoI 剤及びベンゾイミダゾール系）の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。
- 5) 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。
- 6) 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、環境改善に努める。

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在  
電話：0736(73)2274

令和4年5月27日

令和4年度病虫害防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病虫害防除所

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ）の発生に注意して下さい

県北部の一部のモモ栽培ほ場等で多数の果樹カメムシ類の飛来が確認されています。果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行いましょう。

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：モモ、スモモ、ウメ、カキ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
3. 対象地域：県北部
4. 加害期間：5月中旬～
5. 防除上の注意事項
  - 1) 山林に隣接するほ場では飛来時期が早く、集中して加害される傾向があるので、特に注意が必要である。
  - 2) 台風通過後や強風後には、一時的に発生が多くなることがあるので注意する。
  - 3) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報  
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。
  - 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に収穫に近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

和歌山県農作物病虫害防除所 紀の川駐在  
電話：0736(73)2274

令和4年度病害虫防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

イネ紋枯病の発生状況について

県北部および県中部の普通期水稻において紋枯病の発生が平年より多く認められ、8月中旬から病勢が急激に進展する可能性があります。また、大阪管区气象台発表の1か月予報（予報期間：8月13日～9月12日）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率60%の見込みです。本病は、高温（気温28～32℃）、多雨の時に多発するので、今後の気象条件により発生が更に拡大する可能性もあります。ほ場を見回り、観察と防除を徹底しましょう。

1. 対象作物 普通期水稻
2. 対象地域 県北部および県中部
3. 発生時期 7月～10月
4. 発生状況
  - 1) 8月上旬の普通期水稻における紋枯病は、減収などの被害に繋がる第3葉鞘以上の上位葉に発病は認められませんでした。発生ほ場率は42%（平年25%）、発病株率は14.8%（平年3.8%）と高い値でした（表1）。

表1 8月の普通期水稻における紋枯病の発生状況

	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年 (本年)	平年
発生ほ場率 (%)	4	25	38	42	21	33	38	8	25	21	42	25
発病株率 (%)	0.2	3.0	9.5	5.2	2.8	9.8	2.8	0.3	1.5	2.8	14.8	3.8

注) 平年：平成24～令和3年の平均

5. 防除上の注意事項
  - 1) 昨年に紋枯病の発生が多かったほ場や、密植、過繁茂なほ場では、本病が発生しやすいので注意しましょう。
  - 2) 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がります。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施してください。病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合には防除を実施してください。なお、防除を行う場合は、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意しましょう。
  - 3) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用してください。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

令和4年10月26日

令和4年度病害虫防除技術情報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

アブラナ科野菜のチョウ目害虫の発生に注意して下さい

県北部でチョウ目害虫の発生が増加しています。今後、幼虫による被害が拡大する可能性がありますので、ほ場内での発生および被害状況を確認し、防除は発生に応じて早急に行いましょう。



写真1 ハスモンヨトウ（卵・幼虫） 写真2 オオタバコガ（幼虫） 写真3 ヨトウガ（幼虫）

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ（写真1）、モンシロチョウ（アオムシ）、オオタバコガ（写真2）、ヨトウガ（写真3）
2. 対象作物：アブラナ科野菜
3. 対象地域：県北部
4. 加害時期：～11月
5. 発生状況

県北部のキャベツにおけるハスモンヨトウ、モンシロチョウ（アオムシ）、オオタバコガ、ヨトウガの10月中旬の発生ほ場率はそれぞれ50%（平成15%）、50%（平成10%）、38%（平成4%）、13%（平成1%）であった（図1）。

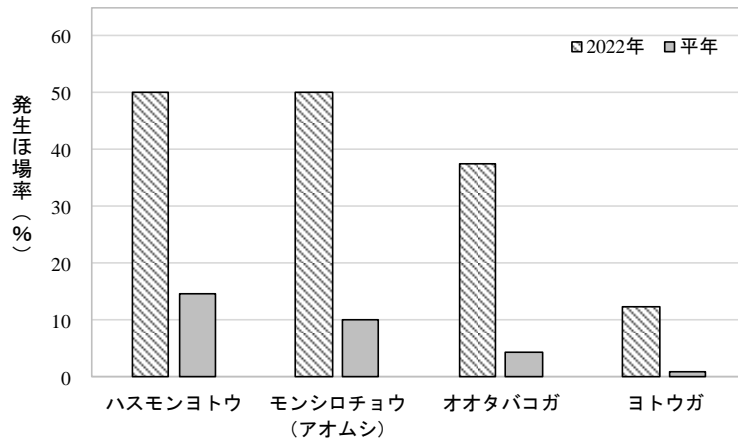


図1 10月の県北部のキャベツにおけるチョウ目害虫の発生

## 6. 防除対策

- 1) ほ場を見回り、チョウ目害虫の発生を確認したら直ちに防除する。
- 2) 幼虫は大きくなると薬剤感受性が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- 3) 薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

令和5年3月20日

令和4年度病害虫防除技術情報（第5号）

和歌山県農作物病害虫防除所

タマネギベと病の発生に注意して下さい

県北部のタマネギにおいて、べと病の越年罹病株の発生がやや多く認められました。気象予報（大阪管区气象台、令和5年3月16日発表）によると、向こう1か月の平均気温は高く、降水量も多い見込みです。このため、本病の感染に好適な気象条件になりやすいと考えられ、今後の発生増加が懸念されます。ほ場をよく観察し、防除を徹底しましょう。

1. 対象作物：タマネギ
2. 対象地域：県北部
3. 発生時期：2～6月
4. 発生状況：
  - 1) 3月の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株（写真1）の発生ほ場率は13%、発病株率は0.21%と、いずれも3月中～下旬の平年（発生ほ場率9%、発病株率0.10%）に比べてやや高かった（表1）。

表1 3月の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株の発生状況

	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和5年 (本年)	平年
発生ほ場率(%)	11	3	7	0	8	9	6	10	10	27	13	9
発病株率(%)	0.03	0.01	0.01	0	0.07	0.03	0.05	0.12	0.12	0.51	0.21	0.10

注) 調査場所：平成25～令和3年は和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町。令和4～5年は岩出市、紀の川市、かつらぎ町  
平年：平成25～令和4年の3月中～下旬における調査の平均

5. 防除上の注意事項：
  - 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすい。
  - 2) 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。気温が高く降水量が多い場合は、本病の発生および増加に注意する。
  - 3) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株（写真2）を確認した場合は発病葉を除去する。抜き取った株や発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
  - 4) 越年罹病株や二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
  - 5) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
  - 6) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
  - 7) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病越年罹病株

10～12月頃に苗床や本ぼで感染し、翌年の2～3月頃に発病が認められる株。葉の光沢がなくなり黄化・湾曲し、生育が悪く、草丈が低くなることが多い。



写真2 タマネギベと病二次感染株の病斑

越年罹病株上に形成された分生子により感染し発病する。葉に淡黄色の楕円形～長卵形の病斑を生じる。また、二次感染株上にも分生子が作られ、適した条件になると分生子による感染と発病を繰り返す。4～5月に発生が多くなる。



# 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## ＜予報の概要＞

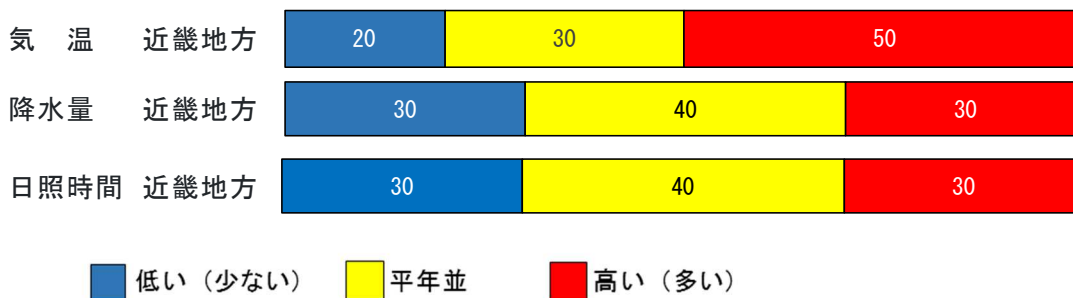
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ	やや多	野菜全般	灰色かび病	並
	ツマグロヨコバイ	やや多		アザミウマ類	並
タマネギ	白色疫病	少	カンキツ	かいよう病	並
	べと病	多		そうか病	並
エンドウ	褐紋病	少		ミカンハダニ	並
	うどんこ病	やや多	カキ	うどんこ病	並
キャベツ	コナガ	並	ウメ	かいよう病	並
キュウリ	べと病	並	果樹全般	カメムシ類	並
	褐斑病	少			
	タバココナジラミ	やや多			

## 気象予報

近畿地方 1か月予報（03/26～04/25）

2022年03月24日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 03/26～04/25	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 03/26～04/01	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 04/02～04/08	気温	2週目は、平年並の確率50%です。
3～4週目 04/09～04/22	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



## I. 水 稲

### 1. ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生時期 やや早  
発生量 やや多

#### (2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市7.3頭、成虫率79%（平成7.6頭、成虫率59%）、紀の川市18.5頭、成虫率95%（平成4.2頭、成虫率43%）、かつらぎ町1.5頭、成虫率67%（平成5.4頭、成虫率39%）であった。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介する。イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、休閑田や雑草地付近での育苗を避ける。  
② は種時（覆土前）～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。  
③ 田植え前から作期を通して、ヒメトビウンカの生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。

### 2. ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生時期 やや早  
発生量 やや多

#### (2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市15.8頭、成虫率97%（平成4.9頭、成虫率62%）、紀の川市7.3頭、成虫率95%（平成0.2頭、成虫率20%）、かつらぎ町16.0頭、成虫率92%（平成23.1頭、成虫率49%）であった。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① は種時（覆土前）～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。

※ 水稲害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野 菜

### <タマネギ>

#### 1. 白色疫病

- (1) 予報内容 発生量 少

#### (2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率25%、発病株率2.6%）であった。

- ② 4月の気象予報による

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に偏りがみられることがあるので、ほ場全体を見回り、発病が集中しているところは特に丁寧に薬剤散布を行う。  
② 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

#### 2. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 多

#### (2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の越年罹病株の発生ほ場率は27%（平成7%）、発病株率は0.51%（平成0.05%）であった。二次感染株の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率8%、発病株率0.1%）であった。
- ② 4月の気象予報による
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 前年の発生が多かったほ場では、本年も発生しやすいので注意する。
  - ② 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。
  - ③ ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。抜き取った株は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。
  - ④ 孢子飛散による感染拡大を防ぐため、発生が認められないほ場においても早期からの予防散布を徹底する。二次感染株が認められた場合は早急に薬剤散布を行う。
  - ⑤ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
  - ⑥ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
  - ⑦ 令和3年度病害虫発生予察注意報第4号（令和4年3月22日発表）を参照する。

## <エンドウ>

### 1. 褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培における3月中旬の発生ほ場率は0%（平成28%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 雨が多いと多発するので薬剤散布は早めに行う。
  - ② 多湿条件で発病が助長されるので、排水対策や通風対策に努める。

### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培での3月中旬の発生ほ場率は14%（平成2%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発生初期から薬剤防除を行う。

## <キャベツ>

### 1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率3%、1株当たり発生密度0.0頭）であった。
  - ② フェロモントラップによる3月1～20日の誘殺数は、和歌山市11頭（平成20.4頭）、紀の川市3頭（平成5.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ジアミド系、IGR剤などの薬剤は殺虫効果の低下が認められている。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は連用しない。

## <キュウリ>

### 1. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は27%（過去9年の平均29%）、発病葉率は6.2%（過去9年の平均6.0%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。

② 病原菌は気孔から侵入するので、薬液は葉の表裏にムラなくかかるように散布する。

③ 肥効が低下したり草勢が衰えたりすると発病が助長されるので、適切な肥培管理に努める。

④ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

### 2. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均：発生ほ場率37%、発病葉率6.1%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。

② 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

③ ボスカリド剤、チオファネートメチル剤、アゾキシストロビン剤に対する感受性低下菌が認められている。

### 3. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は46%（過去8年の平均26%）、生息葉率は6.1%（過去8年の平均1.7%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① タバココナジラミはウリ類退緑黄化ウイルスを媒介する。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

## <野菜全般>

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は0%（平年2%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトでの3月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均5%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設の湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。
- ② 発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。
- ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

## 2. アザミウマ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培イチゴでの3月中旬の発生ほ場率は、ヒラズハナアザミウマ13%（過去6年の平均10%）、ミカンキイロアザミウマ0%（平年0%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は、ミナミキイロアザミウマ0%（過去8年の平均16%）、ミカンキイロアザミウマ9%（過去8年の平均2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 初発日 やや早  
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）の3月中旬における春葉の越冬病斑の発病葉率は19.0%（平年10.6%）であった。
- ② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は11%（平年20%）、発病葉率は0.1%（平年0.7%）であった。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種植栽ほ場や常発ほ場では、伝染源となる罹病枝葉の剪除や防風施設の整備に努めるとともに、新梢伸長期に銅水和剤（葉害軽減のための措置を講じる）を散布する。

#### 2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 やや早  
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）におけるウンシュウミカンの果実発病の発生ほ場率は3%（平年4%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発ほ場や前年多発ほ場では、伝染源となる罹病葉の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

#### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（有田川町奥）における3月中旬の発生葉率は、無防除区1%（平年4.0%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0%（平年0%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミカンハダニの防除は、12月下旬～1月上旬または3月中下旬、6月下旬のマシン油乳剤の散布、9月の化学合成殺ダニ剤の散布を基本とする。

② 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年10月中旬の「富有」の発生ほ場率は82%（平年79%）、発病葉率は17.1%（平年19.1%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。

② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。

③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

## <ウ メ>

### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月上旬の予察ほ場（無防除、みなべ町東本庄）での2年生枝の潜伏越冬病斑形成枝率は0%（過去5年の平均1.4%）であった。

② 県南部（みなべ町、田辺市）の前年6月上旬の発生ほ場率は44%（平年47%）、発病果率は1.4%（平年1.8%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 強風雨により感染が助長されるため、常発ほ場では防風施設の整備等の防風対策を励行する。

② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県内46地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉50リットル当たり0.3頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は21.7%（前年8.5%、平年22.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメ、モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- ③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

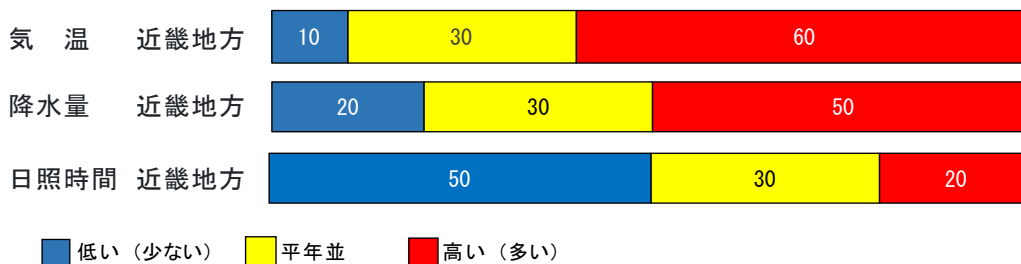
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症	並	カンキツ	かいよう病	やや多
	ばか苗病	並		そうか病	やや多
	いもち病	並		黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	並		灰色かび病	やや多
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	並
	ツマグロヨコバイ	並		ヤノネカイガラムシ	やや多
	イネミズゾウムシ	やや多		チャノキイロアザミウマ	並
タマネギ	灰色かび病	並	カキ	うどんこ病	並
	べと病	やや多 ～多		円星落葉病	並
				角斑落葉病	やや多
			チャノキイロアザミウマ	やや多	
キュウリ	べと病	並	モモ	せん孔細菌病	並
	うどんこ病	並		カイガラムシ類	並
	褐斑病	やや少	キウイフルーツ	かいよう病	並
野菜全般	アブラムシ類	やや多	果樹全般	カメムシ類	並
	ハダニ類	並			
	アザミウマ類	並			

気象予報

近畿地方 1か月予報（04/23～05/22）

2022年04月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 04/23～05/22	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 04/23～04/29	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 04/30～05/06	気温	2週目は、高い確率50%です。
3～4週目 05/07～05/20	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）





# I. 水 稲

## 1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。
- ② 種子消毒を行う。

## 2. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は0%（平年2%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

## 3. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

## 4. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生時期 やや早 発生量 並  
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市で3.0頭（平年11.5頭）、紀の川市で9.3頭（平年8.7頭）、かつらぎ町で1.5頭（平年3.6頭）であった。

② 越冬世代の50%成虫化時期は、紀の川市で3月13日（平年3月21日）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市0.8%（平年7.3%）、かつらぎ町1.5%（平年8.4%）であった。

④ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

## 5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における20回振りすくい取り調査による平均生息数は、和歌山市6.5頭（平年12.7頭）、紀の川市で8.5頭（平年5.1頭）、かつらぎ町で11.0頭（平年41.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

## 6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による4月1～20日の誘殺数は、上富田町で37頭(平成0.0頭)、那智勝浦町で0頭(平成0.4頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。  
② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。  
③ イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

## II. 野 菜

### <タマネギ>

#### 1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%(平成1%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。  
② 発病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

#### 2. べと病

(1) 予報内容 発生量 やや多～多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の二次感染株の発生ほ場率は43%(平成29%)、発病株率は3.4%(平成1.2%)であった。

- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場をこまめに見回り、発病葉を出来るだけ除去し、早急に薬剤散布を行う。除去した葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。発病葉は翌年の発生源となるため、集めてほ場の外に持ち出して適切に処分する。  
② 胞子の飛散による発病拡大を防ぐため、発生が認められないほ場においても予防散布を徹底する。  
③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。  
④ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。  
⑤ 収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。  
⑥ 令和4年度病害虫発生予察注意報第1号(令和4年4月20日発表)を参照する。

### <キュウリ>

## 1. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は30%（平成29%）、発病葉率は3.7%（平成2.8%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は58%（平成44%）、発病葉率は12.9%（平成13.9%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

## 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平成0%）発病葉率0.2%（平成0%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は83%（平成72%）、発病葉率は22.2%（平成17.7%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。
- ③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

## 3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平成4%）、発病葉率0.2%（平成0.2%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均：発生ほ場率53%、発病葉率12.5%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 発病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
- ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける4月中旬の発生株率は、モモアカアブラムシ2.2%（平成8.1%）、ニセダイコンアブラムシ0%（平成0.4%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は46%（過去8年の平均13%）であった。
- ③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は60%（過去7年の平均38%）であった。
- ④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、124頭（平成

90.9頭)であった。

⑤ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

## 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率33.3%(平年48.2%)、生息葉率17.1%(平年17.7%)、カンザワハダニは発生ほ場率0%(平年:発生ほ場率19%、生息葉率4.1%)であった。

② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率は87%(過去7年の平均65%)、1葉当たりの生息密度は0.3頭(過去7年の平均0.1頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

## 3. アザミウマ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率67%(過去6年の平均54%)、1花当たり生息密度0.1頭(過去6年の平均0.7頭)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%(平年:発生ほ場率11%、1花当たりの生息密度0.1頭)であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率36%(過去8年の平均36%)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率9%(過去8年の平均4%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

# Ⅲ. 果 樹

## <カンキツ>

### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生時期 やや早い(初発日の平年5月23日)  
発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場(有田川町奥)における「宮川早生」の展葉期は4月19日(平年4月23日)であった。

② 予察ほ場(無防除、有田川町奥)における春葉の越冬病斑の発病葉率は19.0%(平年10.6%)であった。

③ 前年10月中旬の県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における春葉発病の発生ほ場率は11%(平年20%)、発病葉率は0.1%(平年0.7%)であった。

④ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。

② 罹病枝葉の剪除と防風垣や防風ネットの整備に努める。

## 2. そうか病

- (1) 予報内容      発生時期    やや早い  
                         発生量       やや多

### (2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月19日（平年4月23日）であった。
- ② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）におけるウンシュウミカンの果実発病の発生ほ場率は3%（平年4%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発ほ場や前年多発ほ場は発芽直後の防除を基本とするが、発芽直後に防除できなかった場合は早急に散布を行う。
- ② その他のほ場では満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病にも適用のある薬剤を用いる。

## 3. 黒点病

- (1) 予報内容      発生量（初期感染）    やや多

### (2) 予報の根拠

- ① 5月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上及びほ場内外に放置された枯枝が伝染源となるため早急に処分する。

## 4. 灰色かび病

- (1) 予報内容      発生量    やや多

### (2) 予報の根拠

- ① 5月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発ほ場では満開期に防除を行う。
- ② 開花期～落弁期に曇雨天が続くと発生が助長されるので、必要に応じて防除する。

## 5. ミカンハダニ

- (1) 予報内容      発生量    並

### (2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における4月中旬の発生葉率は、無防除区4.0%（平年6.8%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0%（平年0%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していないほ場では、夏用マシン油乳剤200倍の散布を早急に行う。

## 6. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容      発生時期    早い  
                         発生量       やや多

### (2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の発生ほ場率は6%（平年5%）、寄生果率は1.2%（平年0.3%）であった。
- ② 予察式によると、第1世代1齢幼虫初発日は5月6日（実測値の平年5

月 12 日) と予想される。

③ 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第 1 世代 1 齢幼虫初発日から約 40 日後の 2 齢幼虫最盛期が防除適期である。

## 7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場(無防除)における黄色粘着トラップによる 4 月 1 日～20 日の誘殺数は由良町 3 頭(平年 12.9 頭)、有田川町 5 頭(過去 8 年の平均 2.0 頭)であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月中旬の「富有」の発生ほ場率は 82% (平年 79%)、発病葉率は 17.1% (平年 19.1%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散最盛期は 4 月下旬～5 月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。

② 4～5 月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。

③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

### 2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月の「富有」における発生ほ場率は 41% (平年 43%)、発病葉率 1.1% (平年 5.3%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散は、5 月上中旬から始まり、5 月下旬～7 月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

② 薬剤防除は、5 月から 8 月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

### 3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月の「富有」における発生ほ場率は 94% (平年 65%)、発病葉率は 27.9% (平年 11.3%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 分生子による感染は 5 月上中旬から始まり、7 月中下旬まで続く。二次

感染を繰り返す。

② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1～20日の誘殺数は17頭（平年4.6頭）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 落弁期を中心に防除する。

② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

### <モ モ>

#### 1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（平年14%）、発病葉率は0%（平年0.4%）、発病枝の発生ほ場率は0%（平年25%）、発病枝率は0.0%（平年1.2%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。

② 果実発病は、5月以降の風雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。

③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。

#### 2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ雌成虫・クワシロカイガラムシ雌成虫・ナシマルカイガラムシ幼虫）の寄生枝の発生ほ場率は20%（平年23%）、寄生枝率は0.6%（平年1.0%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し後に薬剤散布を実施する。

② 県北部のクワシロカイガラムシのふ化幼虫発生盛期は5月7日前後と予想している。

### <キウイフルーツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去3年の平均0%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
- ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。
- ③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県内46地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50リットル当たり0.3頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は21.7%（前年8.5%、平年22.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- ③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujoyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780



# 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

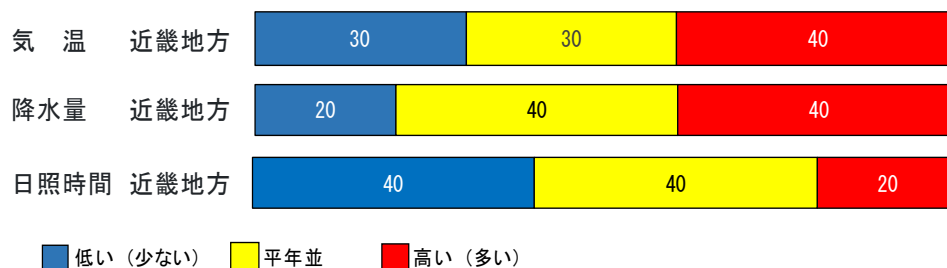
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	カンキツ	黒点病	並
	ヒメトビウンカ	並		かいよう病	並
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	やや少
	ツマグロヨコバイ	並		ヤノネカイガラムシ	やや多
	セジロウンカ	並		チャノキイロアザミウマ	やや少
	トビイロウンカ	並		アブラムシ類	やや少
ウリ科野菜	イネミズゾウムシ	並	カキ	うどんこ病	並
	モザイク病	並		円星落葉病	並
	べと病	やや多		角斑落葉病	やや多
	褐斑病	やや少		カキクダアザミウマ	やや少
	うどんこ病	並	チャノキイロアザミウマ	やや多	
	疫病	並	フジコナカイガラムシ	並	
野菜全般	つる枯病	並	モモ	せん孔細菌病	やや少
	炭疽病	並	カイガラムシ類	並	
	アブラムシ類	並	キウイフルーツ	かいよう病	並
	ハダニ類	やや少		果樹全般	カメムシ類
	ミナミキイロアザミウマ	やや少			
	ミカンキイロアザミウマ	やや少			
シロイチモジヨトウ	並				

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（05/21～06/20）

2022年05月19日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		なし。
向こう1か月 05/21～06/20	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 05/21～05/27	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 05/28～06/03	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3～4週目 06/04～06/17	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続く条件で発生しやすい。

② 県南部の早植え地域の常発地では気象条件に注意し、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③ 県北部、県中部の普通期栽培地域では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」などの罹病性品種を作付けする場合には育苗箱施薬剤を施用する。

④ 田植え後の余り苗を水田に放置しない。

## 2. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並  
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0頭、那智勝浦町0.2頭）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市0.8%（平年7.3%）、かつらぎ町1.5%（平年8.4%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

③ 第2世代成虫は6月中旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は6月下旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

## 3. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町0頭（平年0.2頭）および那智勝浦町0頭（平年0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にツマグロヨコバイに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

## 4. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（5月1～20日の誘殺数の平均：紀の川市0.1頭、上富田町0.3頭、那智勝浦町0.6頭。初飛来の平年：5月23日）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にセジロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

② フィプロニル剤に対する感受性低下が報告されている。

## 5. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（5月1～20日の誘殺数の平均：紀の川市0頭、上富田町0.1頭、那智勝浦町0頭。初飛来の平年：6月25日）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にトビイロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
- ② イミダクロプリド剤、クロチアニジン剤、チアメトキサム剤に対する感受性低下が報告されている。

## 6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町6頭（平年25.2頭）、那智勝浦町9頭（平年14.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

# II. 野 菜

## <ウリ科野菜>

### 1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：キュウリ1%、スイカ0%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中下旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：いずれも0%）であった。
- ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を行う。

### 2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は60%（平年40%）、発病葉率は12.5%（平年4.3%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は77%（平年59%）、発病葉率は27.0%（平年14.0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分にを行い、湿度低下を図る。

- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常：発生ほ場率6%、発病葉率0.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均：発生ほ場率56%、発病葉率13.7%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
- ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

### 4. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は20%（平常17%）、発病葉率は0.9%（平常1.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は92%（平常86%）、発病葉率は13.5%（平常27.1%）であった。
- ③ 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ④ 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ⑤ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培やトンネル栽培では風通しを良くし、薬剤防除は薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

### 5. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。
- ② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

### 6. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平常0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

7. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均0%）であった。  
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均：発生ほ場率7%、発病葉率0.6%）であった。  
③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 6月以降の露地条件で降雨が続くと、病斑上の胞子が雨滴などで飛散するため被害が拡大しやすい。降雨前の予防散布に努める。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息葉率0.3%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平年0%）であった。  
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は40%（平年63%）、生息葉率は1.4%（平年5.7%）であった。  
③ 黄色水盤（紀の川市）の5月1～20日の飛来数は69頭（平年185頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。  
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率1.4%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年0%）であった。  
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は47%（平年66%）、生息葉率は1.5%（平年10.5%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率20%、生息葉率3.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。  
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率26%、生息葉率6.5%）であった。  
② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は31%（過去

8年の平均49%)、生息葉率は3.0%(過去8年の平均4.6%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉して死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

#### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%(平年:発生ほ場率5%、生息葉率0.6%)であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は7%(平年3%)、生息葉率は0.1%(平年0.3%)であった。
- ③ 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は0%(過去8年の平均:発生ほ場率19%、生息葉率2.6%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

#### 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%(平年:発生ほ場率3%、生息葉率0.1%)であった。
- ② フェロモントラップによる5月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭(平年3.4頭)、御坊市7頭(平年29.9頭)であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 5月下旬までに薬剤散布を実施していないほ場では早急(6月上旬)に防除を行う。
- ② マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイミングで次の散布を行う。
- ③ 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

## 2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は19.0%（平成10.6%）であった。

② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は11%（平成20%）、発病葉率は0.1%（平成0.7%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。

② 罹病枝葉の剪除と防風垣や防風ネットの整備に努める。

## 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場における5月中旬の100葉あたりの雌成虫数は、無防除区0頭（平成29.2頭）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0頭（平成0.6頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行うと高い防除効果が得られる。

## 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 やや早

第1世代 1齢幼虫最盛期 5月22～26日

同 2齢幼虫最盛期 6月13～22日

同 雌成虫初発日 6月16～20日

発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）での第1世代1齢幼虫の初発は5月9日（平成5月14日）であった。

② 前年10月中旬の発生ほ場率は6%（平成5%）、寄生果率は1.2%（平成0.3%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発ほ場では、2齢幼虫最盛期にネオニコチノイド系や有機リン系等の殺虫剤を散布する。

## 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる5月1～20日の誘殺数は由良町14頭（平成34.4頭）、有田川町7頭（過去8年の平均14.4頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生消長調査の結果を参考にするとともにほ場内の観察に努め、適期に薬剤散布を行う。

② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁

寧に薬剤防除を行う。

## 6. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）では5月中旬の発生新梢率は0%（過去8年の平均1.8%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 各ほ場で発生状況を観察し、適期防除に努める。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は6%（平年13%）、発病葉率は0.1%（平年0.3%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 伝染源となる病斑上の病原菌は、6月以降活発に形成され伝染を繰り返す。病原菌は葉裏の気孔から侵入するため、薬剤防除にあたっては葉裏にも丁寧に薬液を散布する。

### 2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年43%）、発病葉率1.1%（平年5.3%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

### 3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年65%）、発病葉率は27.9%（平年11.3%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。

② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

### 4. カキクダアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は1頭（平年2.2頭）であった。



- ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

#### 5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は7頭（平成3.4頭）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防除適期は新成虫飛来期の6月中下旬である。

#### 6. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は0%（平成12%）、寄生花蕾率は0%（平成0.5%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期の6月上中旬に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。

### <モ モ>

#### 1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における5月中旬の発生ほ場率は10%（平成72%）、発病葉率は0.1%（平成3.0%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防風ネット、防風樹の設置などの防風対策を励行する。

#### 2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における5月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・クワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ）の寄生枝の発生ほ場率は0%（平成5%）、寄生枝率は0%（平成0.3%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。
  - ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃、ナシマルカイガラムシが7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に合わせて薬剤散布を行う。

### <キウイフルーツ>

#### 1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去3年の平均0%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
- ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。
- ③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが30頭（前年131頭、平年156頭）、ツヤアオカメムシが53頭（前年240頭、平年92頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが3頭（前年21頭、過去8年の平均117頭）、ツヤアオカメムシが56頭（前年106頭、過去8年の平均353頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが6頭（前年125頭、平年233頭）、ツヤアオカメムシが440頭（前年482頭、平年1,592頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。スモモでは山林に隣接するほ場でカメムシ類の飛来する時期が早いので、このようなほ場では特に注意が必要である。
- ③ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病害虫防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第4号（7月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

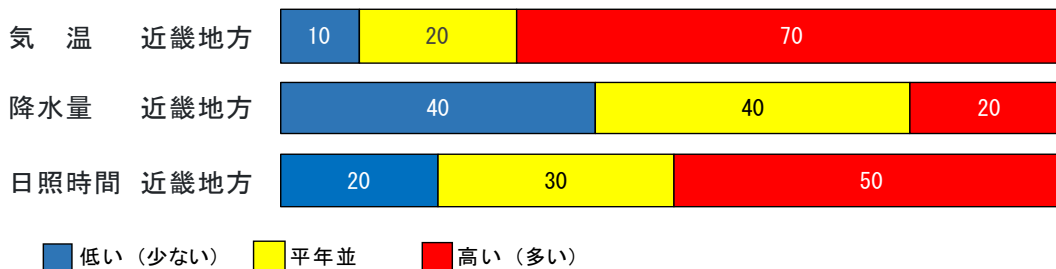
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	やや多	野菜全般	ミナミキイロアザミウマ	やや多
	紋枯病	並		ミカンキイロアザミウマ	並
	縞葉枯病	やや少		シロイチモジヨトウ	やや少
	ヒメトビウンカ	並	カンキツ	黒点病	やや少
	ツマグロヨコバイ	並		かいよう病	並
	セジロウンカ	やや少		ミカンハダニ	やや多
ウリ科野菜	トビイロウンカ	並	カキ	ヤノネカイガラムシ	並
	コブノメイガ	並		チャノキイロアザミウマ	やや多
	疫病	並		ゴマダラカミキリ	やや多
ナス科野菜	うどんこ病	並	モモ	炭疽病	並
	つる枯病	並		うどんこ病	並
	炭疽病	並		円星落葉病	並
疫病	並	角斑落葉病		やや多	
野菜全般	アブラムシ類	県北部 並 県中部 多	果樹全般	フジコナカイガラムシ	並
	ハダニ類	並		せん孔細菌病	やや少
				カイガラムシ類	並
				カメムシ類	やや多

気象予報

近畿地方 1か月予報（06/25～07/24）

2022年06月23日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 06/25～07/24	天候	平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、多い確率50%です。
1週目 06/25～07/01	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 07/02～07/08	気温	2週目は、高い確率50%です。
3～4週目 07/09～07/22	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は7.3%（平年0.1%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続くと発生しやすい。

② 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。

③ 常発地や罹病性品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」等）の栽培ほ場では初発時期に注意し、発生がみられたら直ちに薬剤防除を行う。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における前年9月上旬の発病株率は7.8%（平年16.7%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

## 3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年7%）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市0.8%（平年7.3%）、かつらぎ町1.5%（平年8.4%）であった。

④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカの防除を行う。本虫の第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられる。前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。

## 4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0.5頭（平年0.2頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年1.2頭）、

上富田町0頭（平成0.4頭）、那智勝浦町0頭（平成1.4頭）であった。  
(3) 防除上考慮すべき諸点

① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、縞葉枯病の発生が認められる地域以外は7月の防除は必要ない。

## 5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0.7頭（平成0.5頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市3頭（平成5.2頭）、上富田町1頭（平成28.2頭）、那智勝浦町1頭（平成11.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は必要ない。

## 6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0.4頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成2.7頭）、上富田町0頭（平成5.4頭）、那智勝浦町1頭（平成9.7頭）であった。

③ 予察灯への初飛来は、那智勝浦町6月13日（平成6月6日）であった。紀の川市（平成6月21日）、上富田町（平成6月7日）では6月20日現在、飛来を認めていない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ツマグロヨコバイに準ずる。

## 7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0頭）、上富田町0頭（平成0.3頭）、那智勝浦町0頭（平成0.4頭）であった。

③ 予察灯への初飛来は、紀の川市（平成7月17日）、上富田町（平成6月29日）、那智勝浦町（平成7月1日）とも6月20日現在、飛来を認めていない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生ほ場では、出穂前の防除に努める。本虫は株元に多く生息するので、薬剤が株元に届くように散布する。

## 8. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり被害葉数は0葉（平成0葉）であった。

② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による6月1～20日の誘殺数は0頭（平成0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は平年7月下旬頃である。防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾最盛期の7日後）である。
- ② 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

※ 水稲害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## Ⅱ．野 菜

### <ウリ科野菜>

#### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

#### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.01%）であった。
- ③ 県北部の施設栽培キュウリにおける6月中旬の発生ほ場率は20%（平年：発生ほ場率29%、発病葉率3.4%）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

#### 3. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.01%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率9%、発病葉率2.0%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株

元にも十分かかるように行う。

#### 4. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率9%、発病葉率0.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬の発生ほ場率は12%（平成20%）、発病葉率0.5%（平成2.1%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病した茎葉や果実は、ほ場外に持ち出す。
- ② 降雨日が連続すると多発する可能性があるため、長雨が予想される場合は予防散布を実施する。

### <ナス科野菜>

#### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培ミニトマトにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均：発生ほ場率5%、発病株率0.6%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨前の予防散布に努める。予防散布ができなかった場合は降雨後に早急に防除する。
- ② ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

### <野菜全般>

#### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 県北部 並  
県中部 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月下旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%（平成1.0%）、ワタアブラムシ0.3%（平成1.3%）であった。
- ② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は92%（平成69%）、生息葉率は22.4%（平成5.5%）であった。
- ③ 黄色水盤（紀の川市）による6月1～20日の誘殺数は64頭（平成107.5頭）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

#### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月下旬の発生ほ場率は、カンザワハダ

ニ 29%（平年 33%）、ナミハダニ 0%（平年 7%）であった。

② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける 6 月下旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ 62%（平年 40%）、ナミハダニ 0%（平年 14%）であった。

③ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 6 月下旬の発生ほ場率は 57%（平年 22%）、生息葉率は 3.4%（平年 7.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多い場合は 4～5 日間隔で 2 回以上、薬剤を散布する。

② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で 7～10 日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源にならないようにする。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 6 月下旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 10%、生息葉率 1.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

### 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地および施設栽培スイカにおける 6 月下旬の被害果率は 1.4%（平年 4.7%）であった。

② フェロモントラップによる 6 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 8 頭（平年 16.3 頭）、御坊市 10 頭（平年 54.9 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。

② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 6 月中旬の発生ほ場率は 6%（平年 12%）、発病果率は 0.3%（平年 1.6%）であ



った。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイミングで次の散布を行う。

② 過乾燥等で樹勢が衰弱すると伝染源の枯れ枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

## 2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の春葉での発生ほ場率は16%（平成22%）、発病葉率は0.4%（平成0.9%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 罹病枝葉は果実への伝染源になるので剪除する。

② ミカンハモグリガの食害痕は病原菌の侵入口となるため本害虫の防除を徹底する。

③ 罹病性品種では強風雨前に銅水和剤の予防散布を徹底する（薬害軽減のための措置を講じる）。

④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

## 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は34%（平成34%）、発生葉率は19.5%（平成11.7%）、100葉あたり雌成虫数は58.6頭（平成43.0頭）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に2回以上使用しない。

② 薬剤抵抗性対策として97%・98%マシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は薬害が発生しやすいうえ、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

## 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 6月下旬に防除できなかった発生ほ場では、7月上旬に97%・98%マシン油乳剤を散布する。

## 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬

の発生ほ場率は2%（平年1%）、寄生果率は0.1%（平年0.1%）であった。

② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる6月1～20日の誘殺数は、由良町227頭（平年342頭）、有田川町512頭（過去8年の平均72頭）であった。

③ 7月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

## 6. ゴマダラカミキリ

（1）予報内容 発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は8%（平年1%）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努めるとともに、薬剤を散布する。

② 発生が多いほ場では、7月中旬以降に成虫の産卵防止および幼虫対象の防除として薬剤を主幹から株元に散布する。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発病新梢率は「富有」0%（平年0.0%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。

② 7月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかる。

③ 令和4年5月27日発表の病害虫防除技術情報（第1号）を参照する。

### 2. うどんこ病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」63%（平年44%）、「平核無」・「刀根早生」35%（平年12%）であった。発病葉率は「富有」2.3%（平年2.2%）、「平核無」・「刀根早生」0.8%（平年0.4%）であった。

② 7月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。

② 盛夏期には一時病勢は停滞するが、好適な気象条件やほ場条件で秋季まで二次伝染を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

### 3. 円星落葉病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年43%）、発病葉率は1.1%（平年5.3%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
- ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

#### 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平成65%）、発病葉率は27.9%（平成11.3%）であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
- ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

#### 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」6%（平成25%）、「平核無」・「刀根早生」6%（平成5%）であった。寄生果率は「富有」0.3%（平成1.2%）、「平核無」・「刀根早生」0.1%（平成0.2%）であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期である。
- ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月下旬頃であり、次回の防除適期は8月上旬頃と思われる。

## <モ モ>

#### 1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬の発病葉の発生ほ場率は40%（平成77%）であった。発病葉率は1.0%（平成5.3%）、発病果率は0.3%（平成5.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風対策に取り組む。防風ネット、防風樹設置ほ場では保守点検を行う。
- ② 翌年の伝染源軽減のため、秋季に無機銅水和剤を散布する。

#### 2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・クワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ）の寄生枝の発生ほ場率は0%（平成5%）、寄生枝率は0%（平成0.2%）であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼

虫発生盛期から1週間以内に薬剤散布を実施する。

- ② 県北部の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月7日前後、クワシロカイガラムシが7月9日前後と予想される。ナシマルカイガラムシは、7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に併せて薬剤散布を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが305頭（前年61頭、平年130頭）、ツヤアオカメムシが640頭（前年70頭、平年224頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが33頭（前年1頭、過去8年の平均172頭）、ツヤアオカメムシが295頭（前年3頭、過去8年の平均258頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが300頭（前年175頭、平年427頭）、ツヤアオカメムシが3,508頭（前年259頭、平年1,159頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場内への多飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。
- ② 令和4年5月27日発表の病害虫防除技術情報（第2号）を参照する。
- ③ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病害虫防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第5号（8月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

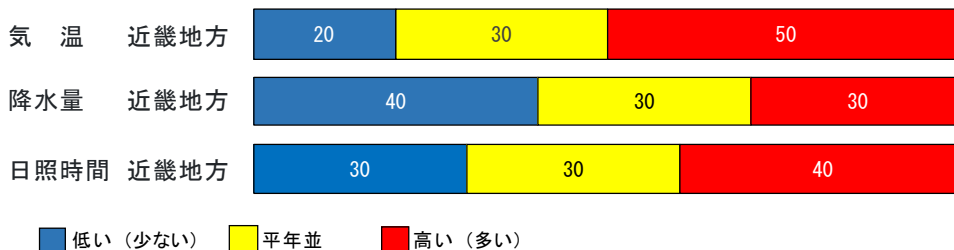
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量	
水稲	いもち病	並 県北部・中部 並 県南部 やや多	野菜全般	ハスモンヨトウ	県北部 やや少 県中部 並	
	紋枯病			シロイチモジヨトウ	並	
	縞葉枯病		並 並 並 並 並 並 並 並	カンキツ	黒点病	並
	ヒメトビウンカ	かいよう病			やや少	
	ツマグロヨコバイ	ミカンハダニ			やや多	
	セジロウンカ	ヤノネカイガラムシ			並	
	トビイロウンカ	チャノキイロアザミウマ			やや多	
	イチモンジセセリ	ゴマダラカミキリ			並	
	コブノメイガ	カキ			炭疽病	並
	斑点米カメムシ類				うどんこ病	並
トマト・ミニトマト	疫病		円星落葉病	並		
	黄化葉巻病	角斑落葉病	やや多			
野菜全般	アブラムシ類	やや多 やや多 やや少 並	果樹全般	カメムシ類	やや多～多	
						ハダニ類
	ミナミキイロアザミウマ					
	ミカンキイロアザミウマ					

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（07/23～08/22）

2022年07月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		なし。
向こう1か月 07/23～08/22	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 07/23～07/29	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 07/30～08/05	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3～4週目 08/06～08/19	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



# I. 水 稲

## 1. いもち病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は17%（平年25%）、発病株率は15.3%（平年3.9%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は25%（平年20%）、発病株率は3.8%（平年3.9%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期に追加防除を行う。

② 常発地では翌年から罹病性品種の作付けを避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 県北部および中部 並  
県南部 やや多

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は33%（平年2%）、発病株率は2.0%（平年0.1%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、発病株率0.2%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 穂ばらみ期に発病株率が20%以上のほ場では、早急に薬剤防除を行う。

② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加防除を行う。

## 3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、発病株率0.1%）であった。

③ 媒介虫であるヒメトビウンカの8月の発生量は並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病の発生が多いほ場では、ヒメトビウンカの防除を行う。

## 4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平年7.8頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.9頭（平年12.3頭）であった。

② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市8頭（平年1.6頭）、上富田町0頭（平年1.0頭）、那智勝浦町6頭（平年7.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 縞葉枯病の発生が多いほ場では、本虫の防除を行う。

## 5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平年2.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では1.5頭（平年1.4頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市7頭（平年1.9頭）、上富田町0頭（平年29.4頭）、那智勝浦町66頭（平年206.3頭）であった。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では3.5頭（平年32.4頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.5頭（平年16.8頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市56頭（平年18.4頭）、上富田町20頭（平年71.2頭）、那智勝浦町133頭（平年54.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫10頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平年0.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0頭（平年0.2頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市3頭（平年2.0頭）、上富田町0頭（平年17.9頭）、那智勝浦町1頭（平年22.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

8. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたりツト数は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0（平年0.1）、県北部および中部の普通期栽培では0（平年0.0）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢幼虫の防除に重点を置く。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0葉（平年1.3葉）、県北部および中部の普通期栽培では0.3葉（平年0.2葉）であった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による6月1日～7月20日の誘殺数は0頭（平年1.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10

%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率 80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

## 10. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培の本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.3頭（平成4.5頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市115頭（過去6年の平均80.3頭）、上富田町5頭（平成29.4頭）、那智勝浦町91頭（平成91.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② イネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までにはほ場周辺を除草する。
- ③ 出穂後、本田内で大型のカメムシ類の飛来を認めたら、乳熟期（出穂10日後）から糊熟期（出穂20日後）に薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期（出穂3日後）に薬剤散布する。

※ 水稲害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野 菜

### <トマト・ミニトマト>

#### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%（平成10%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。
- ② 露地栽培では、降雨前の予防散布に努める。降雨前に散布できなかった場合は降雨後に早急に防除する。

#### 2. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は14%（過去9年の平均40%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ② 施設栽培では育苗ほ、本ほとも施設開口部へ目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。
- ③ 施設栽培では、定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、育苗期から本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。



## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の生息葉率は、ワタアブラムシ2.0%（平成0.9%）、モモアカアブラムシ0%（平成0.6%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への7月1～20日までの飛来数は27頭（平成15.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ57%（平成24%）、15.4%（平成5.9%）、ナミハダニでいずれも0%（平成：発生ほ場率12%、生息葉率2.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率20%、生息葉率3.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、それぞれ14%（平成2%）、0.1%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

### 5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 県北部 やや少  
県中部 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

② フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、和歌山市19頭（平成156.7頭）、紀の川市37頭（平成105.6頭）、御坊市135頭（平

年 144.8 頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期(ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき)の防除を心がける。
- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

6. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、紀の川市40頭(平年21.3頭)、御坊市75頭(平年65.1頭)であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハスモンヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における7月中旬の果実での発生ほ場率は27%(平年25%)、発病果率は3.0%(平年4.9%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
- ② 伝染源となる枯れ枝や剪定枝の処理を徹底する。
- ③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯れ枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における7月中旬の春葉での発生ほ場率は17%(平年29%)、発病葉率は0.4%(平年1.1%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 台風の接近等で強風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を行う。
- ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。
- ③ ミカンハモグリガによる新葉の食害痕は病原菌の侵入口となる。幼木や高接樹では新葉が発生しやすいため本害虫の防除を徹底する。
- ④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は39%（平年23%）、発生葉率は7.9%（平年5.9%）、100葉あたり雌成虫数は32.9頭（平年19.3頭）であった。
- ② 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

#### 4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 第2世代2齢幼虫の発生最盛期は8月下旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

#### 5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均0%）、果実の被害ほ場率は25%（過去9年の平均18%）であった。
  - ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる7月1～20日の誘殺数は由良町310頭（平年185頭）、有田川町335頭（過去8年の平均129頭）であった。
  - ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。
  - ② 発生ほ場およびイヌマキやサンゴジュに隣接するほ場では防除を徹底する。

#### 6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 成虫の捕殺に努めるとともに、放任ほ場周辺など発生の多いほ場では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

### <カ キ>

#### 1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」0.1%（平年0.4%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。
  - ② 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

- ② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかつたほ場では台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。
- ④ 令和4年5月27日発表の病害虫防除技術情報（第1号）を参照する。

## 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」63%（平年65%）、「平核無」・「刀根早生」18%（平年22%）であった。
- ② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」3.8%（平年5.6%）、「平核無」・「刀根早生」0.6%（平年0.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪いほ場は発病を繰り返しやすいので、これらのほ場では秋雨前の予防散布に努める。

## 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年43%）、発病葉率は1.1%（平年5.3%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

## 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年65%）、発病葉率は27.9%（平年11.3%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発ほ場では発病後も防除を励行する。

## 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は、「富有」50%（平年52%）、「平核無」・「刀根早生」6%（平年13%）であった。
- ② 県北部における7月中旬の寄生果率は、「富有」1.8%（平年4.0%）、「平核無」・「刀根早生」0.5%（平年0.7%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第2世代ふ化幼虫の発生時期は7月下旬～8月上旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなくへたにもかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

## < 果樹全般 >

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多～多

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,335頭（前年259頭、平年434頭）、ツヤアオカメムシが716頭（前年34頭、平年136頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが435頭（前年45頭、過去8年の平均739頭）、ツヤアオカメムシが211頭（前年17頭、過去8年の平均168頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,149頭（前年211頭、平年927頭）、ツヤアオカメムシが638頭（前年51頭、平年271頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ③ 令和4年7月14日発表の病虫害発生予察注意報（第3号）を参照する。
- ④ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

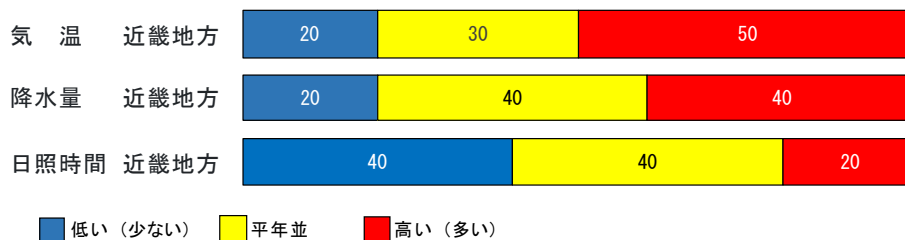
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	やや多	野菜・花 き全般	ミナミキイロアザミウマ	並
	紋枯病	やや多		ミカンキイロアザミウマ	並
	トビイロウンカ	並		シロイチモジヨトウ	並
	イチモンジセセリ	並		ハスモンヨトウ	やや多
	コブノメイガ	並	カンキツ	黒点病	並
	斑点米カメムシ類	並		かいよう病	やや少
トマト・ ミニトマ ト	黄化葉巻病	並		ミカンハダニ	やや多
				チャノキイロアザミウマ	やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並	カキ	炭疽病	やや多
				うどんこ病	やや少
				円星落葉病	並
				角斑落葉病	並
野菜・花 き全般	アブラムシ類およびア ブラムシ類媒介のウイ ルス病	並		フジコナカイガラムシ	並
	ハダニ類	やや多	果樹全般	カメムシ類	多

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（08/27～09/26）

2022年08月25日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 08/27～09/26	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 08/27～09/02	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 09/03～09/09	気温	2週目は、平年並の確率50%です。
3～4週目 09/10～09/23	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は54%（平成27%）、発病株率は13.3%（平成7.0%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種（「キヌヒカリ」等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は42%（平成25%）、発病株率は14.8%（平成3.8%）であった。

② 減収などの被害に繋がる第3葉鞘以上の上位葉に発病は認められなかった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなる。次作は密植にならないよう注意し、防除を徹底する。

② 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がる。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合には防除を実施する。

③ 病害虫防除技術情報第3号（令和4年8月16日発表）を参照する。

## 3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では0頭（平成0.5頭）、県中部の普通期栽培では0頭（平成2.9頭）であった。

② 予察灯による8月1～20日の飛来数は、紀の川市2頭（平成4.0頭）、上富田町0頭（平成3.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

## 4. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツト数は、県北部の普通期栽培では0.1（平成

0.1)、県中部の普通期栽培では0(平年0.0)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

## 5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では0.1葉

(平年0.3葉)、県中部の普通期栽培では0.9葉(平年1.8葉)であった。

- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1～15日の成虫誘殺数は、9頭(平年5.6頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

## 6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① すくい取り調査(捕虫網20回振り)による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で90%(平年72%)、6.7頭(平年7.1頭)、県中部の普通期栽培で40%(平年80%)、1.0頭(平年7.1頭)であった。

- ② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市107頭(過去6年の平均161.3頭)、上富田町11頭(平年11.4頭)であった。

- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

# II. 野菜・花き

## <トマト、ミニトマト>

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は100%(平年84%)、発病株率は22.4%(平年31.4%)であった。

- ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

- ③ 促成栽培では、生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ぼ初期(8～10月)のタバココナジラミ防除を徹底する。また、施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高ま



る。

## ＜ダイコン、ハクサイ、キャベツ＞

### 1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市0頭（平年0.5頭）、紀の川市0頭（平年0.2頭）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

## ＜野菜・花き全般＞

### 1. アブラムシ類およびアブラムシ類媒介のウイルス病（露地野菜全般）

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は14%（平年14%）、生息葉率は6.0%（平年1.9%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、生息葉率0.2%）であった。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、17頭（平年66.1頭）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

① アブラムシ類媒介のウイルス病は、シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。

② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

### 2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は43%（平年20%）、生息葉率は9.9%（平年4.9%）、ナミハダニの発生ほ場率は43%（平年10%）、生息葉率1.4%（平年2.7%）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は57%（平年50%）、生息葉率は21.4%（平年11.3%）であった。

② 9月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

#### 5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市46頭（平年24.8頭）、御坊市29頭（平年75.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
  - ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

#### 6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は14%（平年1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市25頭（平年121.0頭）、紀の川市413頭（平年159.4頭）、御坊市367頭（平年117.3頭）、印南町30頭（平年74.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生ほ場率は28%（平年40%）、発病果率は4.9%（平年10.0%）であった。
  - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 8月中下旬に防除できなかつたほ場では、9月上旬に早急に防除を行う。
  - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

#### 2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量（果実および夏秋梢） やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の春葉病斑の発生ほ場率は16%（平年28%）、発病葉率は0.3%（平年1.0%）、果実の発病果率は1.9%（平年2.0%）であった。
  - ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
- ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、9月以降翌春までに剪除する。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生ほ場率は27%（平年15%）、発生葉率は7.7%（平年2.4%）、100葉あたりの雌成虫数は15.4頭（平年7.4頭）であった。
- ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。
- ② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の果実の被害ほ場率は17%（平年23%）、被害果率は0.8%（平年2.9%）、100果あたりの生息虫数は0頭（平年0.0頭）であった。
- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる8月1～20日の誘殺数は由良町167頭（平年177頭）、有田川町22頭（過去8年の平均60頭）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」18%（平年7%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年1%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」0.4%（平年0.4%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
- ② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。
- ④ 令和4年5月27日発表の病害虫防除技術情報（第1号）を参照する。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は「富有」56%（平成68%）、  
「刀根早生」・「平核無」6%（平成20%）であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は「富有」7.3%（平成7.9%）、  
「刀根早生」・「平核無」0.5%（平成1.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。

② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平成2%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成3%）であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平成0.0%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.1%）であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

### 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平成0%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成1%）であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平成0%）、  
「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.0%）であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

### 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」77%（平成68%）、  
「刀根早生」・「平核無」18%（平成23%）であった。

② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」7.6%（平成7.1%）、  
「刀根早生」・「平核無」0.7%（平成1.0%）であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」24.2%（平成3.4%）、「刀根早生」・「平核無」2.0%（平成0.5%）であった。
  - ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,167頭（前年471頭、平成511頭）、ツヤアオカメムシが568頭（前年142頭、平成191頭）であった。
  - ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが234頭（前年113頭、過去8年の平均605頭）、ツヤアオカメムシ54頭（前年54頭、同113頭）であった。
  - ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,899頭（前年1,992頭、平成1,030頭）、ツヤアオカメムシが899頭（前年460頭、平成519頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
  - ② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
  - ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
  - ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
  - ⑤ 令和4年8月26日発表の病虫害発生予察注意報（第4号）を参照する。
  - ⑥ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

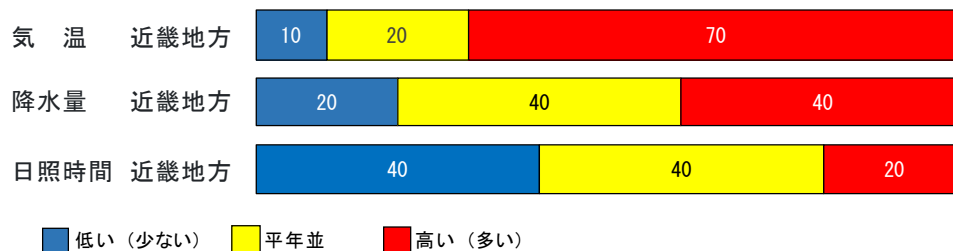
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ	並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	やや多 並 並		オオタバコガ	並
アブラナ科野菜	コナガ	やや少	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 並
野菜・花き全般	アブラムシ類	やや少	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 並 やや多 並 並
	ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	やや少 やや少 少 並 やや多		果樹全般	カメムシ類

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（09/24～10/23）

2022年09月22日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 09/24～10/23	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 09/24～09/30	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 10/01～10/07	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/08～10/21	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 野菜・花き

## <トマト、ミニトマト>

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月中旬の発生ほ場率は7%（平年9%）、発病株率は0.1%（平年0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は8%（平年0%）、発病株率0.2%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

### 3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

## <アブラナ科野菜>

### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市1頭（平年15.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

## <野菜・花き全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月下旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息葉率0.6%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は14%（平年22%）、生息葉率は0.6%（平年3.3%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は31頭（平年121.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率13%、生息葉率2.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率11%、生息葉率1.8%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬のハダニ類の発生ほ場率は15%（平年26%）、生息株率は8.5%（平年9.7%）であった。

③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率56%、生息葉率14.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。



#### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

#### 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は54%（平成23%）、生息株率は14.6%（平成5.6%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市136頭（平成44.6頭）、御坊市62頭（平成59.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月下旬の発生ほ場率は29%（平成14%）、生息葉率は1.7%（平成0.7%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は23%（平成19%）、生息株率は3.8%（平成3.0%）であった。

③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市1,260頭（平成455.6頭）、和歌山市375頭（平成1,294.4頭）、御坊市916頭（平成823.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

#### 7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は15%（平成11%）、生息株率は2.3%（平成2.0%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市29頭（平成19.9頭）、御坊市5頭（平成2.9頭）、印南町0頭（平成2.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

## II. 果 樹

## <カンキツ>

### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
  - ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
  - ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

### 2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 予察ほ場（有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、無防除区4頭（平成0頭）、慣行防除区0頭（平成0頭）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

## <カキ>

### 1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は44%（平成25%）、発病果率は2.3%（平成1.3%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発病果は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、発病果を速やかに除去して土中に埋める。
  - ② 発病果がみられるほ場や降雨が続くと予想される場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
  - ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
  - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多に注意するとともに、強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
  - ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は69%（平成67%）、発病葉率は8.4%（平成11.4%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
  - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努め

る。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は13%（平成7%）、発病葉率は0.4%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

### 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は38%（平成28%）、発病葉率は1.8%（平成2.3%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

### 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は63%（平成68%）、寄生果率は6.9%（平成8.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

## <果樹全般>

### 1. カメモムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが243頭（平成503頭）、ツヤアオカメモムシが119頭（平成259頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが116頭（過去8年の平均422頭）、ツヤアオカメモムシ33頭（同245頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが2,032頭（平成4,165頭）、ツヤアオカメモムシが860頭（平成2,815頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメモムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。

② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。

④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。

- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/>

[boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

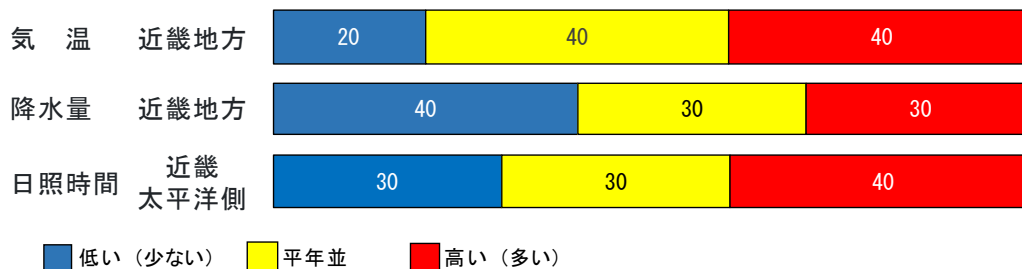
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや少
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	県北部 多
	つる枯細菌病	並			県中部 並
	ハダニ類	やや多		オオタバコガ	県北部 多
	ウラナミシジミ	多			県中部 並
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや多
	アブラムシ類	並		ミカンハダニ	並
	コナガ	やや少	果樹全般	カメムシ類	少～やや少
	ヨトウガ	やや多			

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（10/22～11/21）

2022年10月20日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 10/22～11/21	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 10/22～10/28	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 10/29～11/04	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率17%、発病葉率0.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率6%、発病葉率1.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

### 3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は47%（平年33%）、生息株率は20.0%（平年14.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における10月下旬の被害発生ほ場率は93%（平成67%）、被害株率は34.0%（平成23.9%）であった。被害さや率は11.2%（平成7.7%）、1花あたりの産卵数は0.32個（平成0.18個）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
  - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。
  - ③ 令和4年度病害虫発生予察注意報第5号（令和4年10月28日発表）を参照する。

## <ハクサイ、キャベツ>

### 1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平成：ハクサイ7%、キャベツ6%）であった。
  - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

### 2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は38%（平成18%）、生息株率6.3%（平成2.7%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は38%（平成35%）、生息株率6.9%（平成7.8%）であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、29頭（平成40.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市31頭（平成53.0頭）、紀の川市0頭（平成0.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### 4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は13%（平成1%）、生息株率1.9%（平成0.1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平成7.1頭）であった。





るよう努める。

- ② 令和4年度病害虫防除技術情報第4号（令和4年10月26日発表）を参照する。

## Ⅱ．果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

（1）予報内容 発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は18%（平成12%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

#### 2. ミカンハダニ

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率は6%（平成12%）、発生葉率は0.8%（平成2.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

（1）予報内容 発生量 少～やや少

（2）予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが18頭（平成190頭）、ツヤアオカメムシが22頭（平成328頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが7頭（過去8年の平均111頭）、ツヤアオカメムシが3頭（同578頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが43頭（平成1,147頭）、ツヤアオカメムシが388頭（平成7,809頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

- ② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/  
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

## 2. 病害虫の診断・同定の件数

### 1) 本所

作物分類	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水稲	病害	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	6
	虫害	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	0	7
	その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
野菜	病害	8	7	13	5	2	6	3	5	8	1	3	6	67
	虫害	2	2	5	0	0	1	1	1	5	1	0	1	19
	その他	5	9	5	2	2	1	0	1	1	1	2	1	30
花き	病害	0	2	0	2	0	3	4	5	2	2	1	2	23
	虫害	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	その他	1	4	0	3	0	1	3	2	3	0	1	0	18
果樹	病害	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	虫害	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	8	10	13	7	5	12	7	10	10	3	5	8	98
	虫害	2	3	5	3	3	3	1	1	6	1	0	1	29
	その他	6	13	6	6	3	2	3	3	4	1	3	1	51

### 2) 有田川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常緑果樹	病害	13	9	10	7	6	4	6	2	0	0	0	3	60
	虫害	3	14	13	22	24	15	4	3	2	11	1	4	116
	その他	0	0	2	2	1	2	1	0	0	0	0	0	8

### 3) 紀の川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	5	14	12	7	6	2	5	2	0	1	2	2	58
	虫害	4	10	9	4	4	8	3	2	1	1	2	4	52
	その他	4	8	8	5	4	3	4	1	0	0	0	0	37

### 4) みなべ駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	12	10	13	2	5	0	2	3	0	1	3	5	56
	虫害	6	1	1	1	4	0	0	2	1	1	0	3	20
	その他	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9

### 5) 全体

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	病害	38	43	48	23	22	18	20	17	10	5	10	18	272
	虫害	15	28	28	30	35	26	8	8	10	14	3	12	217
	その他	12	24	20	13	8	7	8	4	4	1	3	1	105

## VI. 病害虫の発生経過の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	4～7月	並	7月の発生ほ場率は17%(平年25%)、発病株率は15.3%(平年3.9%)であった。		育苗箱施薬剤及び適量施肥。初発時の薬剤防除。
早期水稲	穂いもち	7～8月	やや多	8月の発生ほ場率は17%(平年2%)、発病率率は0.1%(平年0.2%)であった。	6月および7月に降雨が続いた時、気温と湿度が発病に好適な条件となったため。	通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付ほ場及び山間地では穂揃い期に追加防除。
早期水稲	紋枯病	5～8月	並	8月の発生ほ場率は17%(平年23%)、発病株率は0.7%(平年3.2%)であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
早期水稲	ばか苗病	5～6月	並	7月の発生ほ場率は0%(平年2%)であった。		種子消毒。
早期水稲	もみ枯細菌病	4月、8月	並	8月の発病率率は0%(平年0%)であった。		育苗箱施薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
早期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	7月の発病株率は0%(平年0%)であった。		ヒメビウンカの防除。
早期水稲	稲こうじ病	8月	並	8月の発病株率は0%(平年0%)であった。		穂いもちとの同時防除
早期水稲	セジロウシ	6～8月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が3.5頭(平年32.4頭)、8月が4.2頭(平年20.3頭)であった。予察灯への初飛来は、那智勝浦町6/13(平年6/6)、上富田町6/27(平年6/7)であった。	飛来が遅かった。	7月の薬剤防除。
早期水稲	トビイロウシ	6～8月	並	予察灯への初飛来は、那智勝浦町で6月25日(平年7月1日)であった。予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、上富田町0頭(平年17.9頭)、那智勝浦町1頭(平年22.5頭)であった。8月の25株あたり平均虫数は1.5頭(平年1.4頭)であった。		7月の薬剤防除。
早期水稲	ヒメビウンカ	5～8月	並	25株あたり平均虫数は、7月が0頭(平年7.8頭)、8月が32.8頭(平年12.7頭)であった。		育苗箱施薬剤の施用と7月の薬剤防除。
早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	並	25株あたり平均虫数は、6月が0.7頭(平年0.5頭)、7月が0頭(平年2.5頭)、8月が7.3頭(平年2.6頭)であった。		7月の薬剤防除。
早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	並	本田における7月の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.3頭(平年4.5頭)であった。誘殺数は上富田町5頭(平年29.4頭)、那智勝浦町91頭(平年91.7頭)であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
早期水稲	コブノメイガ	6～8月	並	25株あたり平均被害葉数は、7月が0葉(平年1.3葉)、8月が0.7葉(平年2.5葉)であった。		7月の薬剤防除。
早期水稲	イネミズゾウムシ	5～8月	並	6月の25株あたり平均虫数は0.3頭(過去7年の平均0.6頭)であった。		育苗箱施薬剤の施用。
普通期水稲	葉いもち	5～8月	やや多	8月の発生ほ場率は54%(平年27%)、発病株率は13.3%(平年7.0%)であった。	6月および7月に降雨が続いた時、気温と湿度が発病に好適な条件となったため。	育苗箱施薬剤。適量施肥。初発時の薬剤防除。
普通期水稲	穂いもち	8～9月	並	9月の発生ほ場率は17%(平年14%)であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付圃場及び山間地では穂揃い期の追加防除。
普通期水稲	紋枯病	6～9月	並	9月の発生ほ場率は46%(平年57%)であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。 病害虫防除技術情報第3号(令和4年8月16日発表)により注意を喚起。
普通期水稲	ばか苗病	5～6月	並	8月の発生ほ場率は0%(平年0.4%)であった。		種子消毒。
普通期水稲	もみ枯細菌病	4月、8～9月	並	9月の発病率率は0%(平年0.01%)であった。		育苗箱施薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
普通期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	8月の発病株率は0%(平年0.4%)であった。		ヒメビウンカの防除。
普通期水稲	稲こうじ病	9月	並	9月の発病株率は0%(平年0%)であった。		穂いもちとの同時防除
普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	8月の25株あたり被害株数は0株(平年0株)であった。		1化期:育苗箱施薬剤の施用。 2化期:8月の薬剤防除。
普通期水稲	セジロウシ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0.5頭(平年16.8頭)、8月が2.7頭(平年27.1頭)、9月が10.4頭(平年12.2頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱施薬剤の施用。 8月の薬剤防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稲	トビイロウンカ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0頭(平成0.2頭)、8月が0頭(平成1.2頭)、9月上旬が0.1頭(平成9.4頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱施薬剤の施用。 8月の薬剤防除。
普通期水稲	ヒメトビウンカ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0.9頭(平成12.3頭)、8月が0.6頭(平成16.7頭)、9月が5.0頭(平成16.6頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱施薬剤の施用。
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が1.5頭(平成1.4頭)、8月が0.6頭(平成2.3頭)、9月が1.0頭(平成4.5頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱施薬剤の施用。 8月の薬剤防除。
普通期水稲	斑点米カメムシ類	8～10月	並	すくい取り調査(捕虫網20回振り)による8月の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部で90%(平成72%)、6.7頭(平成7.1頭)、県中部で40%(平成80%)、1.0頭(平成7.1頭)であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。 乳熟期の薬剤散布。
普通期水稲	フタオビコヤガ	6月～8月	並	8月の25株あたり平均虫数は0頭(平成0頭)、9月の25株あたり平均虫数は0頭(平成0頭)であった。		8月の薬剤防除。
普通期水稲	コブノメイガ	6～10月	並	紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1日～8月15日の成虫誘殺数は、9頭(平成5.6頭)であった。25株あたり平均被害葉数は、7月が0.3葉(平成0.2葉)、8月が0.3葉(平成0.7葉)、9月が0.1葉(平成1.8葉)であった。		8月の薬剤防除。
普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	並	7月の25株あたり平均虫数は0頭(過去7年の平均0頭)であった。		育苗箱施薬剤の施用。
トマト(冬春)	疫病	8～6月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
トマト(冬春)	灰色かび病	1～4月	並	3月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均5%)であった。		薬剤防除
トマト(冬春)	葉かび病	3～6月	やや多	3月の発生ほ場率は67%(過去4年の平均43%)であった。	3月中～下旬の気温が高かったため。	薬剤防除、抵抗性品種導入
トマト(冬春)	モザイク病	8～6月	並	3月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均0%)であった。		薬剤防除
トマト(冬春)	黄化葉巻病	8～6月	並	3月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均8%)であった。		タバコナジラミの防除
トマト(冬春)	タバコナジラミ	12～6月	やや多	5月の発生ほ場率は53%(平成39%)、生息葉率は10.7%(平成4.5%)であった。	感受性低下による薬剤の効果低下	防虫ネットの展張。 薬剤防除
トマト(冬春)	アブラムシ類	12～6月	やや多	5月の発生ほ場率は6.7%(平成0%)であった。	アブラムシ類防除意識の低下	防虫ネットの展張。 薬剤防除
トマト(夏秋)	疫病	5～11月	並	7月の発生ほ場率は0%(平成10%)であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	灰色かび病	5～11月	並	7月の発生ほ場率は0%(過去7年の平均0%)であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	葉かび病	6～11月	やや多	8月の発生ほ場率は60%(過去6年の平均30%)、発病株率は4.0%(過去6年の平均3.6%)であった。	生産地における7月の降水量が多かったため。	薬剤防除
トマト(夏秋)	モザイク病	6～11月	並	7月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	黄化葉巻病	6～11月	並	8月の発生ほ場率は100%(平成84%)、発生株率は22.4%(平成31.4%)であった。		タバコナジラミの防除
ナス(冬春)	うどんこ病	12～6月	並	5月の発生ほ場率は21%(平成11%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	灰色かび病	12～5月	並	5月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均6%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	やや少	5月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率26%、生息葉率6.5%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	アブラムシ類	9～6月	並	5月の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%(平成0.3%)、フタアブラムシ0%(平成0%)であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ハダニ類	9～6月	やや少	5月のカンザワハダニの発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率13%、生息葉率1.4%)、ナミハダニの発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率0%、生息葉率0%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	うどんこ病	4～10月	並	6月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均:1%、発病葉率0.01%)であった。		薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナス(夏秋)	灰色かび病	4～10月	並	6月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均2%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5～11月	並	8月の発生ほ場率は57%(平年50%)、生息葉率は21.4%(平年11.3%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	アブラムシ類	5～11月	並	6月の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%(平年1.0%)、ワタアブラムシ0.3%(平年1.3%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ハダニ類	5～11月	やや多	7月の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ57%(平年24%)、15.4%(平年5.9%)であった。ナミハダニでそれぞれ0%(平年12%)、0%(平年2.9%)であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	7～11月	やや多	9月の発生ほ場率は29%(平年14%)、生息葉率は1.7%(平年0.7%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	べと病	10～6月	やや多	5月の発生ほ場率は、県北部で60%(平年40%)、県中部で77%(平年59%)であった。	3月中～下旬および4月中～下旬の気温が高かったため。	薬剤防除
キュウリ(冬春)	うどんこ病	10～6月	並	5月の発生ほ場率は、県北部で20%(平年17%)、県中部で92%(平年86%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	灰色かび病	10～6月	並	5月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年3%)、県中部で0%(平年0%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	褐斑病	10～6月	やや少	5月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年6%)、県中部で0%(過去6年の平均56%)であった。	県中部において耐病性品種が導入されつつあるため。	薬剤防除
キュウリ(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	並	4月の発生ほ場率36%(過去8年の平均36%)、生息葉率4.5%(過去8年の平均3.1%)であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	アブラムシ類	9～6月	やや多	4月のワタアブラムシの発生ほ場率は46%(過去8年の平均13%)、生息葉率0.6%(過去8年の平均0.2%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下	薬剤防除
キュウリ(冬春)	タバコナジラミ	9～6月	やや多	4月の発生ほ場率は91%(過去8年の平均26%)、生息葉率4.6%(過去8年の平均3.6%)であった。	タバコナジラミ防除意識の低下	薬剤防除
スイカ	つる枯病	5～7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年1%)、県中部で0%(平年9%)であった。		薬剤防除
スイカ	炭疽病	5～7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年9%)、県中部で12%(平年20%)であった。		薬剤防除
スイカ	疫病	5～7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年0%)、県中部で0%(平年0%)であった。		薬剤防除
スイカ	シロイチモジヨトウ	4～8月	並	6月の発生ほ場率は46%(平年36%)、被害果率は1.4%(平年4.7%)であった。		薬剤防除 交信攪乱剤による防除
スイカ	アブラムシ類	3～8月	多	6月のワタアブラムシの発生ほ場率は92%(平年69%)、生息葉率は22.4%(平年5.5%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下	薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去9年平均1%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	白斑病	9～12月	やや多	12月の発生ほ場率は18%(過去9年平均2%)、発病株率は0.4%(平年1.3%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	べと病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去9年平均0%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10～12月	やや多	12月の発生ほ場率は18%(過去9年平均0%)、発病株率は0.4%(過去9年平均0%)であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去9年平均0%)であった。		アブラムシ類防除
キャベツ(春)	黒腐病	3～4月	並	4月の発生ほ場率は0%(過去7年の平均0%)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	菌核病	3～4月	やや少	3月の発生ほ場率は55%(過去7年の平均65%)、発病株率は1.3%(過去7年の平均3.3%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除
キャベツ(春)	アブラムシ類	12～4月	やや少	4月の発生株率は、モモアカアブラムシ2%(平年8%)、ニセダイコンアブラムシ0%(平年0.4%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除
キャベツ(春)	モンシロチョウ	4月	多	4月の発生ほ場率は33%(平年13%)であった。	3月の気温が高かったため。	薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キャベツ(春)	コナガ	12～4月	並	4月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率8%、1株当たり発生密度0.02頭)であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	ヨトウガ	4月	並	4月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	黒腐病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は9%(平成1%)、発生株率は1.1%(平成0.0%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	菌核病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は23%(過去9年平均13%)、発病株率は0.8%(過去9年平均0.9%)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	アブラムシ類	9～3月	並	10月のモモアカアブラムシの発生ほ場率は38%(平成18%)、生息株率6.3%(平成2.7%)であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は38%(平成35%)、生息株率6.9%(平成7.8%)であった。黄色水盤(紀の川市)への10月1～20日の飛来数は、29頭(平成40.8頭)であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	モンシロチョウ	9～10月	多	10月の発生ほ場率は50%(平成10%)、生息株率5.0%(平成0.6%)であった。	9月の高温および少雨の影響	薬剤防除 病害虫防除技術情報第4号(令和4年10月26日発表)により注意を喚起。
キャベツ(冬)	コナガ	9～3月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除
キャベツ(冬)	ヨトウガ	9～3月	やや多	10月の発生ほ場率は13%(平成1%)、生息株率1.9%(平成0.1%)であった。	9月の高温および少雨の影響	薬剤防除 病害虫防除技術情報第4号(令和4年10月26日発表)により注意を喚起。
キャベツ(冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	多	10月の発生ほ場率は50%(平成15%)、生息株率は6.3%(平成1.6%)であった。10月1～20日の誘殺数は、和歌山市624頭(平成1,561頭)、紀の川市814頭(平成995頭)、御坊市3,751頭(平成2,183頭)、印南町381頭(平成910頭)であった。	9月の高温および少雨の影響	薬剤防除 病害虫防除技術情報第4号(令和4年10月26日発表)により注意を喚起。
タマネギ	白色疫病	2～4月	少	3月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率25%、発病株率2.6%)であった。	2月は気温が低く、3月中旬以降の気温が高かったため。	薬剤防除
タマネギ	べと病	1～5月	やや多	4月の発生ほ場率は43%(平成29%)であった。	3月中～下旬および4月中～下旬の気温が高かったため。	薬剤防除 令和3年度病害虫発生予察注意報第4号(3月22日発表)および令和4年度病害虫発生予察注意報第1号(4月20日発表)により注意を喚起。
イチゴ	灰色かび病	10～4月	やや少	4月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均16%)であった。	3月中～下旬および4月中～下旬の気温が高かったため。	薬剤防除
イチゴ	うどんこ病	10～4月	やや少	4月の発生ほ場率は0%(過去6年の平均8%)であった。	4月上～中旬の降水量が少なかつたため。	薬剤防除
イチゴ	アブラムシ類	9～4月	並	4月の発生ほ場率11%(平成11%)、生息率9.4%(平成2.3%)であった。		薬剤防除
イチゴ	アザミウマ類	9～4月	並	4月のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率67%(過去6年の平均54%)、1花当たり生息密度0.1頭(過去6年の平均0.7頭)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%(平成:発生ほ場率11%、1花当たりの生息密度0.1頭)であった。		薬剤防除
イチゴ	ハダニ類	9～4月	やや少	4月のナミハダニは発生ほ場率33%(平成48%)、発生率17.1%(平成17.7%)、カンザワハダニは発生ほ場率0%(平成:発生ほ場率19%、発生率4.1%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除。 天敵カブリダニ類の利用。
エンドウ(秋冬)	うどんこ病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成6%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	灰色かび病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均0%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	褐斑病	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平成9%、発病率0.3%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	褐紋病	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平成10%、発病率0.4%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9～11月	並	10月の発生ほ場率は12%(平成18%)、生息株率1.8%(平成3.7%)であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	ウラナシジミ	9～12月	やや多	10月の被害発生ほ場率は93%(平成67%)、被害株率は34.0%(平成23.9%)であった。被害さや率は11.2%(平成7.7%)、1花あたりの産卵数は0.32個(平成0.18個)であった。	9月の高温および6月の少雨の影響	薬剤防除 令和4年度病害虫発生予察注意報第5号(10月28日発表)により注意を喚起。
エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8～10月	やや多	9月の発生ほ場率は54%(平成23%)、生息株率は14.6%(平成5.6%)であった。	9月の高温の影響	防除ネット被覆、薬剤防除、交信攪乱剤

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
エンドウ(秋冬)	ハダニ類	9～11月	やや多	10月の発生ほ場率は47%(平成33%)、生息株率は20.0%(平成14.0%)であった。	9月の高温の影響	薬剤防除
エンドウ(秋冬)	ハスモンコウ	9～11月	並	9月の発生ほ場率は23%(平成19%)、生息株率は3.8%(平成3.0%)であった。		薬剤防除
カンキツ	そうか病	4～10月	並	平年に比べて、7月は並、8月はやや少で推移し、10月の発生ほ場率は5%(平成4%)、発病果率は0.4%(平成0.5%)であった。	気象条件による。	常発ほ場では発芽直後に薬剤散布。その他一般防除圃では満開期を中心に予防散布。発病果実は摘果処理により除去。
カンキツ	黒点病	6～10月	やや少	予察ほ場(有田川町奥)における初発は6月11日と平成(6月3日)よりやや遅かった。10月の発生ほ場率は38%(平成63%)、発病果率は11.1%(平成21.3%)であった。	気象条件による。	幼果期(5月下旬～6月上旬)から8月下旬にかけてマンゼブ剤およびマンネブ剤の予防散布による基幹防除及び伝染源である枯枝の剪除。
カンキツ	かいよう病	5～10月	やや少	10月の果実の発生ほ場率は11%(平成19%)、発病果率は1.7%(平成2.9%)であった。	気象条件による。	罹病性品種や常発ほ場において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病枝葉の剪除。
カンキツ	灰色かび病	5～6月	並	6月の発生ほ場率は11%(平成14%)であった。	気象条件による。	満開期～落弁期の予防散布。被害果は摘果処理により除去。
カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成0.0%)であった。	気象条件による。	常発ほ場では薬剤散布と罹病果の除去。
カンキツ	貯蔵病害	10～3月	やや多	10月のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病の発生ほ場率は18%(平成12%)であった。	気象条件による。	収穫前にベンゾイミダゾール系薬剤、イミノクタジン酢酸塩剤のいずれかを散布。
カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	やや少	予察ほ場(有田川町奥)の第1世代幼虫の初発は5月9日で平成(5月14日)よりやや早かった。10月の寄生果率は0.1%(平成0.4%)、発生ほ場率2%(平成6%)であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	並	越冬雌成虫数は平成並であった。10月の寄生葉率は0.8%(平成2.0%)であった。	気象条件による	冬季または春季および6月にマシン油乳剤を散布。秋季に化学殺ダニ剤を散布。
カンキツ	ミカンサビダニ	5～11月	並	10月の発生ほ場率は2%(平成2%)であった。	気象条件による。	梅雨明け時期および秋季の発生時に薬剤散布。多発ほ場では落弁期にも実施。
カンキツ	カメムシ類	5～11月	やや少	チャハネアオカメムシの越冬成虫は平成並であった。紀の川市、有田川町、みなべ町の9月～10月の誘殺数は平年に比べやや少なかった。	夏季以降の新成虫の発生量が平成よりやや少なかったため。	発生時に薬剤を散布。
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	並	10月の被害ほ場率は20%(平成29%)であった。	気象条件による。	発生時に薬剤を散布。
カンキツ	ナシマルカイガラムシ	5～10月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。	気象条件による。	
カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	少	8月の発生ほ場率は3%(過去8年の平均15%)であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
カンキツ	アブラムシ類	5～7月	並	6月の夏秋梢における発生ほ場率は2%(過去8年の平均12%)、寄生新梢率は25.0%(過去7年の平均25.3%)であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
カキ	炭そ病	5～10月	並	刀根早生・平核無における9月中旬の果実の発生ほ場率は0%で平成並であった。富有における5月中旬の新梢での発生ほ場率は6%で平成より多く、果実では7月より発生が見られ、10月中旬の発生ほ場率は41%と平成並の発生となった。	5月中下旬に降水量が多く、山間部での発生が早かった。その後9月上旬に曇雨天が多かったが、発生時期を通じて降水量は平成並～やや少で推移し、平成並の発生にとどまった。	5月下旬～9月に定期防除を実施。
カキ	うどんこ病	5～10月	並	5月から発生が見られ、9月中旬の発生ほ場率は富有69%、刀根早生・平核無47%と平成並であった。10月中旬の富有の発生ほ場率は65%と平成よりやや少なかったが、全体としては平成並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	展葉期(4月下旬)と6、8月に定期的に防除を実施。
カキ	角斑落葉病	9～11月	並	初発は9月と平成並で、9月中旬の発生ほ場率は富有38%、刀根早生・平核無41%と平成並であった。10月中旬の発生ほ場率は、富有82%と平成よりやや多かったが、全体としては平成並の発生となった。	5月中下旬に降水量が多かったが、6月の降水量は少なく推移し、平成並の発生にとどまった。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
カキ	円星落葉病	9～11月	やや多	9月中旬の発生ほ場率は富有13%、刀根早生・平核無24%、10月中旬の富有での発生ほ場率は41%と平成よりやや多い発生であった。	5月中下旬に降水量が多く、平成よりやや多い発生となった。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
カキ	灰色かび病	5～7月	やや多	6月中旬の果実の発生ほ場率は富有50%、刀根早生・平核無53%と平成よりやや多い発生となった。	富有の開花盛期は5月15日で、開花初め～盛期まで降雨日が連続したため。	基幹防除は行われていない。一部のほ場で臨機防除が実施された。
カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	8月中旬の発生ほ場率は富有6%、刀根早生・平核無0%、9月中旬の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%で平成並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
カキ	ハマキムシ類	5～10月	やや少	6月から被害果実がみられ、9月中旬の発生ほ場率は、富有6%、刀根早生・平核無12%で、平成よりやや少ない発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	並	9月中旬の発生ほ場率は富有63%、刀根早生・平核無35%で平年並であった。10月中旬の発生ほ場率は富有59%で平年よりやや少なかった。全体としては平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	冬期の粗皮削り、越冬世代の4月上中旬および第1世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。有機リン系薬剤やネオニコチノイド系薬剤が主体である。
カキ	カメムシ類	5～10月	やや多	9月中旬の被害果の発生ほ場率は富有75%、刀根早生・平核無41%で平年よりやや多かった。10月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有88%で平年より多く、全体としてはやや多い発生となった。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年並であった。予察灯への飛来が6月中旬から8月中旬まで平年より多く推移したことからほ場への飛来も多かったと推察される。	8月下旬から9月上旬に臨機防除を実施。
カキ	チャノキイロアザミウマ	4～10月	やや少	7月中旬の発生ほ場率は、刀根早生・平核無12%と平年よりやや少ない発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	5月、6月に防除を実施。
カキ	カキクダアザミウマ	4～10月	並	6月中旬の被害葉の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%であった。	近年の発生は少ない。気象条件等による。	5月、7月に防除を実施。
モモ	せん孔細菌病	4～8月	少	4月の枝における発生ほ場率は0%（平年25%）、発病率は0.0%（平年1.2%）で平年に比べ発生はやや少なかった。春から6月の袋かけ時期までは葉及び果実の発病はやや少く推移した。7月の葉における発生ほ場率は60%（平年91%）、発病率は2.6%（平年11.7%）で平年に比べ低かった。収穫期の発病率は1.0%（平年9.0%）であった。8月の発病率は2.0%（平年23.0%）であった。	春先の伝染源となる本年4月の発病枝の発生はほとんど認められず、その後の降雨状況は、4月～5月は平年並であったが、6月はかなり少なく、発病に好適でない気象条件となった。葉および果実での発病は4月から5月はやや少なかったが、収穫時には少ない発生となった。	秋期と開花前の無機銅水和剤、生育期の抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。春型発病枝の剪除を実施。風当たりの強い園では、防風ネットや防風樹による防風対策を実施。
モモ	灰星病	5～7月	並	発生はほとんどみられなかった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。
モモ	シンクイムシ類	5～9月	並	ナシヒメシンクイによる新梢への被害は5～6月にはほとんど見られなかったが、7月の枝での発生ほ場率は50%で、平年並の発生となった。果実への被害は見られなかった。	気象条件による。	4月上中旬（落弁期）～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
モモ	カメムシ類	5～8月	並	予察灯へのチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシの誘殺数は5月下旬よりやや増加したが、全般的にモモ園への飛来は多くなかった。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年並であった。	モモ園への飛来を警戒して、一部の圃場でカメムシを対象とした薬剤散布が実施された。
モモ	ハダニ類	5～8月	並	カンザワハダニなどの発生は、6月までは平年並で推移した。7月の発生ほ場率は80%（平年35%）とやや多かったが、生息率は平年並であり、発生量は平年並であった。	気象条件による。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。
ウメ	黒星病	5～7月	やや多	予察ほ場の無防除樹における初発は5月上旬と平年並であった。一般防除園での6月の発生ほ場率は37%（平年21%）、発病率は1.0%（平年0.7%）で平年よりやや多い発生であった。	主感染時期である4月下旬の降水量が多かったことによる。	DMI剤、水和硫黄剤等により防除。
ウメ	かいはう病	3～7月	やや少	6月の発生ほ場率は44%（平年47%）、発病率は1.0%（平年1.8%）で平年よりやや少ない発生であった。	主感染時期である4月に強風を伴う降雨がなかったことによる。	発芽前に無機銅剤、生育期に抗生物質剤により防除。
ウメ	すす斑病	6～7月	やや少	予察ほ場の無防除樹における初発は6月中旬と遅く、6月中旬の発病率は27.3%（過去5年の平均49.2%）とやや少ない発生であった。	主感染時期である5月下旬から6月上旬に降雨が少なかったことによる。	DMI剤等により防除。
ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	少	本年の発生時期は4月中旬と平年並で、6月の発生ほ場率は20%（平年52%）と平年より少ない発生であった。	気象条件による。	第1世代幼虫発生前または初期にIGR剤により防除。
ウメ	コスカシバ	4～11月	やや多	6月の発生ほ場率24%（平年25%）と平年並であったが、5樹あたり被害所数が1.3（平年0.5）とやや多い発生であった。	気象条件による。	フェロモン剤で防除。多発園は枝幹散布剤や捕殺も併用。
ウメ	アブラムシ類	3～7月	やや少	被害新梢率は低く、6月の発生ほ場率は10%（平年14%）と平年よりやや少ない発生であった。	気象条件による。	発芽期にネオニコチノイド剤等で防除。
ウメ	ハダニ類	4～7月	多	発生時期は平年より早く、6月の発生ほ場率は81%（平年50%）と平年より多い発生であった。	気象条件による。	発生に応じて殺ダニ剤で防除。
ウメ	カメムシ類	4～7月	やや多	越冬成虫の飛来数は多かったが、果実被害はほとんどみられなかった。		防除は行われなかった。
キウイフルーツ	かいはう病	2～6月	並	調査期間中の葉での発病は認められなかった。	気象条件による。	発生地域では剪定に使用するハサミやノコギリの消毒。収穫後、発芽前及び生育期に無機銅剤の散布が行われた。

## Ⅶ. 作物病害虫の発生状況調査

### 1. 水稻の生育概況

#### 1. 水稻作付面積の推移（近畿農政局調べ）

	平成30年 (ha)	令和元年 (ha)	令和2年 (ha)	令和3年 (ha)	令和4年 (ha)	前年比 (%)
作付面積	6,430	6,360	6,250	6,100	5,980	98.0

・水稻作付面積は徐々に減少している。

#### 2. 作況および1等米比率の年次推移（近畿農政局調べ）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
穂数(本/㎡)	361	351	335	337	345
1穂籾数(粒/穂)	78.9	80.9	81.5	84.0	83.2
㎡当たり全籾数(百粒)	285	284	273	283	287
玄米千粒重(g)	22.1	21.6	20.9	22.3	22.2
玄米収量(kg/10a)	492	494	462	497	519
作況指数	99	99	92	100	105
1等米比率(%)	15.2	30.3	26.1	46.7	26.1

注)・令和4年の1等米比率は令和4年12月31日現在、その他の項目は令和4年12月9日公表の数値

・令和4年は令和3年に比べて穂数の増加により収量はやや増となった。1等米比率は26.1%であった。

#### 3. 作業時期および出穂期の年次推移（近畿農政局調べ）

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
田植期	6月3日	6月4日	6月6日	6月5日	6月5日
出穂期	8月5日	8月8日	8月6日	8月7日	8月5日
刈取期	9月18日	9月18日	9月17日	9月19日	9月20日

・令和4年は令和3年に比べて出穂期は2日早かったが、刈取期は1日遅かった。

#### 4. 品種の作付動向

作付面積が増加した品種：「きぬむすめ」（前年比108%）

「にこまる」（前年比120%）

作付面積が減少した品種：「キヌヒカリ」（前年比95%）

「コシヒカリ」（前年比96%）

「イクヒカリ」（前年比95%）

「ミネアサヒ」（前年比91%）

#### 5. 栽培上の変化

近年目立った変化はない。

#### 6. 気象概況、生育状況、被害程度、検査等級

1) 田植え後の気温は、6月上旬から中旬にかけて最低気温が平年を下回ったものの、6月下旬以後は最高気温が平年より大幅に上回った。日照時間は、6月中旬、7月中旬および8月

下旬に平年を下回る時期もあったものの、概して平年を上回った。降水量は、台風の接近により7月上旬に平年を上回ったが、概して平年を下回った。

- 2) 水稻の作柄は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれ、全籾数は「平年並」となった。また、出穂期以降の気温が平年を上回って経過したこと、9月以降の気温日較差が大きかったことなどから登熟は「やや良」となった。これらのことから、10a当たりの収量は519kgとなった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は105となった。
- 3) 被害は、台風等の強風雨による倒伏が散見されたほか、イノシシなどの獣害やスクミリンゴガイによる食害がみられた。また、カメムシによる吸汁害、高温による白未熟粒の発生がみられた。
- 4) 以上の結果、県内の水稻の収穫量（主食用）は3万1,000tとなり、前年産に比べ700t増加した（データ省略）。
- 5) 水稻うるち玄米の検査等級は令和4年12月31日現在で、1等：26.1%、2等：62.4%、3等：10.2%、規格外：1.3%であった。また、2等以下に格付された理由は整粒不足：21.9%、形質：60.1%、着色粒：16.8%、被害粒：0.2%であった。

## 2. 予察ほ場などにおける定点調査

### 1) 水稲予察ほ場調査

#### (1) 休閑田におけるツマグロヨコバイ・ヒメトビウンカの発生推移と齢構成

調査 月日	調査地点	調査 圃場 数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
3.4	紀の川市貴志川町高尾	4	2.0	2	0	2	4	2.8	0	2	9	0
3.4	伊都郡かつらぎ町窪	4	18.0	6	1	42	23	0.8	0	1	2	0
3.4	和歌山市小倉	4	0.5	0	0	0	2	8.8	1	5	29	0
3.24	紀の川市貴志川町高尾	4	7.3	23	0	1	5	18.5	70	0	0	4
3.24	伊都郡かつらぎ町窪	4	16.0	59	0	0	5	1.5	4	0	0	2
3.24	和歌山市小倉	4	15.8	61	0	0	2	7.3	23	0	0	6
4.5	紀の川市貴志川町高尾	4	8.5	34	0	0	0	9.3	37	0	0	0
4.5	伊都郡かつらぎ町窪	4	11.0	43	0	1	0	1.5	6	0	0	0
4.5	和歌山市小倉	4	6.5	26	0	0	0	3.0	12	0	0	0

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

#### (2) 本田(出穂後)における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地域	調査 圃場 数	平均 虫数	内訳								
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホシ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカ メ	トゲシラ ホシカメ ムシ	ホソミド リカメム シ	その他	
7.13	紀南地域	3	1.3	0	3	1	0	0	0	0	0	0
8.5	紀中地域	5	1.0	3	0	2	0	0	0	0	0	0
8.10	和歌山、海草	6	7.7	32	0	6	0	8	0	0	0	0
8.9	伊都、那賀	4	5.3	6	2	4	1	4	1	1	1	2

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

#### (3) ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

調査地点	令和 4年	平年	過去10年の年次推移(%)									
			平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年
和歌山市 小倉	0.8 (129)	7.3	15.7	10.0	9.1	12.5	4.9	6.0	2.5	4.8	4.1	3.3
かつらぎ町 窪	1.5 (131)	8.4	15.9	16.9	12.0	17.4	4.9	7.9	1.6	2.0	4.0	1.3

※ヒメトビウンカ採集及び検定は4月上旬~中旬。令和4年は和歌山市およびかつらぎ町で4月5日に採集し、4月14日に検定。

( )内の値は検定虫数(単位:頭)

検定:平成24~27年は高比重ラテックス凝集反応法、平成28年以降はDAS-ELISA法で実施。

### 3. 水稻巡回ほ場調査

#### 調査地域区分

地域 (作型)	市・郡	地域区分	調査地点	調査 圃場数
紀北 (普通期)	和歌山市	中山間	谷	17
		平坦	直川、和佐関戸、朝日、小瀬田	
	海南市	中山間	次々谷	
		平坦	別院	
	海草郡	山間	紀美野町福田	
	紀の川市	平坦	西三谷、井田、貴志川町丸栖	
	岩出市	平坦	中迫	
	橋本市	中山間	山田	
		平坦	赤塚	
	伊都郡	山間	かつらぎ町下天野	
平坦		かつらぎ町西飯降		
有田郡	平坦	広川町広		
紀中 (普通期)	御坊市	平坦	野口	7
	日高郡	山間	日高川町熊野川	
		中山間	印南町印南原、みなべ町西本庄	
		平坦	日高町高家、日高川町和佐	
田辺市A	山間	龍神村甲斐ノ川		
紀南 (早期)	田辺市B	山間	中辺路町栗栖川	6
	西牟婁郡	中山間	上富田町市ノ瀬	
		平坦	白浜町富田、すさみ町周参見立野	
	新宮市	山間	熊野川町日足神丸	
	東牟婁郡	中山間	那智勝浦町中里	

#### 水稻巡回圃場調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
和歌山市・海南市・海草郡・岩出市	7/12, 13	8/10	9/7
紀の川市・橋本市・伊都郡	7/13	8/9	9/7
有田郡・御坊市・日高郡・田辺市A	7/12	8/5	9/5
田辺市B・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡	6/13	7/13	8/5

# 1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における病害の発生状況(第1回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	4.0	4.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	3	2.3	2.3	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	12	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	17	0.9	0.9	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	3.0	3.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	3	0.7	0.7	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	7	1.1	1.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
普通期	山間	4	2.0	2.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	5	2.6	2.6	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	15	0.1	0.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	24	1.0	1.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀早期) 普通期	山間	2	4.5	4.5	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	1.0	1.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	6	1.8	1.8	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
県計	山間	6	2.8	2.8	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	7	2.1	2.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	17	0.1	0.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	30	1.1	1.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

## 圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	3.8	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.9	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀中) 普通期	山間	0.3	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	2.7	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.8	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	1.2	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
普通期	山間	2.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	1.1	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	1.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀南) 早期	山間	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
県計	山間	1.3	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.8	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.8	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-

## 圃場における害虫の発生状況(第1回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	3.5
	中山間	3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	—	0.0	—	0.0	—	0.7
	平坦	12	0.3	1.2	0.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	0.1
	計	17	0.4	0.8	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	0.6
(紀中) 普通期	山間	2	14.0	3.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	—	0.0	—	0.0	—	16.0
	中山間	2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	3	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	2.7	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	7	4.4	1.0	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	1.6	—	0.0	—	0.0	—	4.6
普通期	山間	4	7.0	1.5	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	9.8
	中山間	5	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	—	0.0	—	0.0	—	0.4
	平坦	15	0.3	1.0	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.7	—	0.0	—	0.0	—	0.1
	計	24	1.5	0.9	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.6	—	0.0	—	0.0	—	1.8
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	13.5	—	0.0	—	0.0	—	2.0
	中山間	2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	3.5	—	0.0	—	0.0	—	3.0
	平坦	2	1.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	—	0.0	—	0.0	—	2.5
	計	6	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	8.7	—	0.0	—	0.0	—	2.5
県計	山間	6	4.7	1.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	4.7	—	0.0	—	0.0	—	7.2
	中山間	7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1	1.6	—	0.0	—	0.0	—	1.1
	平坦	17	0.4	1.1	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.6	—	0.0	—	0.0	—	0.4
	計	30	1.3	0.8	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	2.2	—	0.0	—	0.0	—	1.9

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均



圃場における害虫の発生状況(第1回) 平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2.2	10.3	12.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—	0.4	—	2.2
	中山間	1.7	37.3	19.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	2.0
	平坦	0.9	7.1	12.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	—	—	0.0	—	0.3
	計	1.2	12.8	14.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	2.3	4.6	11.4	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.5	—	0.1	—	0.0	—	4.3
	中山間	3.0	28.9	51.2	1.9	0.0	0.5	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	0.7	3.7	13.2	0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.1	—	0.0
	計	1.8	11.1	23.5	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	1.2
普通期	山間	2.3	7.4	11.8	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	—	0.0	—	0.2	—	3.2
	中山間	2.2	33.9	32.4	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	1.2
	平坦	0.8	6.4	13.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.2
	計	1.4	12.3	16.8	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.9
(紀早南) 普通期	山間	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.1	5.6	—	0.0	—	0.1	—	0.1
	中山間	0.1	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	2.3	—	0.0	—	0.0	—	1.8
	平坦	1.2	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.5	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	0.5	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	3.1	—	0.0	—	0.0	—	0.6
県計	山間	1.6	5.1	8.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.4	2.0	—	0.0	—	0.2	—	2.2
	中山間	1.6	24.3	23.3	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.8	—	0.0	—	0.0	—	1.4
	平坦	0.9	5.6	11.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.5	—	0.0	—	0.0	—	0.2
	計	1.2	9.9	13.6	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	0.8	—	0.0	—	0.0	—	0.9

※過去7年の平均

## 圃場における病害の発生状況(第2回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.5	1.0
	中山間	3	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	12	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.1	0.1
	計	17	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.1	0.2
(紀中) 普通期	山間	2	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	12.0	12.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	5.0	7.0
	平坦	3	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	7	8.6	8.6	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.4	2.0
普通期	山間	4	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.3	0.5
	中山間	5	7.0	7.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	2.0	2.8
	平坦	15	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.1	0.1
	計	24	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.5	0.7
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.0	1.5
	中山間	2	11.5	15.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	6.0	23.5
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	6	3.8	5.2	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	2.3	8.3
県計	山間	6	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.5	0.8
	中山間	7	8.3	9.4	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	3.1	8.7
	平坦	17	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.1	0.1
	計	30	3.4	3.7	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.9	2.2

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

## 圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	4.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	0.8	0.0	1.3	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.2	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.5	0.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
(紀中) 普通期	山間	1.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.0
	中山間	5.1	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.6	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	2.4	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
普通期	山間	2.6	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	中山間	2.5	0.0	1.0	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.3	0.0	1.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.7	0.0	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
(紀早南) 普通期	山間	1.8	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
	中山間	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.1
	平坦	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	1.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
県計	山間	2.3	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	中山間	2.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	1.6	0.3	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6

## 圃場における害虫の発生状況(第2回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	12	1.1	0.3	4.7	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	2.3
	計	17	0.8	0.3	3.3	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	1.6
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	11.5
	中山間	2	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	3	0.0	0.3	2.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	7	0.0	1.4	1.1	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	3.3
普通期	山間	4	0.0	0.8	0.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	5.8
	中山間	5	0.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	15	0.9	0.3	4.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	1.9
	計	24	0.6	0.6	2.7	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	2.1
(紀南) 早期	山間	2	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	1.5
	平坦	2	0.0	0.0	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	6	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.5
県計	山間	6	0.0	0.5	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	3.8
	中山間	7	0.1	1.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	平坦	17	0.8	0.3	4.7	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	1.6
	計	30	0.5	0.5	2.8	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	1.8

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

## 圃場における害虫の発生状況(第2回) 平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	3.5	18.9	18.8	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.1	0.1	0.0	—	0.0	3.0
	中山間	1.4	10.9	10.9	0.3	0.0	0.3	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.6
	平坦	2.8	21.0	37.0	0.6	0.0	0.2	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.2
	計	2.6	19.0	30.3	0.5	0.0	0.3	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.6
(紀中) 普通期	山間	1.0	4.5	11.1	3.3	0.1	2.0	0.2	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	2.3
	中山間	1.1	14.9	12.4	3.7	0.0	1.3	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	2.2	13.0	29.6	2.1	0.0	1.9	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	計	1.5	11.1	19.4	2.9	0.0	1.8	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.7
普通期	山間	2.2	11.7	15.0	1.6	0.0	1.3	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	2.6
	中山間	1.3	12.5	11.5	1.7	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.3
	平坦	2.7	19.4	35.6	0.9	0.0	0.6	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.2
	計	2.3	16.7	27.1	1.2	0.0	0.7	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.6
(紀早期) 普通期	山間	2.0	10.3	62.5	0.2	0.0	1.8	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2.4	8.6	18.2	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.5
	平坦	2.9	4.5	26.3	0.0	0.0	1.9	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	計	2.5	7.8	32.4	0.1	0.0	1.3	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.6
県計	山間	2.2	11.3	27.7	1.1	0.0	1.5	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.8
	中山間	1.6	11.4	13.4	1.2	0.0	0.6	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.7
	平坦	2.7	17.7	34.5	0.8	0.0	0.7	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.2
	計	2.3	14.9	27.9	1.0	0.0	0.8	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.6

※過去7年の平均

## 圃場における病害の発生状況(第3回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.5	0.5	7.0	6.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	7.5	20.5
	中山間	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	-	-	0.0	0.0	-	6.7	0.0	0.0	7.0	15.7
	平坦	12	-	-	0.0	1.1	1.1	2.3	3.3	-	-	0.0	0.0	-	0.4	0.0	0.0	8.2	19.5
	計	17	-	-	0.0	0.8	0.8	2.5	3.1	-	-	0.0	0.0	-	1.5	0.0	0.0	7.9	18.9
(紀中) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	1.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.5	3.0
	平坦	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.3	6.3
	計	7	-	-	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.4	3.6
普通期	山間	4	-	-	0.0	0.3	0.3	3.8	3.8	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3.8	10.3
	中山間	5	-	-	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	-	-	0.0	0.0	-	4.0	0.0	0.0	4.8	10.6
	平坦	15	-	-	0.0	0.9	0.9	1.9	2.6	-	-	0.0	0.0	-	0.3	0.0	0.0	7.0	16.9
	計	24	-	-	0.0	0.6	0.6	1.9	2.4	-	-	0.0	0.0	-	1.0	0.0	0.0	6.0	14.5
(紀早期)	山間	2	-	-	1.5	0.0	1.5	0.5	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	7.0	10.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	12.5	79.5
	平坦	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	10.0	24.0
	計	6	-	-	0.5	0.0	0.5	0.2	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.8	37.8
県計	山間	6	-	-	0.5	0.2	0.7	2.7	2.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.8	10.2
	中山間	7	-	-	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	-	-	0.0	0.0	-	2.9	0.0	0.0	7.0	30.3
	平坦	17	-	-	0.0	0.8	0.8	1.6	2.3	-	-	0.0	0.0	-	0.3	0.0	0.0	7.4	17.7
	計	30	-	-	0.1	0.5	0.6	1.6	1.9	-	-	0.0	0.0	-	0.8	0.0	0.0	6.8	19.1

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

## 圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	-	7.7	1.6	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	9.7
	中山間	-	0.3	2.9	-	-	0.0	-	0.8	0.0	0.0	7.1
	平坦	-	0.8	4.9	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.5
	計	-	1.5	4.1	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	9.1
(紀中) 普通期	山間	-	0.4	2.7	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3.6
	中山間	-	7.6	4.9	-	-	0.0	-	0.0	0.2	0.0	6.7
	平坦	-	0.2	2.5	-	-	0.0	-	0.5	0.0	0.0	4.7
	計	-	2.4	3.2	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	5.0
普通期	山間	-	4.0	2.1	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.6
	中山間	-	3.2	3.7	-	-	0.0	-	0.5	0.1	0.0	6.9
	平坦	-	0.6	4.4	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.5
	計	-	1.8	3.9	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	7.9
(紀南) 早期	山間	-	4.4	1.3	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.6
	中山間	-	0.0	0.7	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	10.1
	平坦	-	0.0	0.5	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	11.4
	計	-	1.5	0.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.1
県計	山間	-	4.2	1.9	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.4
	中山間	-	2.3	2.8	-	-	0.0	-	0.4	0.0	0.0	7.8
	平坦	-	0.6	3.9	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.9
	計	-	1.7	3.3	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.1

## 圃場における害虫の発生状況(第3回)

2022年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	12	0.0	8.3	12.9	0.2	0.0	0.2	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	17	0.0	6.7	9.1	0.1	0.0	0.1	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	2	0.5	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	0.5	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	3	7.3	1.7	27.3	0.0	0.0	0.3	0.0	—	—	0.7	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	7	3.4	0.7	13.4	0.0	0.0	0.1	0.0	—	—	0.4	0.0	0.0	—	0.0	—
普通期	山間	4	0.3	0.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	5	0.2	2.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	15	1.5	7.0	15.8	0.1	0.0	0.2	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	24	1.0	5.0	10.4	0.1	0.0	0.1	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀早期)	山間	2	22.0	0.5	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	0.0	94.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2	0.0	4.0	8.5	4.5	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	6	7.3	32.8	4.2	1.5	0.0	0.7	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
県計	山間	6	7.5	0.5	1.8	0.0	0.0	0.7	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7	0.1	28.6	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	17	1.3	6.6	14.9	0.6	0.0	0.2	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	30	2.3	10.5	9.1	0.4	0.0	0.2	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均



圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2012~2021年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	4.7	16.8	17.3	15.9	0.0	0.1	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3.7	11.2	5.5	13.3	0.0	0.3	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.9	16.4	11.1	11.1	0.0	0.7	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	3.3	15.5	10.8	12.0	0.0	0.6	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	13.6	7.0	27.9	3.3	0.0	1.8	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	12.7	12.1	13.1	3.7	0.0	8.4	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	0.4	32.0	9.5	2.1	0.0	4.3	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	7.7	19.2	15.8	2.9	0.0	4.7	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
普通期	山間	9.1	11.9	22.6	9.6	0.0	1.0	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7.3	11.5	8.5	9.4	0.0	3.5	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.4	19.5	10.7	9.3	0.0	1.4	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	4.5	16.6	12.2	9.4	0.0	1.8	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀南) 早期	山間	1.1	4.3	5.4	0.2	0.0	2.3	0.1	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2.8	17.7	43.8	1.0	0.0	5.0	0.0	—	—	0.2	0.2	0.2	—	0.0	—
	平坦	4.0	15.8	11.6	2.9	0.0	0.3	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	2.6	12.7	20.3	1.4	0.0	2.5	0.0	—	—	0.1	0.1	0.1	—	0.0	—
県計	山間	6.4	9.3	18.4	6.5	0.0	1.3	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	6.0	13.3	18.6	7.0	0.0	3.9	0.0	—	—	0.1	0.1	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.6	19.1	10.8	8.5	0.0	1.3	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	4.2	15.8	13.8	7.8	0.0	1.9	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—

## 2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3822	発生面積	674	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	674	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀中 (普通期) 1258	発生面積	539	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	539	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
普通期計 5080	発生面積	1214	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	1214	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀南 (早期) 1020	発生面積	510	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	510	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
県計 6100	発生面積	1724	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	1724	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—

発生程度基準: 葉いもち: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
穂いもち: 25株あたり病穂数、少 $\leq$ 50、50 $<$ 中 $\leq$ 200、200 $<$ 多 $\leq$ 350、甚 $<$ 350  
紋枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
萎縮病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 17、甚 $<$ 17  
縞葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 17、甚 $<$ 17  
もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 3、3 $<$ 中 $\leq$ 8、8 $<$ 多 $\leq$ 15、甚 $<$ 15  
ばか苗病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 1、1 $<$ 中 $\leq$ 3、3 $<$ 多 $\leq$ 7、甚 $<$ 7  
ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
白葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 12、12 $<$ 中 $\leq$ 20、20 $<$ 多 $\leq$ 25、甚 $<$ 25  
稲こうじ病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 1、1 $<$ 中 $\leq$ 3、3 $<$ 多 $\leq$ 7、甚 $<$ 7  
内えい褐変病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 20、甚 $<$ 20

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2022年

単位: ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3822	発生面積	1124	674	450	0	0	225	0	0	674	—	0	—	0	—	674	2923		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	225	0		
	少	1124	674	450	0	0	225	0	0	674	—	0	—	0	—	450	2923		
紀中 (普通期) 1258	発生面積	539	359	359	0	0	719	0	0	1078	—	0	—	0	—	359	719		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	359	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	539	359	359	0	0	719	0	0	1078	—	0	—	0	—	0	719		
普通期計 5080	発生面積	1663	1034	809	0	0	944	0	0	1753	—	0	—	0	—	1034	3642		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	359	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	225	0		
	少	1663	1034	809	0	0	944	0	0	1753	—	0	—	0	—	450	3642		
紀南 (早期) 1020	発生面積	340	170	0	0	0	0	0	340	1020	—	0	—	0	—	850	170		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	340	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	340	—	0	—	0	—	170	0		
	少	340	170	0	0	0	0	0	340	340	—	0	—	0	—	680	170		
県計 6100	発生面積	2003	1204	809	0	0	944	0	340	2773	—	0	—	0	—	1884	3812		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	340	—	0	—	0	—	359	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	340	—	0	—	0	—	395	0		
	少	2003	1204	809	0	0	944	0	340	2093	—	0	—	0	—	1130	3812		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ: 25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

ヒメトビウンカ: 25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

セジロウンカ: 25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚<2500

トビイロウンカ: 25株あたり虫数、少≤125、125<中≤525、525<多≤1250、甚<1250

ニカメイガ: 25株あたり被害株数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚<22

コブノメイガ: 25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚<180

イチモンジセセリ: 25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネミズゾウムシ: 25株あたり虫数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネゾウムシ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

フタオビコヤガ: 25株あたり虫数、少≤25、25<中≤100、100<多≤250、甚<250

ハモグリバエ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

イナゴ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期)  3822	発生面積	1349	0	1574	0	0	-	0	-	0	-	450
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	450	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	450	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	1349	0	674	0	0	-	0	-	0	-	450
紀中 (普通期)  1258	発生面積	1258	0	539	0	0	-	0	-	0	-	180
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	539	0	0	0	0	-	0	-	0	-	180
	少	719	0	539	0	0	-	0	-	0	-	0
普通期計  5080	発生面積	2607	0	2113	0	0	-	0	-	0	-	629
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	450	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	539	0	450	0	0	-	0	-	0	-	180
	少	2068	0	1214	0	0	-	0	-	0	-	450
紀南 (早期)  1020	発生面積	170	0	340	0	0	-	0	-	0	-	340
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	170	0	0	0	0	-	0	-	0	-	170
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	0	0	340	0	0	-	0	-	0	-	170
県計  6100	発生面積	2777	0	2453	0	0	-	0	-	0	-	969
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	170	0	450	0	0	-	0	-	0	-	170
	中	539	0	450	0	0	-	0	-	0	-	180
	少	2068	0	1554	0	0	-	0	-	0	-	620

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ミズ	ゾウ	米カ	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミリン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ウ	カ	メ	コ	ト	バ	ガ	イ	ゴ
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ム	ム	ム	ヤ	ウ	エ	レ		イ
			カ		カ			セ	シ	シ	シ	ガ			セ		イ
								リ			類				ン		イ
															チ		イ
															ユ		
															ウ		
紀北 (普通期)  3822	発生面積	899	1124	1574	0	0	225	225	0	—	225	0	0	—	0	674	2473
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	225	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	225	0	0	—	0	0	0
	少	899	1124	1574	0	0	225	225	0	—	0	0	0	—	0	450	2473
紀中 (普通期)  1258	発生面積	0	719	539	0	0	539	0	0	—	180	0	0	—	0	180	899
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	180	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	少	0	719	539	0	0	539	0	0	—	180	0	0	—	0	0	899
普通期計  5080	発生面積	899	1843	2113	0	0	764	225	0	—	405	0	0	—	0	854	3372
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	405	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	225	0	0	—	0	0	0
	少	899	1843	2113	0	0	764	225	0	—	180	0	0	—	0	450	3372
紀南 (早期)  1020	発生面積	0	0	680	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	170	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	少	0	0	680	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	170	0
県計  6100	発生面積	899	1843	2793	0	0	764	225	0	—	405	0	0	—	0	1024	3372
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	405	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	225	0	0	—	0	0	0
	少	899	1843	2793	0	0	764	225	0	—	180	0	0	—	0	620	3372

発生程度基準: ツマグロヨコバイ: 25株あたり虫数、(第2回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚<750

斑点米カメムシ類: 25株あたり虫数、少≤1、1<中≤4、4<多≤10、甚<10

アワヨトウ: 25株あたり虫数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚<100

シンガレセンチュウ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3822	発生面積	-	674	2023	0	-	0	225	450	0	0	3597
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	225	0	0	899
	中	-	0	225	0	-	0	0	0	0	0	1574
	少	-	674	1799	0	-	0	225	225	0	0	1124
紀中 (普通期) 1258	発生面積	-	180	359	0	-	0	0	0	0	0	539
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	少	-	180	359	0	-	0	0	0	0	0	539
普通期計 5080	発生面積	-	854	2383	0	-	0	225	450	0	0	4136
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	225	0	0	899
	中	-	0	225	0	-	0	0	0	0	0	1574
	少	-	854	2158	0	-	0	225	225	0	0	1663
紀南 (早期) 1020	発生面積	-	170	170	0	-	0	0	0	0	0	1020
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	170
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	170
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	340
	少	-	170	170	0	-	0	0	0	0	0	340
県計 6100	発生面積	-	1024	2553	0	-	0	225	450	0	0	5156
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	170
	多	-	0	0	0	-	0	0	225	0	0	1069
	中	-	0	225	0	-	0	0	0	0	0	1914
	少	-	1024	2328	0	-	0	225	225	0	0	2003

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク	
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ズ	ズ	米	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミ	リン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	ガ	ジ	ウ	ウ	カ	コ	ト	バ	ガ	レ	ン	ゴ
		コ	ン	カ	ン			セ	ム	ム	メ	ヤ	ウ	エ	レ	セ	ン	ゴ
		バイ	カ	カ	カ			セ	シ	シ	ム	ガ			セ	ン	ゴ	ガ
								リ			シ				ン	ン	イ	イ
											類				チ	チ	イ	
															ユ	ユ		
紀北 (普通期) 3822	発生面積	0	1574	899	225	0	450	0	-	-	225	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	225	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	0	1349	899	225	0	450	0	-	-	225	0	0	-	0	-	-	
紀中 (普通期) 1258	発生面積	719	539	899	0	0	180	0	-	-	539	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	719	539	899	0	0	180	0	-	-	539	0	0	-	0	-	-	
普通期計 5080	発生面積	719	2113	1798	225	0	629	0	-	-	764	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	225	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	719	1888	1798	225	0	629	0	-	-	764	0	0	-	0	-	-	
紀南 (早期) 1020	発生面積	170	680	510	170	0	170	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	170	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	170	510	510	170	0	170	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
県計 6100	発生面積	889	2793	2308	395	0	799	0	-	-	764	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	170	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	225	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	889	2398	2308	395	0	799	0	-	-	764	0	0	-	0	-	-	

発生程度基準: ツマグロヨコバイは第2回発生面積の基準に同じ  
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 い もち	穂 い もち	紋 枯 病	萎 縮 病	縞 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	ば か 苗 病	ご ま 葉 枯 病	白 葉 枯 病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期)  3822	発生面積	1349	674	2023	0	0	0	225	450	0	0	3597
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	899
	中	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	1574
	少	1349	674	1799	0	0	0	225	225	0	0	1124
紀中 (普通期)  1258	発生面積	1258	180	539	0	0	0	0	0	0	0	539
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	539	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	719	180	539	0	0	0	0	0	0	0	539
普通期計  5080	発生面積	2607	854	2563	0	0	0	225	450	0	0	4136
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	899
	中	539	0	225	0	0	0	0	0	0	0	1574
	少	2068	854	2338	0	0	0	225	225	0	0	1663
紀南 (早期)  1020	発生面積	510	170	340	0	0	0	0	0	0	0	1020
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	340
	少	510	170	340	0	0	0	0	0	0	0	340
県計  6100	発生面積	3117	1024	2903	0	0	0	225	450	0	0	5156
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	多	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	1069
	中	539	0	225	0	0	0	0	0	0	0	1914
	少	2578	1024	2678	0	0	0	225	225	0	0	2003



主要害虫の発生程度別面積(年計)

2022年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ネ	ネ	点	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミ
		コ	ウ	ウ	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ゾ	米	ビ	ト	バ	ガ	リン	ゴ
		バイ	ン	ン	ン		ガ	セ	ウム	ウム	カ	コ	ウ	エ	レ	ン	ガ
			カ	カ	カ			セ	シ	シ	メ	ヤ			セ	チ	イ
								リ			ム	ガ			ン	ユ	イ
											シ				ウ		
紀北 (普通期)  3822	発生面積	1124	1574	1574	225	0	450	225	0	674	225	0	0	0	0	674	2923
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	225	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	225	0
	少	1124	1349	1574	225	0	450	225	0	674	0	0	0	0	0	450	2923
紀中 (普通期)  1258	発生面積	719	719	899	0	0	719	0	0	1078	539	0	0	0	0	359	899
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	359	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	719	719	899	0	0	719	0	0	1078	539	0	0	0	0	0	899
普通期計  5080	発生面積	1843	2293	2472	225	0	1169	225	0	1753	764	0	0	0	0	1034	3821
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	359	0
	中	0	225	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	225	0
	少	1843	2068	2472	225	0	1169	225	0	1753	539	0	0	0	0	450	3821
紀南 (早期)  1020	発生面積	340	680	680	170	0	170	0	340	1020	0	0	0	0	0	850	170
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	170	0	0	0	0	0	0	340	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	340	0	0	0	0	0	170	0
	少	340	510	680	170	0	170	0	340	340	0	0	0	0	0	680	170
県計  6100	発生面積	2183	2973	3152	395	0	1339	225	340	2773	764	0	0	0	0	1884	3991
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	170	0	0	0	0	0	0	340	0	0	0	0	0	359	0
	中	0	225	0	0	0	0	0	0	340	225	0	0	0	0	395	0
	少	2183	2578	3152	395	0	1339	225	340	2093	539	0	0	0	0	1130	3991

#### 4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

##### 1) 予察灯 (60W白熱灯)

単位：頭

月 半月	ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ						セジロウンカ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	1	0.2	0	0.0	0	0.1	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1	0	0.1	1	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
5 3	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.2
5	0	0.0	0	0.8	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
6	1	0.2	0	1.2	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	0.1	0	0.1
1	1	1.1	1	1.3	0	0.9	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.6
2	0	2.5	0	9.7	0	1.6	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0.2	0	1.3	0	0.3
6 3	2	1.3	0	3.8	0	4.6	0	0.5	0	0.1	0	0.2	0	0.8	0	1.5	1	1.8
4	0	0.1	0	11.3	1	5.8	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.7	0	2.2	0	6.1
5	2	0.1	0	15.9	5	3.9	0	0.3	0	0.2	0	0.5	0	0.3	0	0.8	10	4.9
6	0	0.2	0	8.1	9	2.7	0	0.4	0	0.6	1	0.0	0	1.1	2	2.5	0	3.2
1	0	0.2	0	2.9	10	33.9	0	0.3	0	0.0	1	0.2	2	6.2	3	37.6	59	12.7
2	1	0.0	0	3.5	25	24.5	5	0.3	0	0.0	1	0.6	13	3.7	2	2.8	24	7.6
7 3	4	0.8	0	4.4	22	62.6	2	0.3	0	0.8	1	5.0	2	4.9	1	9.6	19	8.5
4	2	0.8	0	16.9	9	92.5	1	0.6	0	0.1	3	1.2	39	1.3	12	6.1	20	3.9
5	12	2.9	0	34.7	26	80.8	0	1.0	1	0.3	0	1.6	12	5.2	13	2.0	87	8.6
6	21	3.3	0	15.5	14	69.8	1	0.7	1	1.0	0	1.5	14	3.5	7	4.3	28	12.4
1	5	1.4	5	4.2	2	24.5	3	4.8	7	3.5	4	9.6	11	5.7	9	7.2	17	12.4
2	6	2.1	0	2.8	16	19.5	2	4.5	4	1.0	9	2.5	9	24.4	13	9.5	108	6.6
8 3	4	4.5	0	1.4	17	41.9	1	3.5	0	0.5	6	8.9	16	14.7	3	3.5	130	17.6
4	9	1.9	0	0.6	15	78.2	7	3.1	0	2.7	2	9.5	25	25.8	16	21.0	48	93.0
5	1	1.6	0	0.5	9	74.9	8	3.3	1	0.2	6	1.5	71	21.8	16	7.1	126	62.8
6	0	2.8	0	0.5	4	54.5	1	4.8	2	1.2	25	5.0	14	19.3	47	10.9	442	121.5
合 計	73	27.9	6	140.4	184	678.3	33	29.4	16	12.4	59	49.9	228	140.7	144	130.4	1119	385.5

単位：頭

月 半旬	トビイロウンカ						ニカメイガ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	35	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	0.7	0	0.8
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	31	0.5	6	0.6
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	8.1	1	0.8
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	7.9	1	5.6
5 3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	8.9	7	7.9
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2.9	0	1.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.1	1	3.3
6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	4	3.3	1	1.3
1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4	0	0.6
2	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	1	0.9
6 3	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	1.5
4	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4
5	0	0.0	0	0.1	1	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.5
6	0	0.1	0	0.3	0	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8	0	1.0
1	0	0.2	0	14.2	0	4.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	3.3
2	0	0.4	0	0.4	0	8.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.3	28	4.8
7 3	0	0.5	0	0.8	0	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	18	5.2
4	3	0.6	0	0.1	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.5	8	10.2
5	0	0.1	0	0.3	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	3	0.6	17	4.6
6	0	0.3	0	0.2	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7	8	6.2
1	0	0.5	0	0.8	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	0.4	2	3.2
2	0	1.1	0	1.1	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.0	9	2.5
8 3	1	1.3	0	0.5	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.2	4	1.0
4	1	1.0	0	0.8	0	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.6	6	0.5
5	2	2.2	0	3.6	1	8.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.5
6	1	22.0	0	47.5	4	37.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	2	0.2
合 計	8	30.2	0	71.1	8	79.0	0	0.4	0	0.0	0	0.1	0	0.2	121	50.7	121	69.1

斑点米カメムシ類

紀の川市

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	1	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	1	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	1	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	1	0
2	0	0	0	0	0	0	1	0
6 3	0	0	0	0	0	0	7	0
4 4	0	0	0	0	0	0	1	0
5 5	0	0	0	0	0	1	3	0
6 6	0	0	1	0	0	8	4	0
1	0	0	0	0	2	12	18	0
2	0	0	0	0	0	6	41	0
7 3	1	0	0	0	0	12	15	0
4 4	0	0	0	0	1	6	1	0
5 5	3	0	0	0	0	7	9	0
6 6	6	1	0	0	0	16	8	0
1	5	0	3	0	1	21	5	0
2	6	0	2	0	0	8	5	0
8 3	7	2	0	0	1	13	7	0
4 4	7	0	0	0	1	8	4	0
5 5	10	0	1	0	0	44	3	1
6 6	1	0	0	0	0	13	0	0
合 計	46	3	8	0	6	175	135	1

## 上富田町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	1	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	3	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	1	0	0
6 3	0	0	0	0	0	3	0	0
4	0	0	0	0	0	6	0	0
5	0	0	0	0	0	4	0	0
6	0	0	0	0	0	2	0	0
1	0	0	0	0	1	2	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	1
7 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	1
5	0	0	0	0	0	2	0	0
6	0	0	0	0	2	1	1	0
1	0	0	0	0	0	4	0	0
2	2	0	0	0	0	0	0	0
8 3	0	0	0	0	1	0	0	2
4	0	0	0	0	0	1	0	1
5	0	0	0	0	1	1	2	0
6	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計	2	0	0	0	7	30	3	5

那智勝浦町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
4	1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	1	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	2	0	0
	3	0	0	0	0	5	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	5	0	0
	3	0	0	0	0	12	0	0
	4	0	0	1	0	46	0	0
	5	1	0	0	0	17	1	0
	6	1	0	0	0	16	0	2
7	1	0	0	0	0	17	0	3
	2	1	3	0	0	33	6	10
	3	0	0	0	0	11	1	2
	4	0	0	0	0	6	0	2
	5	1	1	0	0	33	4	13
	6	9	0	0	0	32	5	7
8	1	3	0	0	0	14	0	10
	2	8	1	0	0	28	1	9
	3	7	2	0	0	44	2	5
	4	7	2	0	0	24	0	12
	5	1	0	0	0	19	3	6
	6	5	1	0	0	13	57	0
合 計	44	10	1	0	71	479	23	81

## 2) フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.1
	2	0	0.8
4	3	0	0.7
	4	0	0.5
	5	0	1.0
	6	0	0.4
<hr/>			
	1	0	0.6
	2	0	0.3
5	3	0	0.3
	4	0	0.3
	5	0	0.3
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
6	3	0	0.2
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.4
7	3	0	0.4
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
9	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.1
<hr/>			
合 計		0	8.7

## 3) 蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.0
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	0	0.5
	4	0	0.7
	5	0	1.3
	6	1	2.3
<hr/>			
	1	3	2.3
	2	4	1.8
8	3	2	1.6
	4	—	—
	5	—	—
	6	—	—
<hr/>			
合 計		10	10.5

## Ⅷ. 野菜病害虫の発生状況調査

### 1. 巡回調査における発生状況

#### 1) キャベツ

##### ①キャベツにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	黒腐病		菌核病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
4.19	12	0	0	0	0	0	0
10.20	11	9	1.1	0	0	-	-
12.16	13	8	0.2	23	0.8	-	-
3.16	13	-	-	39	1.7	54	1.9

注) 1圃場100株調査

##### ②キャベツにおける害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				コナガ		モンシロチョウ		その他	
		モモアカアブラムシ		ニセダイコンアブラムシ		発生圃場率 (%)	生息密度 (頭/株)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)						
4.19	9	11	2.2	0	0	0	0	33	4.4		
10.20	8	38	6.3	38	6.9	0	0	50	5.0		
3.16	9	0	0	0	0	0	0	0	0		

調査 月日	調査 圃場数	ヨトウガ		ハスモンヨトウ		ウワバ類		オオタバコガ		シロイチモジヨトウ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.19	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.20	8	13	1.9	50	6.3	0	0	38	3.1	0	0
3.16	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場20株調査

#### 2) ハクサイ

##### ①ハクサイにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		軟腐病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.20	12	0	0	0	0	0	0
12.16	11	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	白斑病		黒斑病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.20	12	0	0	9	0.7
12.16	11	18	0.4	18	0.4

注) 1圃場100株調査



### 3) スイカ

#### ①露地栽培スイカにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.16, 19	14	0	0	0	0	0	0	0	0
6.13	14	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

#### ②露地栽培スイカにおける病害の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.20	14	0	0	0	0	0	0	0	0
6.21	17	0	0	0	0	0	0	12	0.5

注) 1圃場100葉または50茎調査

#### ③露地栽培スイカにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類 ※1		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	被害果率 (%)
4.19	15	60	2.1	87	9.5	0	0	0	0	-
5.23	15	40	1.4	47	1.5	0	0	0	0	0
6.22	13	92	22.4	62	8.5	0	0	46	0	1.4

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.19	15	0	0	7	0.2	7	0.1
5.23	15	0	0	7	0.1	13	0.3
6.22	13	0	0	23	0.5	15	0.2

注) 1圃場100葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

※1 発生種：ワタアブラムシ

#### 4) キュウリ

##### ①施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		斑点細菌病		べと病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.19	10	0	0	0	0	30	3.7	10	0.2
5.19	10	0	0	0	0	60	12.5	20	0.9
6.14	10	0	0	0	0	60	9.1	20	1.2

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.19	10	0	0	0	0	10	0.2
5.19	10	0	0	0	0	0	0
6.14	10	0	0	0	0	10	0.1

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

##### ②施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.20	12	0	0	25	4.5	0	0	58	12.9
5.24	13	0	0	15	8.3	0	0	77	27.0
3.22	13	0	0	8	0.2	0	0	39	11.5

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.20	12	83	22.2	0	0	0	0	0	0
5.24	13	92	13.5	0	0	0	0	0	0
3.22	13	46	7.4	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

### ③施設栽培キュウリにおける害虫の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類		コナジラミ類			
						オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.20	11	46	0.6	27	0.8	0	0	91	4.6
5.24	13	8	0.1	8	0.4	8	0.1	85	5.4
3.16	10	0	0	10	0.1	0	0	60	9.9

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.20	11	36	4.5	9	0.2	18	0.3
5.24	13	31	3.0	0	0	0	0
3.16	10	33	3.3	0	0	0	0

注) 1圃場50株、2葉/株調査

## 5) ナス

### ①露地栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
5.16	5	0	0	0	0
6.13	5	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

### ②施設栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.19	10	20	0.8	0	0	0	0
5.16	14	21	0.4	0	0	0	0
6.14	14	21	0.7	0	0	14	0.2

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

### ③露地栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.22	7	0	0	14	0.3	29	1.1	0	0
7.13	7	0	0	43	2.0	57	15.4	0	0
8.22	7	0	0	14	6.0	43	9.9	43	1.4
9.22	7	0	0	14	0.6	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.22	7	57	3.4	0	0.0	0	0
7.13	7	0	0	14	0.1	0	0
8.22	7	57	21.4	0	0	0	0
9.22	7	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
		6.22	7	0	0
7.13	7	0	0	0	0
8.22	7	14	0.1	0	0
9.22	7	29	1.7	0	0

注) 1圃場中位葉100枚調査

### ④施設栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.19	8	0	0	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類							
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.19	8	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場中位葉25枚調査

## 6) トマト・ミニトマト

### ①露地栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（日高町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		疫病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病率 (%)
6.17	8	0	0	0	0	0	0	13	0.8
7.21	7	0	0	14	0.6	0	0	29	6.0
8.19	5	0	0	100	22.4	0	0	0	0

注) 1圃場50株、50複葉調査

### ②施設栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		灰色かび病		葉かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.13	14	0	0	7	0.1	0	0	0	0
10.17	13	0	0	0	0	0	0	0	0
11.16	13	0	0	8	0.2	0	0	0	0
12.14	13	0	0	31	1.5	0	0	23	4.6
1.18	13	0	0	8	0.2	0	0	46	12.3
2.13	13	0	0	0	0	0	0	40	9.8
3.15	13	0	0	23	1.5	0	0	46	11.5

注) 1圃場50株、50複葉調査

### ③施設栽培ミニトマトにおける害虫の発生状況（印南町、日高町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		アブラムシ類		ハダニ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.27	15	53	10.7	0	0	7	0.1	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類	
		発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)
5.27	15	0	0

注) 1圃場100葉調査

## 7) タマネギ

### ①タマネギにおける病害の発生状況（和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	さび病		べと病				白色疫病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	(越年罹病株)		(二次感染株)		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)				
4.15	30	0	0	0	0	43	3.4	27	0.2	0	0
2.15	30	0	0	3	0.1	0	0	7	0.1	40	31.3
3.15	30	0	0	13	0.2	0	0	3	0.03	0	0

注) 1圃場500株調査

## 8) エンドウ

### ①露地栽培サヤエンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
9.21	13	0	0	0	0	8	0.2
10.19	14	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.21	13	0	0	0	0
10.19	12	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

### ②露地栽培実エンドウにおける病害の発生状況（印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.13	12	0	0	8	0.7	33	0.5

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
3.13	12	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

### ③露地栽培エンドウにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類				アザミウマ類	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	カンザワハダニ		ナミハダニ		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)		
9.22	13	0	0	15	8.5	0	0	8	0.8
10.24	17	0	0	47	20.0	0	0	100	64.7

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ウラナミシジミ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
10.24	17	0	0	0	0	12	1.8	82	34.0

注) 1圃場10株調査

### 9) イチゴ

#### ①施設栽培イチゴにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		うどんこ病			
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	(葉)		(果実)	
				発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
3.16	10	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100果または100葉調査

#### ②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		アザミウマ類		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
3.16	9	22	5.0	0	0	11	0.0	22	7.3

注) 1圃場20～30株、1株1複葉調査

## 2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市：紀の川市貴志川町高尾  
和歌山市：和歌山市岩橋

御坊市：御坊市名田町野島  
印南町：日高郡印南町印南

### 1) コナガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年			本年	平年		
1	1	2	0.5	1	1.0	7	1	0	0.2	8	18.2
	2	2	0.3	0	1.3		2	0	0.4	4	8.8
	3	0	0.8	0	0.3		3	0	0.2	0	2.8
	4	0	0.6	1	2.5		4	0	0.0	0	1.7
	5	0	0.9	0	0.5		5	0	0.1	2	0.3
	6	4	1.2	1	0.4		6	0	0.0	2	0.7
2	1	1	0.6	0	0.4	8	1	0	0.0	0	0.1
	2	0	0.3	0	0.6		2	0	0.1	0	0.2
	3	0	0.2	0	0.4		3	0	0.1	0	0.0
	4	0	0.3	0	0.8		4	0	0.0	0	0.2
	5	1	0.3	0	2.0		5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.6	0	1.2		6	0	0.1	1	0.1
3	1	2	1.1	0	2.4	9	1	0	0.0	0	0.7
	2	0	1.7	1	3.5		2	0	0.0	0	1.7
	3	0	0.6	5	4.3		3	0	0.0	1	4.2
	4	1	1.7	5	10.2		4	0	0.0	0	8.4
	5	1	2.9	12	11.9		5	0	0.0	5	9.0
	6	0	2.2	18	17.5		6	0	0.0	5	8.3
4	1	0	2.9	8	18.1	10	1	0	0.1	1	9.9
	2	0	2.1	22	18.8		2	0	0.0	11	12.8
	3	2	2.3	35	24.5		3	0	0.0	15	15.5
	4	1	1.6	10	22.6		4	0	0.0	4	14.8
	5	1	1.9	16	20.2		5	0	0.3	3	13.5
	6	1	1.3	22	13.8		6	0	0.2	9	11.7
5	1	0	2.0	29	26.5	11	1	0	0.2	6	10.5
	2	1	4.0	37	31.2		2	0	0.5	2	10.5
	3	0	3.6	41	57.2		3	0	0.4	6	8.7
	4	0	4.0	23	73.4		4	0	0.8	1	11.4
	5	0	2.4	61	96.1		5	0	1.0	1	9.1
	6	2	1.4	81	96.9		6	1	1.9	8	5.8
6	1	0	1.2	12	32.7	12	1	1	0.4	2	3.2
	2	0	1.0	4	6.0		2	0	0.8	3	4.1
	3	1	1.0	2	3.0		3	0	0.7	7	3.1
	4	0	0.3	0	5.5		4	0	0.9	0	1.9
	5	0	0.0	1	13.8		5	0	1.4	3	3.8
	6	0	0.4	6	18.2		6	0	1.2	0	1.6
						合 計		25	61.7	564	857.0



## 2) ハスモンヨトウ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	0	0.0	0	0.0	0	1.6	0	0.9
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.8
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.3
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	6	4	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.1
2	1	1	0.1	0	0.0	0	0.5	0	0.4
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.5
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.4
	5	1	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.5
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
3	1	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.4
	2	0	0.1	0	0.2	0	1.4	0	1.0
	3	1	0.0	0	0.1	0	0.8	0	1.9
	4	0	0.0	2	0.0	1	2.5	0	2.3
	5	0	0.3	0	0.3	0	3.3	0	3.6
	6	0	0.4	1	0.6	3	4.5	0	2.3
4	1	0	0.7	0	0.6	4	7.5	0	2.3
	2	1	0.8	1	1.1	3	10.9	0	2.1
	3	0	0.4	2	0.6	1	7.0	0	7.6
	4	0	1.9	1	1.7	3	19.6	0	8.4
	5	1	2.7	1	4.8	0	10.4	0	8.3
	6	2	1.4	1	8.4	6	11.9	0	9.7
5	1	2	3.8	2	7.4	7	13.3	0	12.8
	2	1	5.6	4	6.9	12	19.0	1	13.7
	3	6	4.2	7	7.2	14	18.0	2	17.0
	4	11	8.2	10	8.8	75	23.6	1	24.6
	5	4	10.3	13	18.2	21	27.3	4	21.4
	6	4	17.4	5	20.9	13	29.6	5	17.7
6	1	0	4.6	1	12.6	7	17.0	3	9.5
	2	4	7.4	10	21.4	19	24.8	1	7.4
	3	3	7.8	8	22.3	22	23.3	1	18.7
	4	6	16.5	8	45.4	25	23.3	1	18.5
	5	31	20.1	30	61.0	33	24.4	2	23.4
	6	19	22.1	36	48.1	49	58.3	4	25.5
7	1	6	56.8	8	87.5	22	65.7	2	16.5
	2	13	26.2	6	37.6	42	45.3	4	11.6
	3	4	10.8	1	21.2	16	20.5	4	8.9
	4	14	11.8	4	10.4	55	13.3	4	7.4
	5	13	15.5	29	23.1	63	12.0	0	8.0
	6	15	22.4	7	48.8	80	32.8	15	24.5
8	1	42	16.6	10	24.2	88	36.5	6	18.6
	2	42	44.4	1	39.2	72	40.8	8	31.7
	3	79	46.9	3	34.0	67	21.8	9	12.8
	4	250	51.5	11	23.6	140	18.2	7	11.1
	5	125	46.7	58	86.2	77	29.2	11	14.0
	6	169	101.1	116	229.4	226	114.5	12	54.3
9	1	105	112.5	116	436.3	312	133.5	21	109.0
	2	148	129.6	96	342.6	229	291.1	11	122.3
	3	194	105.3	73	272.4	14	189.4	16	97.1
	4	813	108.2	90	243.1	361	209.0	11	83.5
	5	594	82.7	309	273.9	245	159.3	24	80.9
	6	164	84.3	362	437.0	559	347.0	18	82.6
10	1	164	142.6	198	436.3	760	446.8	82	144.0
	2	213	258.7	126	489.6	1295	498.6	91	232.9
	3	282	256.2	145	425.3	1150	641.3	68	234.5
	4	155	337.9	155	209.3	546	596.0	140	298.5
	5	227	304.6	199	254.6	213	331.0	84	215.5
	6	37	356.5	296	331.8	402	474.1	117	155.9
11	1	128	209.5	114	213.9	426	345.0	93	130.9
	2	263	302.2	107	204.1	582	346.3	154	172.5
	3	167	270.1	106	112.1	315	204.4	114	189.8
	4	94	293.6	65	127.7	300	180.5	137	125.8
	5	124	171.8	61	85.3	167	146.8	105	118.1
	6	206	69.3	283	31.3	50	43.8	77	64.9
12	1	6	50.6	23	37.9	3	66.0	48	51.1
	2	32	16.2	18	10.6	29	27.7	31	20.0
	3	16	11.4	23	2.1	40	26.7	30	19.1
	4	0	0.5	0	0.9	0	5.9	8	5.4
	5	0	2.2	0	2.4	1	6.7	5	8.5
	6	0	0.2	0	0.4	0	3.6	0	1.7
合 計		5006	4264.3	3362	5944.8	9265	6558.2	1592	3209.6

## 3) シロイチモジヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1 1	—	—	0	0.9	0	0.1
1 2	—	—	0	0.6	0	1.0
1 3	—	—	0	0.0	0	0.5
1 4	—	—	0	0.2	0	0.5
1 5	—	—	0	0.0	0	0.0
1 6	—	—	0	0.0	0	0.0
2 1	—	—	0	0.1	0	0.0
2 2	—	—	0	0.2	0	0.1
2 3	—	—	0	0.1	0	0.0
2 4	—	—	0	0.3	0	0.1
2 5	—	—	0	0.2	0	0.0
2 6	—	—	0	0.3	0	0.0
3 1	—	—	0	0.5	0	0.1
3 2	—	—	0	0.2	0	0.3
3 3	—	—	0	0.7	0	0.1
3 4	—	—	0	1.3	0	0.3
3 5	—	—	1	0.8	0	0.6
3 6	—	—	0	1.1	0	0.0
4 1	0	0.1	0	2.4	0	0.4
4 2	0	0.1	0	2.2	0	0.4
4 3	0	0.0	1	2.9	0	0.8
4 4	0	0.3	0	6.8	0	0.9
4 5	0	0.5	1	6.2	0	0.7
4 6	3	1.0	0	3.6	0	1.3
5 1	1	0.7	0	5.3	0	0.8
5 2	0	0.6	2	6.8	0	0.6
5 3	0	0.6	3	8.3	0	1.1
5 4	0	1.5	2	9.5	0	1.7
5 5	0	2.5	2	5.5	0	1.7
5 6	2	3.6	6	6.6	0	1.8
6 1	0	4.0	3	8.8	0	2.0
6 2	1	5.0	1	17.4	0	4.4
6 3	3	4.4	3	13.3	0	3.6
6 4	4	2.9	3	15.4	0	3.3
6 5	6	2.0	2	14.8	0	6.2
6 6	7	4.8	4	16.9	0	5.1
7 1	4	7.1	5	15.6	0	5.5
7 2	11	4.9	41	17.2	0	4.4
7 3	10	3.7	9	15.8	0	4.9
7 4	15	5.6	20	16.5	0	5.7
7 5	4	6.2	12	8.7	0	5.6
7 6	8	8.7	6	10.3	0	3.0
8 1	4	3.9	11	24.4	0	4.5
8 2	4	4.9	4	36.5	1	6.7
8 3	10	7.5	7	5.9	0	3.0
8 4	28	8.5	7	8.3	0	3.9
8 5	34	4.7	2	6.8	0	1.5
8 6	28	12.0	8	7.0	0	1.4
9 1	11	7.8	24	11.0	1	0.9
9 2	19	9.7	20	14.6	0	1.1
9 3	26	12.5	5	14.6	1	3.0
9 4	80	14.6	13	19.5	0	4.1
9 5	31	9.3	16	14.7	0	1.4
9 6	16	7.1	17	10.5	1	0.4
10 1	15	4.7	8	16.4	1	2.1
10 2	11	4.6	17	16.0	1	3.3
10 3	3	3.4	23	15.7	2	1.9
10 4	6	3.0	10	11.3	0	0.6
10 5	2	1.3	4	9.7	1	1.6
10 6	3	0.9	2	8.6	0	3.6
11 1	1	1.0	2	9.6	1	1.2
11 2	0	1.3	0	12.8	0	1.4
11 3	0	2.0	3	11.6	1	2.1
11 4	3	1.9	3	6.7	1	1.4
11 5	2	0.8	5	2.7	0	0.9
11 6	1	1.3	3	1.3	2	1.0
12 1	0	0.4	0	2.4	1	0.5
12 2	0	0.3	1	1.0	2	0.1
12 3	0	0.2	1	1.0	0	0.1
12 4	0	0.0	0	0.3	1	0.0
12 5	0	0.0	0	1.0	0	0.6
12 6	0	0.0	1	0.4	0	0.6
合 計	417	200.4	344	546.6	18	122.6

## 4) オオタバコガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	2	0.3	—	0.3
	2	—	—	1	1.1	—	0.8
	3	—	—	0	0.9	0	0.4
	4	—	—	3	0.5	0	0.3
	5	—	—	1	0.3	0	1.5
	6	—	—	2	0.6	0	0.1
2	1	—	—	1	0.1	0	0.0
	2	—	—	0	0.5	0	0.1
	3	—	—	0	0.1	0	0.0
	4	—	—	0	0.3	0	0.0
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	0	0.3	1	0.5
	2	—	—	0	0.3	0	0.3
	3	—	—	0	0.3	0	0.1
	4	—	—	1	0.3	0	0.1
	5	—	—	0	0.0	0	0.0
	6	—	—	0	0.6	0	0.0
4	1	0	0.4	0	0.6	0	0.1
	2	1	0.6	0	0.4	0	0.1
	3	1	0.1	1	0.5	0	0.5
	4	1	0.3	0	0.6	0	0.4
	5	2	0.9	0	0.8	0	0.4
	6	1	1.1	5	1.3	0	0.4
5	1	4	2.1	4	0.9	0	0.1
	2	1	2.8	5	1.6	0	0.9
	3	5	4.0	4	1.5	0	2.1
	4	5	4.9	3	2.4	0	2.9
	5	1	3.6	2	0.5	0	2.6
	6	2	2.6	1	1.4	1	1.6
6	1	2	3.6	7	0.9	2	0.4
	2	1	2.1	4	0.4	1	1.3
	3	0	2.6	2	0.6	1	1.8
	4	2	1.8	3	0.3	0	3.0
	5	4	3.5	22	2.6	1	1.6
	6	6	7.0	15	1.4	2	0.6
7	1	7	7.9	12	3.3	1	0.6
	2	0	4.5	0	1.9	2	1.1
	3	1	2.4	2	2.0	2	0.5
	4	3	0.9	13	0.6	7	0.6
	5	2	1.5	1	0.6	2	0.6
	6	1	3.6	0	0.0	9	0.4
8	1	3	4.0	0	0.4	欠	0.3
	2	1	2.9	0	0.8	4	0.3
	3	2	2.5	0	0.1	5	0.0
	4	3	1.3	0	0.1	4	0.3
	5	3	1.9	0	0.4	4	0.0
	6	5	4.6	1	0.6	1	0.1
9	1	3	8.3	0	0.0	0	0.0
	2	4	6.9	0	0.6	0	0.6
	3	0	2.8	0	0.5	0	0.7
	4	22	3.6	5	2.0	0	1.3
	5	12	2.9	4	2.3	6	4.3
	6	7	2.0	4	3.6	3	4.9
10	1	7	4.0	0	3.0	8	3.0
	2	13	7.8	4	8.9	9	6.6
	3	3	7.4	12	8.5	7	3.8
	4	7	7.5	10	6.5	47	12.4
	5	7	5.9	3	3.6	18	16.6
	6	9	4.9	36	2.0	13	14.6
11	1	7	2.5	15	4.1	5	7.9
	2	3	3.1	7	3.6	10	5.9
	3	2	5.6	9	4.3	8	6.1
	4	0	5.8	7	3.4	10	4.5
	5	4	1.3	12	3.3	7	4.4
	6	3	2.5	6	2.1	8	4.8
12	1	0	3.1	2	3.1	3	3.9
	2	0	0.1	3	0.9	5	2.6
	3	0	0.3	2	1.1	1	1.5
	4	0	0.4	3	0.3	1	0.3
	5	1	0.5	1	0.8	0	0.6
	6	0	1.0	1	0.5	0	0.4
合	計	184	171.8	253	102.8	218	141.0

## 5) ヨトウガ

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
3	1	11	8.0
	2	8	6.3
	3	23	5.0
	4	12	2.4
	5	8	2.2
	6	4	2.6
4	1	3	2.6
	2	6	9.1
	3	8	5.7
	4	4	12.7
	5	6	14.9
	6	3	11.3
5	1	0	4.4
	2	3	3.7
	3	5	2.4
	4	0	3.9
	5	0	1.6
	6	0	3.9
6	1	0	1.2
	2	0	0.2
	3	0	0.3
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
7	1	0	0.1
	2	0	0.0
	3	0	0.0
	4	1	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.0

単位：頭

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
8	1	0	0.0
	2	0	0.0
	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.2
	6	0	0.0
9	1	0	0.1
	2	0	0.9
	3	1	2.6
	4	9	4.4
	5	9	6.6
	6	4	4.7
10	1	1	3.8
	2	1	1.9
	3	2	1.4
	4	0	0.4
	5	1	0.4
	6	0	0.8
11	1	0	0.3
	2	0	0.0
	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.8
	6	0	0.2
計		133	131.9

### 3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

		紀の川市				紀の川市	
月	半旬	本年	平年	月	半旬	本年	平年
1	1	6	1.6	7	1	4	5.1
	2	5	1.6		2	2	4.0
	3	1	0.8		3	12	2.3
	4	0	1.1		4	9	3.7
	5	0	0.9		5	10	4.7
	6	3	1.3		6	6	7.6
2	1	1	0.9	8	1	7	6.0
	2	0	1.3		2	5	6.5
	3	2	2.3		3	3	16.1
	4	2	1.1		4	2	37.5
	5	1	1.1		5	7	15.2
	6	3	1.2		6	11	17.2
3	1	3	2.3	9	1	13	24.0
	2	5	2.5		2	8	28.2
	3	14	2.5		3	8	37.9
	4	8	7.8		4	2	30.9
	5	10	6.8		5	3	40.6
	6	31	11.1		6	10	29.4
4	1	19	14.6	10	1	5	18.5
	2	32	19.0		2	10	7.2
	3	41	19.6		3	7	6.5
	4	32	37.7		4	7	8.6
	5	53	52.7		5	6	10.7
	6	19	29.4		6	2	14.6
5	1	19	44.2	11	1	2	15.5
	2	6	46.9		2	17	17.2
	3	21	50.2		3	11	31.7
	4	23	43.2		4	22	31.0
	5	16	48.6		5	14	17.1
	6	11	45.8		6	16	23.5
6	1	21	42.8	12	1	8	13.1
	2	12	31.8		2	15	10.3
	3	24	16.4		3	12	9.0
	4	7	16.5		4	0	5.8
	5	6	9.3		5	1	7.8
	6	3	9.7		6	2	3.9
合 計		739	1195.5	合 計		739	1195.5

## Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

### 1. 予察ほ場などにおける調査

#### 1) カンキツ

(1) 生育状況 (有田川町奥)

a) 生育調査 (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期		
			始期	盛期	終期
早生ウンシュウミカン	3/29 (4/1)	4/18 (4/22)	4/28 (5/2)	5/6 (5/7)	5/11 (5/13)
普通ウンシュウミカン	4/2 (4/4)	4/19 (4/23)	5/1 (5/4)	5/7 (5/10)	5/13 (5/15)
不知火	3/31 (4/1)	4/13 (4/18)	5/6 (5/6)	5/14 (5/13)	5/19 (5/19)

( )内は平年

b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	調査月日										
	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/1	12/15
早生ウンシュウミカン	3.6 (3.6)	4.3 (4.2)	4.4 (4.7)	5.0 (5.2)	5.5 (5.7)	5.9 (6.1)	6.1 (6.4)	6.3 (6.7)	6.4 (6.9)	6.6 (6.9)	6.5 (6.9)
普通ウンシュウミカン	3.6 (3.4)	4.3 (4.1)	4.5 (4.5)	5.2 (5.1)	5.6 (5.5)	6.1 (6.1)	6.4 (6.5)	6.6 (6.8)	6.9 (7.1)	7.1 (7.2)	7.1 (7.3)
不知火	4.3 (4.0)	5.4 (4.9)	5.8 (5.7)	6.8 (6.4)	7.5 (7.1)	8.2 (7.7)	8.7 (8.2)	9.0 (8.6)	9.2 (8.8)	9.4 (8.8)	9.4 (8.9)

( )内は平年

概要 (平年との比較)

早生ウンシュウミカンの発芽期、展葉期、開花始期は平年よりやや早く、開花盛期および終期は平年並であった。

普通ウンシュウミカンの発芽期は平年並、展葉期は平年よりやや早く、開花期は平年並であった。

不知火の発芽期は平年並、展葉期は平年よりやや早く、開花期は平年並であった。

生育期間中の果実肥大は、早生ウンシュウミカン、普通ウンシュウミカンは平年並、不知火はやや大きく推移した。

(2) 黒点病

a) 発病状況調査 (有田川町奥)

区	調査項目	調査時期				
		6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除ほ場	発病果率 (%)	7.5 (27.9)	95.0 (98.4)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	発病度	1.1 (4.9)	20.7 (23.8)	37.0 (39.0)	37.4 (45.8)	58.6 (58.7)
防除ほ場	発病果率 (%)	0.0 (0.3)	2.5 (16.7)	3.0 (24.1)	0.5 (36.3)	31.5 (53.7)
	発病度	0.0 (0.0)	0.4 (2.5)	0.6 (3.6)	0.1 (5.5)	5.1 (7.8)

(注) ( )内は平年

無防除ほ場は27年生興津早生、防除ほ場は50年生宮川早生の各区4樹1樹につき50果を調査

自然感染

防除ほ場使用薬剤(散布日):

デランフロアブル 1,000倍 (4/19)

ストロビードライフロアブル 2,000倍 (5/9)

エムダイファー水和剤 600倍 (5/31)  
 ジマンダイセン水和剤 600倍 (7/1、7/25、8/29)

概要：果実の初発は6月11日(平年6月3日)で平年よりやや遅かった。無防除ほ場の発病は6月中旬に平年より少なく、その後平年並に推移した。防除ほ場は平年よりやや少なく推移した。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査(有田川町奥)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率(%)	調査月日	発病率(%)	発病度	調査月日	発病率(%)	発病度
3月18日	19.0	6月20日	14.7	3.4	7月21日	41.3	12.8
(3月中下旬)	(10.6)	(6月中下旬)	(4.2)	(1.1)	(7月中下旬)	(7.0)	(2.3)

(注) ()内は平年

26年生ネーブル3樹

越冬病斑は旧葉、春葉発病は春葉について1樹につき100葉を調査

果実発病は1樹につき50果を調査

自然感染

概要：越冬病斑の発病葉率はよりやや高かった。春葉での初発は5月23日(平年5月23日)で平年並であった。6月中旬の春葉と7月下旬の果実における発病は平年より多かった。

## (4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査(有田川町奥)

10葉当たり虫数(頭)

調査月日	1 齢	雌 2 齢	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5. 8	0	0	0	10	10
5. 9	3	0	0	10	13
5. 11	8	0	0	10	18
5. 20	46	0	0	10	56
6. 10	12	60	0	10	72

概要：第1世代1齢幼虫の初発は5月9日と平年よりやや早く、その後の発生もやや早く推移した。

## (5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査(有田川町奥)

100葉当たり雌成虫数(頭)

調査月日	無防除ほ場	防除ほ場
3. 4	0	0
15	1	0
25	1	0
4. 5	1	0
15	4	0
25	1	0
5. 6	0	0
16	0	0
25	0	0
6. 6	0	0
15	22	0
24	29	0
7. 5	8	0
15	2	0
26	0	0
8. 5	0	0
15	0	0
25	0	0
9. 5	0	0
15	4	0
26	0	0
10. 5	15	0
14	0	0
25	2	0
11. 5	3	0
15	3	0
25	4	0
12. 7	7	0
14	2	0
26	8	0
1. 6	18	0
14	15	0
25	19	0
2. 4	3	0
15	3	0
25	9	0

概要：無防除ほ場では3月中旬から4月下旬、6月中旬から7月中旬、9月中旬、10月上旬、10月下旬から翌年の2月下旬に認められた。防除ほ場における発生は調査期間を通して認められなかった。



(6) チャノキイロアザミウマ

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

予察ほ場 (有田川町奥)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	0	0	0
2	0	2	2
3	0	1	1
4	0	2	2
5	0	1	1
6	0	3	3
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	2	3	5
4	1	1	2
5	0	6	6
6	0	14	14
6・1	0	15	15
2	2	19	21
3	12	262	274
4	2	200	202
5	12	384	396
6	8	290	298
7・1	16	199	215
2	5	52	57
3	5	22	27
4	13	23	36
5	4	19	23
6	0	26	26
8・1	0	4	4
2	2	3	5
3	1	6	7
4	1	5	6
5	1	9	10
6	4	4	8
9・1	5	3	8
2	7	7	14
3	1	4	5
4	1	4	5
5	3	16	19
6	2	9	11
10・1	3	3	6
2	2	3	5
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：6月第3半旬から7月第2半旬に多く誘殺された。

(6) チャノキイロアザミウマ

b) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

予察ほ場 (由良町畑)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	0	1	1
2	2	0	2
3	0	0	0
4	0	0	0
5	2	0	2
6	3	0	3
5・1	0	0	0
2	1	1	2
3	5	2	7
4	4	1	5
5	10	19	29
6	8	14	22
6・1	3	5	8
2	8	13	21
3	40	49	89
4	16	93	109
5	40	114	154
6	37	121	158
7・1	53	191	244
2	10	15	25
3	4	6	10
4	21	10	31
5	2	5	7
6	18	17	35
8・1	12	20	32
2	15	22	37
3	24	31	55
4	28	15	43
5	8	1	9
6	4	5	9
9・1	4	5	9
2	12	1	13
3	3	1	4
4	0	1	1
5	4	5	9
6	1	1	2
10・1	1	1	2
2	7	1	8
3	0	0	0
4	0	0	0
5	1	0	1
6	1	0	1

概要：6月第3半旬から7月第1半旬、8月第3半旬に多く誘殺された。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 発生状況調査(黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)  
予察ほ場(有田川町奥) 頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	0	1	1
2	0	1	1
3	0	1	1
4	1	0	1
5	0	0	0
6	0	0	0
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	1	1
5	0	0	0
6	0	0	0
8・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	1	0	1
9・1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	1	0	1
6	1	0	1
10・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

b) 発生状況調査(黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)  
予察ほ場(由良町畑) 頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	1	1
4	2	1	3
5	2	0	2
6	0	1	1
7・1	0	0	0
2	0	3	3
3	1	0	1
4	7	0	7
5	0	0	0
6	1	0	1
8・1	0	1	1
2	0	1	1
3	1	2	3
4	0	0	0
5	1	0	1
6	1	1	2
9・1	2	0	2
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
10・1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

## (8) 果樹カメムシ類

## a) 越冬量調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

頭/落葉50リットル

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	2/ 9	2/ 9	0	0	0	0	
橋本市市脇	2/ 9	2/ 9	0	0	0	0	
橋本市清水	2/ 8	2/ 8	0	0	0	0	
橋本市学文路	2/ 8	2/ 8	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/ 4	2/ 4	0	0	0	0	クサギカメムシ2
橋本市高野口町下中	2/ 4	2/ 4	1	0	1	0	
九度山町下古沢	2/ 3	2/ 3	0	0	0	0	
九度山町慈尊院	2/ 3	2/ 3	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	2/ 4	2/ 4	0	1	1	0	
かつらぎ町教良寺	2/ 7	2/ 7	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/ 7	2/ 7	2	1	3	0	
かつらぎ町東谷	2/ 4	2/ 4	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	1/26	1/26	0	0	0	0	ツヤアオカメムシ1
紀の川市中尾	1/26	1/26	0	0	0	0	
紀の川市林ヶ峯	1/26	1/26	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	1/26	1/26	0	0	0	0	
紀の川市鞆渕	1/26	1/26	0	1	1	0	
紀の川市桃山町黒川	1/26	1/26	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	1/26	1/26	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/16	2/21	0	0	0	0	
海南市東畑	2/16	2/21	0	0	0	0	
海南市ひや水	2/16	2/21	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/16	2/21	0	2	2	0	
紀美野町松瀬	2/16	2/21	1	0	1	0	
紀美野町釜滝	2/16	2/21	0	0	0	0	
紀美野町大角	2/16	2/21	0	0	0	0	
紀美野町永谷	2/16	2/21	1	0	1	0	
紀美野町津川	2/16	2/21	1	0	1	0	

(つづき)

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
有田川町奥(果試場内No. 1)	2/18	3/ 2	0	0	0	0	
有田川町奥(果試場内No. 2)	2/18	2/28	0	0	0	0	
有田川町修理川	2/18	2/28	0	0	0	0	
有田川町川口	2/18	3/ 2	0	0	0	0	
広川町津木	2/18	2/28	0	1	1	0	
広川町室川	2/18	2/28	0	0	0	0	
日高川町千津川	2/18	3/ 2	0	0	0	0	
みなべ町高城	2/ 4	3/ 7	0	0	0	0	
みなべ町広野	2/ 4	3/ 7	0	0	0	0	
みなべ町清川	2/ 4	3/ 7	0	0	0	0	
田辺市竹藪	1/28	3/ 7	0	0	0	0	
田辺市上野	1/28	3/ 7	0	0	0	0	
上富田町岩田	1/28	3/ 7	0	0	0	0	
すさみ町和深川	2/ 2	3/ 7	1	0	1	0	
白浜町口ヶ谷	2/ 2	3/ 7	0	0	0	0	
串本町重畳山	2/ 2	3/ 7	0	0	0	0	
那智勝浦町井関	2/ 2	3/ 7	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	2/ 2	3/ 7	0	0	0	0	

調査方法：定点における雑木林の落葉50リットルを採集し、落葉中のチャバネアオカメムシ成虫数を計数した。

概要：県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、落葉50リットル当たり平均0.3頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は21.7%（前年8.5%、平年22.7%）で平年よりもやや少なかった。

b) 予察灯による誘殺状況

予察ほ場（有田川町奥 予察灯：100W水銀灯）

頭

調査月日		チャバネアカメムシ			ツヤアオカメムシ			クサキカメムシ			3種の
月	半旬	♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	合計
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2
	6	12	7	19	20	22	42	0	0	0	61
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	5	3	8	0	0	0	8
	3	0	1	1	15	16	31	0	0	0	32
	4	0	2	2	6	11	17	0	0	0	19
	5	2	6	8	14	11	25	0	0	0	33
	6	3	4	7	5	2	7	0	1	1	15
6	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	2	0	0	0	2	3	5	0	0	0	5
	3	2	1	3	9	8	17	0	0	0	20
	4	16	14	30	138	134	272	1	2	3	305
	5	42	50	92	64	39	103	0	1	1	196
	6	73	74	147	32	29	61	5	5	10	209
7	1	63	69	132	45	65	110	9	8	17	259
	2	74	77	151	26	30	56	7	4	11	218
	3	53	49	102	12	9	21	6	10	16	139
	4	25	25	50	10	14	24	11	8	19	93
	5	40	39	79	6	9	15	11	11	22	116
	6	39	42	81	14	15	29	11	13	24	134
8	1	53	63	116	16	8	24	16	18	34	174
	2	44	40	84	7	10	17	17	15	32	133
	3	8	8	16	2	4	6	8	13	21	43
	4	4	14	18	2	5	7	4	11	15	40
	5	18	22	40	6	3	9	10	5	15	64
	6	21	13	34	4	2	6	1	1	2	42
9	1	18	15	33	6	6	12	4	5	9	54
	2	5	4	9	2	3	5	0	0	0	14
	3	30	36	66	6	3	9	2	2	4	79
	4	3	5	8	4	3	7	0	0	0	15
	5	2	3	5	12	20	32	0	0	0	37
	6	3	3	6	4	2	6	0	0	0	12
10	1	5	1	6	1	1	2	0	0	0	8
	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

概要：チャバネアカメムシは6月第6半旬から7月第3半旬、8月第1半旬に多く誘殺された。ツヤアオカメムシは6月第4半旬から第5半旬、7月第1半旬に多く誘殺された。

## 2) カキ

### (1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種		発芽期	展葉期	開花期			収穫期
				始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
平核無	本 年	3月14日	3月26日	5月3日	5月6日	5月10日	10月26日
	平 年 比	+ 2	- 2	- 6	- 5	- 4	- 1
富 有	本 年	3月16日	3月30日	5月12日	5月15日	5月19日	11月21日
	平 年 比	±0	- 5	- 4	- 3	- 3	+ 2

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：平核無の発芽期及び展葉期は平年並であった。開花期は始め早く、最盛期以降やや早かったが、収穫期は平年並となった。

富有の発芽期は平年並で、展葉期はやや早かった。開花期はやや早かったが、収穫期は平年並となった。

### (2) 炭疽病

#### a) 越冬病斑調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	3月11日	平年
平核無	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病枝率 (%)	0.0	0.4

概要：枝の越冬病斑は、富有、平核無ともにみられなかった。

#### b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月13日	平年
平核無	発病果率 (%)	0.0	0.5
	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病果率 (%)	0.7	2.1
	発病枝率 (%)	0.0	0.3

概要：平核無では枝および果実の発病がみられなかったが、富有では果実発病が認められた。

### (3) うどんこ病

#### a) 子のう殻越冬密度調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	子のう殻 附着枝率		1枝当たりの 子のう殻数	
		本年	平年	本年	平年
平核無	3月11日	2.0	2.6	0.04	0.03
富 有	3月11日	8.7	2.3	0.14	0.03

概要：枝の子のう殻は、平核無は平年並の越冬であったが、富有はやや多かった。

#### b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月13日	10月24日	平年
平核無	発病葉率 (%)	0.3	0.0	17.6
	発 病 度	0.0	0.0	8.4
富 有	発病葉率 (%)	0.3	0.0	6.5
	発 病 度	0.0	0.0	1.7

概要：葉の発病は、平核無、富有ともにやや少なかった。



(4) 落葉病

a) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	種 類	調査項目	9月13日	10月24日	平年
平核無	角斑落葉病	発病葉率(%)	47.0	79.0	64.9
		発病度	15.3	42.5	24.6
	円星落葉病	発病葉率(%)	0.0	81.7	61.6
		発病度	0.0	45.7	35.4
富 有	角斑落葉病	発病葉率(%)	9.3	59.0	47.2
		発病度	2.7	26.9	20.1
	円星落葉病	発病葉率(%)	1.0	94.3	71.6
		発病度	0.7	42.8	45.8

概要：角斑落葉病の発病は、平核無、富有ともに平年並であった。  
円星落葉病の発病は、平核無、富有ともに平年並であった。

(5) ハマキムシ類 (付表1参照)

概要：チャハマキは4月第1半旬から誘殺され始め、4月第3～6半旬の誘殺数が多かった。  
チャノコカクモンハマキは4月第2半旬から誘殺され始め、4月第4半旬～5月第3半旬（ピークは4月第6半旬～5月第1半旬）、7月第3～6半旬の誘殺数が多かった。

## (6) アザミウマ類

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャノキイロアザ ミウマ		カキクダ アザミウマ	
	本年	平年	本年	平年
4・1	5	1.7	0	1.6
2	10	1.3	0	0.7
3	2	1.2	1	1.0
4	0	0.3	0	1.6
5	1	0.2	0	0.8
6	1	0.1	0	0.3
5・1	2	0.1	0	0.3
2	0	0.2	1	0.3
3	3	0.8	0	0.4
4	0	2.0	0	0.1
5	3	3.1	0	0.1
6	3	2.6	0	0.2
6・1	2	1.9	1	2.2
2	11	4.7	1	8.7
3	34	15.4	5	20.1
4	88	16.4	3	20.0
5	77	35.8	2	14.5
6	253	46.8	1	7.0
7・1	221	74.0	0	2.7
2	168	85.2	0	1.7
3	84	63.5	1	0.9
4	87	42.4	1	1.4
5	97	33.0	1	0.6
6	80	43.2	0	0.5
8・1	38	40.1	0	0.4
2	46	28.9	0	0.8
3	62	33.6	0	1.1
4	62	27.2	0	1.4
5	32	29.9	1	0.9
6	19	32.4	0	0.7
9・1	16	25.4	0	0.7
2	16	22.1	0	0.7
3	12	17.8	0	0.6
4	10	17.6	0	0.3
5	6	14.9	0	0.0
6	6	12.2	0	0.5
10・1	7	6.2	0	0.3
2	8	4.0	0	0.2
3	6	1.4	0	0.2
4	1	0.7	0	0.3
5	0	0.2	0	0.1
6	1	0.0	0	0.0
合 計	1580	677.2	19	96.9

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。  
平年値は平成24～令和3年の平均を示す。

概要：チャノキイロアザミウマは4月第1半旬から誘殺され始め、6月第6半旬～7月第2半旬の誘殺数が多かった。  
カキクダアザミウマは4月第3半旬から誘殺され始め、6月第3～4半旬に発生  
のピークが認められた。

(7) コガシラアワフキ

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	コガシラ アワフキ
4・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
5・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
6・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
7・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
8・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
9・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
10・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0

概要：調査期間を通じて誘殺は認められなかった。

## (8) カメムシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	11	11	0	22
4	0	0	0	0
5	11	8	1	20
6	33	51	0	84
5・1	1	2	0	3
2	9	9	1	19
3	15	39	1	55
4	5	3	0	8
5	71	17	2	90
6	50	7	0	57
6・1	18	12	2	32
2	18	81	7	106
3	15	60	6	81
4	254	487	36	777
5	504	471	33	1008
6	384	114	66	564
7・1	253	118	63	434
2	490	217	131	838
3	337	204	84	625
4	255	177	88	520
5	402	206	126	734
6	751	265	268	1284
8・1	504	291	227	1022
2	225	134	109	468
3	253	74	84	411
4	185	69	94	348
5	97	33	61	191
6	122	54	55	231
9・1	77	46	13	136
2	40	22	12	74
3	103	40	23	166
4	23	11	3	37
5	41	37	19	97
6	12	18	6	36
10・1	17	12	5	34
2	0	3	1	4
3	1	3	0	4
4	0	4	0	4
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0

概要：チャバネアオカメムシは4月第3半旬から誘殺され始め、6月第5半旬、7月第2半旬、7月第5半旬～8月第1半旬に誘殺数が多かった。  
ツヤアオカメムシは4月第3半旬から誘殺され始め、6月第4～5半旬に誘殺数が多かった。

### 3) モモ

(1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	発芽期	開花期			収穫期 収穫盛期
		始 期	最盛期	終 期	
白 鳳 本 年	3月14日	4月2日	4月4日	4月11日	7月8日
平 年 比	+ 2	+ 1	± 0	+ 1	± 0

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：白鳳の発芽期および開花期は平年並、収穫期も平年並であった。

(2) ナシヒメシンクイ (付表1参照)

概要：ナシヒメシンクイは4月第1半旬から誘殺され始め、4月第2～3半旬、5月第6半旬、7月第3～4半旬に誘殺数が多かった。

(3) モモハモグリガ (付表1参照)

概要：モモハモグリガは4月第5半旬から誘殺され始め、5月第2～3半旬、6月第5半旬に誘殺数が多かった。

(4) コスカシバ (付表1参照)

概要：コスカシバは4月第6半旬から誘殺され始め、9月第2半旬～10月第1半旬に誘殺数が多かった。

(5) モモシンクイガ (付表2参照)

概要：モモシンクイガは5月第6半旬から8月第5半旬まで誘殺された。  
誘殺数は平年並であった。

付表1) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

(予察ほ場: 紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャハマキ		チャノコカクモンハマキ		ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ		コスカシバ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	1	5.0	0	1.8	3	25.9	0	0.9	0	0.0
2	1	5.5	2	2.7	30	20.5	0	1.6	0	0.0
3	8	7.3	5	4.9	38	12.8	0	0.7	0	0.0
4	3	5.5	9	10.9	19	18.4	0	0.6	0	0.1
5	5	6.5	17	22.2	9	10.6	1	1.0	0	0.1
6	3	2.0	23	29.1	9	8.6	0	0.3	1	0.6
5・1	0	4.7	20	35.7	2	15.9	2	0.7	1	0.8
2	0	3.4	13	30.9	4	15.0	10	2.3	0	0.9
3	0	3.8	15	20.1	5	2.9	7	3.1	0	0.6
4	0	2.2	2	10.1	6	4.1	3	3.4	0	0.9
5	0	1.2	2	2.0	6	7.1	3	1.8	0	1.9
6	0	1.6	0	1.1	29	15.9	1	1.6	0	1.0
6・1	0	0.3	1	3.9	19	22.0	2	0.7	0	1.9
2	0	0.4	0	2.7	14	15.6	0	1.3	0	1.8
3	0	0.2	1	5.9	11	12.2	1	3.2	0	1.5
4	0	0.5	3	6.0	11	11.8	1	5.5	0	0.9
5	0	0.4	3	10.3	15	10.9	6	5.2	0	1.8
6	0	1.2	3	10.5	13	12.0	4	2.0	0	0.8
7・1	0	1.2	3	10.0	9	17.6	0	1.0	0	0.7
2	0	1.6	1	6.7	5	15.0	5	3.8	0	0.5
3	0	0.6	6	3.2	22	18.1	2	6.3	0	0.5
4	0	0.3	6	1.6	22	17.2	2	4.7	0	0.9
5	0	0.4	4	2.4	21	16.4	4	3.5	0	1.2
6	0	0.8	8	5.3	15	22.0	2	8.4	1	1.7
8・1	0	0.3	5	5.3	10	24.3	0	10.6	1	1.2
2	0	0.8	3	3.6	11	21.3	0	10.4	2	1.9
3	0	0.8	1	4.2	8	22.0	0	3.9	1	1.5
4	0	0.2	1	2.3	8	23.0	0	2.0	1	1.0
5	0	0.2	0	1.0	7	24.7	0	1.4	0	2.1
6	0	0.6	0	1.2	8	25.8	0	1.3	0	1.5
9・1	0	1.1	0	0.9	15	14.9	0	1.0	1	2.2
2	0	1.4	0	1.7	18	15.1	0	1.7	3	1.9
3	1	0.8	2	3.7	16	13.5	0	3.9	2	2.9
4	2	0.9	2	5.2	17	10.6	1	5.9	3	3.2
5	1	1.1	4	9.6	8	7.4	4	6.1	2	6.6
6	0	1.3	5	10.8	8	4.3	4	3.4	6	5.4
10・1	0	2.1	5	11.1	5	1.7	4	3.6	4	3.7
2	0	3.2	3	8.8	5	1.5	3	0.9	0	2.9
3	0	3.5	9	9.1	4	0.9	3	1.0	2	0.2
4	0	1.7	6	5.9	3	0.3	1	0.6	1	0.2
5	0	2.1	5	4.0	1	0.0	0	0.2	0	0.0
6	0	1.4	5	3.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
合計	25	80.1	203	331.4	490	559.9	76	121.5	32	59.5

注) 平年値は平成24～令和3年の誘殺数から求めた。

ただし、ナシヒメシンクイとモモハモグリガについては平成25年は調査未実施のため、平年値は平成23～24年、平成26～令和3年の誘殺数から求めた。

付表2) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

調査時期 月・半旬	モモシンクイガ							
	予察ほ場 紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		かつらぎ町 東洪田 (モモ園)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	0.7
6	0	0.0	0	0.4	0	0.0	1	1.0
6・1	0	0.0	0	0.0	3	0.5	1	0.8
2	0	0.0	0	0.0	3	0.8	2	1.2
3	0	0.0	0	0.0	3	1.5	6	1.9
4	0	0.0	0	0.1	3	1.1	2	2.1
5	0	0.0	0	0.0	3	3.3	2	1.7
6	0	0.0	0	0.0	2	2.5	2	2.7
7・1	0	0.0	0	0.0	2	1.6	2	2.2
2	0	0.0	0	0.0	2	1.1	1	0.8
3	0	0.0	0	0.0	3	0.7	2	1.6
4	0	0.0	1	0.0	3	1.4	2	1.7
5	0	0.0	0	0.0	2	1.0	2	0.2
6	0	0.0	0	0.0	3	1.0	2	1.1
8・1	0	0.0	0	0.0	3	0.4	3	0.3
2	0	0.0	0	0.1	3	0.6	2	0.2
3	0	0.0	0	0.0	3	1.0	1	0.6
4	0	0.0	0	0.0	2	0.1	1	0.3
5	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.3
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	1	1.1	45	18.8	34	21.6

注) 平年値は平成24～令和3年の誘殺数から求めた。  
 ただし、かつらぎ町東洪田においては平成26～令和3年の平均。

#### 4) ウ メ

##### (1) 生育状況 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

品種	開花期			発芽期	収穫期*		
	始期	最盛期	終期		始期	最盛期	終期
南高	2/12	2/18	3/14	3/17	6/3	6/6	6/17

\*収穫期は青ウメでの時期

##### (2) 黒星病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日				
	5月6日	5月11日	5月18日	5月24日	5月31日
発病果率%	38.7	58.0	68.3	81.0	92.0
発病度	14.9	24.7	32.1	44.9	54.6

注) 品種：南高 3樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実での初発は5月上旬で、5月下旬にかけて増加した。

###### b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月27日	7月29日	8月26日
発病新梢率%	22.0	56.7	61.3

注) 品種：南高 3樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢での発病は6月中旬から認められ、8月上旬にかけて増加した。

##### (3) かいよう病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日				
	4月27日	5月6日	5月11日	5月18日	5月24日
発病果率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発病度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 品種：南高 3樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実発病は認められなかった。

###### b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月14日	6月29日	8月4日
発病新梢率%	0.0	0.0	0.0

注) 品種：南高 3樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢の発病は認められなかった。

##### (4) すず斑病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日	
	6月13日	6月20日
発病果率%	27.3	91.0
発病度	4.9	45.0

注) 品種：南高 3樹、1樹あたり全着果数を調査(無防除)

概要：果実での初発は6月中旬と遅かったが、その後急激に増加した。



(5) ハダニ類

a) 発生状況調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	100葉あたり 雌成虫数	調査月日 月・半旬	100葉あたり 雌成虫数
4. 1	0	8. 1	0
2	32	2	0
3	14	3	0
4	11	4	0
5	17	5	0
6	2	6	0
5. 1	7	9. 1	0
2	31	2	0
3	29	3	0
4	25	4	0
5	37	5	0
6	25	6	0
6. 1	59	10. 1	0
2	32	2	0
3	28	3	0
4	28	4	0
5	9	5	0
6	2	6	0
7. 1	3		
2	6		
3	0		
4	4		
5	0		
6	0		

注) 品種：南高 2樹平均 無防除

概要：4月第2半旬から7月第4半旬にハダニ類の発生を確認した。

## (6) カメムシ類

a) 誘殺状況調査 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	チャバネア カメムシ	ツアア カメムシ	クサギ カメムシ	前記3種の 合計
4. 1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	3	47	0	50
4	0	2	0	2
5	23	379	0	402
6	138	731	2	871
5. 1	0	16	0	16
2	2	47	0	49
3	4	321	1	326
4	0	56	0	56
5	16	122	3	141
6	33	264	2	299
6. 1	15	686	1	702
2	30	1118	16	1164
3	37	454	9	500
4	218	1250	52	1520
5	361	454	52	867
6	440	421	103	964
7. 1	399	312	55	766
2	527	157	79	763
3	131	80	47	258
4	88	89	37	214
5	53	54	37	144
6	73	67	60	200
8. 1	33	102	32	167
2	293	219	110	622
3	747	341	198	1286
4	826	237	102	1165
5	419	139	98	656
6	678	207	75	960
9. 1	520	169	93	782
2	709	259	41	1009
3	691	267	31	989
4	112	165	4	281
5	323	736	1	1060
6	86	341	3	430
10. 1	36	170	1	207
2	3	140	1	144
3	1	15	2	18
4	3	63	0	66
5	0	0	0	0
6	0	1	0	1

概要：チャバネアオカメムシは4月第3半旬から10月第4半旬まで誘殺され、8月第3半旬から9月第3半旬の誘殺数が特に多かった。

ツアアオカメムシは4月第3半旬から10月第6半旬まで誘殺され、6月第1半旬から6月第4半旬の誘殺数が特に多かった。

(7) ウメシロカイガラムシ

a) 歩行幼虫発生状況調査 (両面テープトラップ) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	1.2
2	0	5	0	2	0
3	0	6	19.0	3	0.4
4	2.2	7. 1	36.0	4	0
5	64.2	2	7.8	5	0
6	31.6	3	0	6	0
5. 1	4.8	4	0.2	10. 1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	8. 1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
6. 1	0	4	0		
2	0	5	4.8		
3	0	6	10.0		

注) 5トラップ平均

概要：第1世代は4月第4半旬から5月第1半旬まで、第2世代は6月第6半旬から7月第2半旬まで、第3世代の発生は8月第5半旬から9月第1半旬にみられた。

(8) アメリカシロヒトリ

a) 雄成虫誘殺状況調査 (フェロモントラップ) (予察ほ場：みなべ町西本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	7. 1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
5. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		
4	0	8. 1	0		
5	0	2	0		
6	0	3	0		
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		

概要：アメリカシロヒトリは確認されなかった。

2.巡回調査結果

1) カンキツ

(1) 6月調査

(11~12日)

2022年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.1	0.02	0.0	13.6	38.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	0.0	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.01	0.0	15.0	27.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	0.0	0.0	0.1	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	0.01	0.0	9.1	22.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		0.0		2.9			0.0		8.8		0.0	20.6		2.9		0.0	0.0	0.0	0.0		
八朔 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
夏橙 平均	6	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.4	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
ネーブル 平均	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	158.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
伊予柑 平均	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
清見 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
不知火 平均	5	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
中晩柑 平均	30	0.5	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.03	0.7	0.2	0.0	4.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		13.3		0.0		3.3	3.3		23.3		0.0	10.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
合計 平均	64	0.3	0.04	0.1	0.04	0.5	0.1	0.01	0.4	0.10	0.0	6.7	19.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		6.3		1.6		10.9	1.6		15.6		0.0	15.6		1.6		0.0	0.0	0.0	0.0		

(2) 7月調査  
(11~12日)

2022年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	0.8	0.2	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	13.6	38.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.8	0.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	1.1	0.3	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.06	0.0	15.0	27.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	0.9	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01	0.0	9.1	22.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		17.6		8.8			0.0		8.8		0.0	20.6		2.9		0.0	0.0	0.0	0.0		
八朔 平均	6	1.7	0.2	0.0	0.0	0.0	1.1	0.5	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
夏橙 平均	6	16.1	5.8	0.0	0.0	0.0	2.2	0.6	2.5	0.5	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
ネーブル 平均	3	5.6	1.4	0.0	0.0	0.0	1.1	0.2	1.1	0.2	0.0	33.3	158.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
伊予柑 平均	4	1.7	0.2	0.0	0.0	0.0	2.5	0.8	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
清見 平均	6	5.6	1.4	0.0	0.0	0.0	2.8	0.4	0.3	0.1	0.0	1.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
不知火 平均	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
中晩柑 平均	30	4.8	1.5	0.0	0.0	0.0	1.7	0.43	0.8	0.2	0.0	4.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		36.7		0.0		0.0	20.0		26.7		0.0	10.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		
合計 平均	64	3.0	0.86	0.2	0.12	0.0	0.8	0.20	0.4	0.09	0.0	6.7	19.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)		26.6		4.7		0.0	9.4		17.2		0.0	15.6		1.6		0.0	0.0	0.0	0.0		

(3) 8月調査  
(17~18日)

2022年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ			チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)	
ウンシュウミカン	下津	8	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.4	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.02	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	2.4	0.4	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.02	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		20.6		2.9			0.0		8.8		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
八朔 平均	6	2.2	0.3	0.0	0.0	0.0	1.7	0.7	0.4	0.1	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
夏橙 平均	6	20.6	7.9	0.0	0.0	0.0	12.2	4.8	1.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
ネーブル 平均	3	5.6	1.4	0.0	0.0	0.0	2.2	1.0	2.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
伊予柑 平均	4	4.2	1.3	0.0	0.0	0.0	2.5	1.1	0.4	0.1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
清見 平均	6	10.6	2.1	0.0	0.0	0.0	2.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
不知火 平均	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																						
中晩柑 平均	30	6.9	2.1	0.0	0.0	0.0	3.8	1.68	0.6	0.1	13.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		36.7		0.0		0.0	33.3		23.3		13.3	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計 平均	64	4.9	1.35	0.2	0.08	0.0	1.9	0.79	0.3	0.05	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		28.1		1.6		0.0	15.6		15.6		6.3	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4)10月調査 病害  
(17~18日)

2022年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病	こはん症
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発生果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	10.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.02	-	-	0.0
	有田	12	6.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.05	-	-	0.0
	日高	8	10.0	1.4	2.9	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	-	-	0.0
	西牟婁	6	13.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	-	-	0.0
	平均	34	16.0	3.3	0.7	0.5	0.0	0.0	0.2	0.04	-	-	0.0
発生ほ場率(%)			52.9		5.9		0.0		8.8		0.0	17.6	0.0
八朔	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.4	0.7	0.2	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
夏橙	平均	6	17.2	7.5	0.0	0.0	7.8	2.5	3.2	0.8	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
ネーブル	平均	3	16.7	3.3	0.0	0.0	4.4	1.0	4.4	1.0	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	0.8	0.4	7.5	3.2	0.0	0.0	-	-	100.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
清見	平均	6	2.8	0.9	0.0	0.4	0.0	0.6	0.3	0.1	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	16.7	
不知火	平均	5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	20.0	
中晩柑	平均	30	5.0	1.8	0.1	0.0	3.3	1.24	0.9	0.2	-	-	13.3
発生ほ場率(%)			20.0		3.3		23.3		30.0		0.0	3.3	13.3
合計	平均	64	11.1	2.68	0.4	0.28	1.7	0.58	0.5	0.13	-	-	0.0
発生ほ場率(%)			37.5		4.7		10.9		18.8		0.0	10.9	6.3

(4)10月調査 虫害  
(17~18日)

2022年

品種	地区	調査ほ場数	ミカンハダニ			チャノキイロ アザミウマ				ハナムグリ類	ヤノネカイガラムシ	ヤガ	コナカイガラムシ	ゴマダラ カミキリ		ナメクジ類					
			寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	春葉被害度	果頂部		果梗部						被害果率(%)	被害果率(%)		被害果率(%)	寄生率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
						被害果率(%)	被害度	被害果率(%)	被害度												
ウンシュウ ミカン	下津	8	0.0	0.0	35.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	有田	12	0.0	0.0	23.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0					
	日高	8	0.0	2.9	22.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	西牟婁	6	0.1	21.1	26.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0					
	平均	34	0.0	4.4	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
発生ほ場率(%)			105.9			0.0		0.0		0.0	0.0	5.9	0.0	0.0		0.0					
八朔	平均	6	0.0	8.3	11.8	0.0	0.0	1.1	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			100.0			0.0		16.7		16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
夏橙	平均	6	0.0	5.0	25.2	0.0	0.0	0.6	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			116.7			0.0		16.7		16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
ネーブル	平均	3	0.0	1.1	30.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			133.3			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	37.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			125.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
清見	平均	6	0.0	0.0	13.3	3.3	0.6	16.7	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			116.7			16.7		50.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
不知火	平均	5	0.0	0.0	7.6	6.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			100.0			20.0		0.0		0.0	20.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
中晩柑	平均	30	0.0	2.8	19.4	1.8	0.5	3.7	0.9	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			113.3			6.7		16.7		6.7	3.3	0.0	0.0	0.0		0.0					
合計	平均	64	0.0	3.6	23.3	0.8	0.2	1.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			109.4			3.1		7.8		3.1	1.6	3.1	0.0	0.0		0.0					



## 2) カキ

(1) 5月調査 (16、17日)

調査品種：富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病	うどんこ病		灰色かび病	フジコナ カイガラムシ	カキクダ アザミウマ	マイマイガ	カンザワ ハダニ
	No.	字名	発病 新梢率	発病 葉率	発病 度	発病 新梢率	寄生 花蕾率	被害 葉率	被害 葉率	被害 葉率
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
紀の川市	12	野上	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	13	切畑	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	12.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
平均			0.7	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	1.2
発生ほ場数			1.0	1.0		7.0	0.0	0.0	0.0	8.0
発生ほ場率(%)			5.9	5.9		41.2	0.0	0.0	0.0	47.1

100葉、50果、50新梢調査

調査品種：刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病	フジコナ カイガラムシ	カキクダ アザミウマ	チャノキイ ロアザミウ マ	マイマイガ	カンザワ ハダニ	
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 新梢率	寄生 花蕾率	被害 葉率	被害 果率	被害 葉率	被害 葉率	被害 花蕾率
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	8.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	13.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0
	17	鎌滝	刀根早生	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	16.0
平均				0.1	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	8.0
発生ほ場数				1.0		4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	16.0
発生ほ場率(%)				5.9		23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	94.1

100葉、50果、50新梢調査

## (2) 6月調査 (13、15日)

調査品種: 富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	さび果症 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	3.0	0.3	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	4.0	0.4	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	10.0	1.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
平均			0.0	2.3	0.2	1.1	0.3	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0
発生ほ場数			0.0	10.0		8.0	4.0	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0	62.5		50.0	25.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイロ アザミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率
	No.	字名			発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	2.0	0.2	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.8	0.1	2.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				0.0	6.0		9.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				0.0	35.3		52.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果調査

## (3) 7月調査(11、13日)

調査品種:富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度								
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	2	市脇	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	4	山田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	6.0
	5	大野	2.0	1.0	0.1	2.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	11.0	1.1	2.0	0.0	8.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	2.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	22.0	3.2	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	15.0	1.7	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	14	調月	0.0	9.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.1	4.3	0.6	0.3	0.0	1.8	1.3	0.0	0.0	0.0	2.4
発生ほ場数			1.0	10.0		2.0	0.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	7.0
発生ほ場率(%)			6.3	62.5		12.5	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	43.8

100葉、50果調査

調査品種:刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウ マ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	
	No.	字名		品種	発病 葉率								発病 度
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.0	
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	兄井	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	切畑	刀根早生	0.0	8.0	0.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	
平均				0.0	0.6	0.1	0.0	0.5	0.2	0.0	0.2	0.1	0.4
発生ほ場数				0.0	3.0		0.0	1.0	2.0	0.0	2.0	1.0	2.0
発生ほ場率(%)				0.0	17.6		0.0	5.9	11.8	0.0	11.8	5.9	11.8

100葉、50果調査

## (4) 8月調査(12、16日)

調査品種: 富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度									
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	48.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	34.0
	3	学文路	0.0	7.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	60.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	30.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	31.0	5.2	0.0	0.0	30.0	0.0	32.0	0.0	0.0	0.0	14.0
	9	丁ノ町	0.0	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	10	西飯降	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	12.0	2.0	0.0	0.0	24.0
	11	東洪田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	22.0
紀の川市	12	野上	0.0	30.0	3.8	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	4.0
	13	切畑	2.0	36.0	7.6	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	58.0
	14	調月	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	10.0
	16	鎌滝	2.0	1.0	0.1	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	32.0
平均			0.4	7.3	1.2	0.0	0.0	5.6	0.1	8.1	1.0	0.0	0.0	25.8
発生ほ場数			3.0	9.0		0.0	0.0	7.0	1.0	13.0	6.0	0.0	0.0	14.0
発生ほ場率(%)			18.8	56.3		0.0	0.0	43.8	6.3	81.3	37.5	0.0	0.0	87.5

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	チャノキイ ロアザミ ウマ 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率	
	No.	字名		品種	発病 葉率									発病 度
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	10.0	
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	6.0	2.0	0.0	0.0	8.0	
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
紀の川市	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	切畑	刀根早生	0.0	9.0	0.9	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	6.0	
	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	
紀美野町	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	
平均				0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	5.1	0.7	0.6	0.0	0.2	2.0
発生ほ場数				0.0	1.0		0.0	0.0	7.0	3.0	4.0	0.0	2.0	6.0
発生ほ場率(%)				0.0	5.9		0.0	0.0	41.2	17.6	23.5	0.0	11.8	35.3

100葉、50果調査

## (5) 9月調査(12、14日)

調査品種:富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病度	発病 葉率	発病度	発病 葉率	発病度						
橋本市	1	柏原	6.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.0	0.0	32.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	2.0	0.3	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	20.0	0.0
	3	学文路	10.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0	38.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	5	大野	4.0	0.0	0.0	10.0	1.7	2.0	0.3	62.0	0.0	8.0	0.0	14.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	7.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	8.0	25.0	7.1	13.0	2.2	5.0	0.8	34.0	0.0	12.0	0.0	10.0	0.0
	9	丁ノ町	2.0	6.0	0.6	1.0	0.2	0.0	0.0	10.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	3.0	0.7	1.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	6.0	0.0	20.0	0.0
	11	東洪田	2.0	5.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	12.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	34.0	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.0
	13	切畑	0.0	48.0	11.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	26.0	0.0
	14	調月	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
紀美野町	15	赤木	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	28.0	0.0
平均			2.3	8.4	1.8	1.8	0.3	0.4	0.1	10.1	0.0	6.9	0.1	17.1	0.1
発生ほ場数			7.0	11.0		6.0		2.0		12.0	0.0	10.0	1.0	12.0	1.0
発生ほ場率(%)			43.8	68.8		37.5		12.5		75.0	0.0	62.5	6.3	75.0	6.3

100葉、50果調査

調査品種:刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率	
	No.	字名		品種	発病 葉率	発病度	発病 葉率	発病度	発病 葉率							発病度
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	6.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	1.0	0.2	8.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	1.0	0.1	12.0	2.0	1.0	0.2	46.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	
	7	入郷	刀根早生	0.0	14.0	2.5	1.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	2.0	0.2	6.0	2.0	1.0	0.3	28.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	2.0	0.2	1.0	0.2	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	
	11	兄井	平核無	0.0	9.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	2.0	
	12	西洪田	刀根早生	0.0	4.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	紀の川市	13	野上	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
紀美野町	14	切畑	刀根早生	0.0	9.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0
	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
紀美野町	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	2.0	0.0	
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	
平均				0.0	2.5	0.4	1.4	0.3	0.2	0.0	7.5	0.0	0.9	0.2	2.1	0.2
発生ほ場数				0.0	8.0		7.0		4.0		11.0	0.0	6.0	2.0	7.0	2.0
発生ほ場率(%)				0.0	47.1		41.2		23.5		64.7	0.0	35.3	11.8	41.2	11.8

100葉、50果調査

(6) 10月調査 (11、12日)  
調査品種: 富有

2022年

市町村	調査場所		炭疽病	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病	カキノヘ タムシガ	フジコナカ イガラムシ	ハマキム シ類	カメモシ類
	No.	字名	発病 果率	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 果率	被害 果率	寄生 果率	被害 果率	被害 果率
橋本市	1	柏原	2.0	2.0	0.2	4.0	0.8	2.0	0.3	0.0	0.0	14.0	0.0	58.0
	2	市脇	2.0	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	2.0	24.0
	3	学文路	0.0	17.0	5.8	4.0	0.7	0.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0	82.0
	4	山田	2.0	0.0	0.0	1.0	0.2	3.0	1.5	4.0	0.0	0.0	0.0	64.0
	5	大野	0.0	9.0	1.3	54.0	17.7	49.0	21.0	80.0	0.0	4.0	0.0	54.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	9.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	12.0	0.0	4.0
かつらぎ町	8	広浦	4.0	21.0	8.2	67.0	24.2	30.0	10.3	60.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	9	丁ノ町	0.0	12.0	2.1	8.0	1.3	1.0	0.2	34.0	0.0	16.0	0.0	24.0
	10	西飯降	6.0	13.0	4.1	30.0	6.8	8.0	3.0	12.0	0.0	4.0	0.0	34.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	32.0
紀の川市	12	野上	0.0	31.0	6.6	5.0	0.8	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0	8.0
	13	切畑	2.0	38.0	8.8	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0
	14	調月	0.0	4.0	1.1	9.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	12.0
紀美野町	15	赤木	16.0	4.0	0.6	19.0	4.2	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	15.0	2.7	4.0	0.8	4.0	0.0	0.0	0.0	54.0
平均			2.1	10.0	2.5	13.9	3.9	6.1	2.3	15.9	0.0	5.5	0.1	36.8
発生ほ場数			7.0	11.0		14.0		7.0		11.0	0.0	10.0	1.0	15.0
発生ほ場率(%)			43.8	68.8		87.5		43.8		68.8	0.0	62.5	6.3	93.8

100葉、50果調査

### 3) モモ

(1)4月調査(12、13日)

2022年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 枝率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	7	段	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	8	段新田	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.0	0.0	0.1	0.6
発生ほ場数				0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
発生ほ場率(%)				0.0	0.0	0.0	10.0	20.0

100葉叢、100結果枝 調査

(2)5月調査(16、17日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 葉率	うどんこ病 発病 果率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率	コスカシバ 被害 箇所数
	No.	字名									
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	2.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				3.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:10樹、樹高1m以下調査

## (3)6月調査(13、15日)

2022年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	3.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東浜田	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
平均				1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				40.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は有袋のため未調査

## (4)7月調査(11、13日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		灰星病発病果率	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率							
紀の川市	1	杉原	白鳳	1.0	-	-	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	0.0	-	-	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	-
	3	嶋	白鳳	6.0	-	-	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	2.0	-	-	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	-
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	4.0	-	-	0.0	5.0	0.0	0.0	6.0	-
	7	段	白鳳	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	8	段新田	清水白桃	11.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	-	-	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	-
	10	東浜田	白鳳	2.0	-	-	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	-
平均				2.6	2.0	0.0	0.0	1.7	1.0	0.0	0.6	0.0
発生ほ場数				6.0	1.0	0.0	0.0	8.0	5.0	0.0	1.0	0.0
発生ほ場率(%)				60.0	50.0	0.0	0.0	80.0	50.0	0.0	10.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は収穫済みのため果実無し



## (5)8月調査(12、16日)

2022年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 葉率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名							
紀の川市	1	杉原	白鳳	1.0	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	2.0	0.0	19.0	14.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	1.0	0.0	14.0	7.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	6.0	0.0	31.0	5.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	3.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	1.0	0.0	20.0	12.0	0.0	1.0
	7	段	白鳳	1.0	0.0	78.0	18.0	0.0	1.0
	8	段新田	清水白桃	2.0	0.0	11.0	4.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	1.0	0.0	10.0	6.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	2.0	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0
平均				2.0	0.0	19.5	8.9	0.0	0.2
発生ほ場数				10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	2.0
発生ほ場率(%)				100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	20.0

100葉、50果、50新梢調査

## 4) キウイフルーツ

調査品種:ヘイワード

2022年

市町村	調査場所		4月調査(11,12日)		5月調査(11,16日)		6月調査(13,15日)	
			かいよう病		かいよう病		かいよう病	
	No.	字名	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度
紀の川市	1	名手上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	北涌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海南市	3	下津町小南	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	下津町小原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	下津町下津	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10新梢の100葉調査

4) ウメ

(1) 4月調査(4月8、12、14日)

調査品種：南高

2022年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメロ カガラムシ
	No.	字名	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	被害 新梢率	寄生 枝率
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	2.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	22.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	8.0
	4	東本庄1	2.0	2.0	0.0	0.0	50.0	0.0	6.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	8.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	8.0
	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	8.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	4.0
	9	西本庄P1	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	8.0
	10	西本庄P2	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	2.0
	11	西本庄P3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	4.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	8.0
	13	埴田1	2.0	2.0	0.0	0.0	52.0	0.0	2.0
	14	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	6.0
	15	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	22.0
	16	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	10.0
	17	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	1.0	6.0
	18	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	10.0
	19	晩稲5	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	8.0
	20	岩代P1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	0.0
	21	岩代P2	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	2.0
	22	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	64.0	0.0	2.0
	23	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	2.0
	24	高城3	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	4.0
	25	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	0.0
	26	清川2	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	8.0
	27	清川3	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	10.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	4.0
	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	4.0
	4	上秋津2	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	2.0
	5	上秋津3	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	6.0
	6	団栗	2.0	1.0	0.0	0.0	98.0	0.0	0.0
	7	中芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	0.0
	8	中芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	9	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	2.0
	10	秋津川1	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	0.0
	11	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	0.0
	12	秋津川3	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	2.0	8.0
	13	上芳養1	2.0	1.0	0.0	0.0	84.0	0.0	0.0
	14	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	8.0
	平均		0.2	0.1	0.0	0.0	74.4	0.1	5.2
	発生ほ場数		4		0		41	2	32
	発生ほ場率(%)		9.8		0.0		100.0	4.9	78.0

## (2) 6月調査(5月31日、6月1、2、6日)

調査品種: 南高

2022年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	ウメシロカラムシ	ハダニ類		コスカシバ	アブラムシ類
	No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率
みなべ町	1	東岩代1	2.0	0.5	3.0	0.7	0.0	0.0	0.0	27.0	0.0	0.0	0.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	3	東岩代3	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	東本庄1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	11.0	8.0	0.0	0.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	49.0	211.0	0.0	0.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.0	247.0	0.0	8.0
	7	西本庄1	4.0	0.8	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	38.0	137.0	0.0	0.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0	8.0	0.0	0.0
	9	西本庄P1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	2.0	0.0	0.0
	10	西本庄P2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	西本庄P3	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	1.0	0.0	4.0	5.0	0.0	0.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	33.0	71.0	0.0	0.0
	13	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.0	18.0	0.0	0.0
	14	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	7.0	0.0	0.0
	16	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	17.0	75.0	0.0	0.0
	17	晩稲3	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	38.0	46.0	0.0	0.0
	18	晩稲4	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	10.0	2.0	0.0	0.0
	19	晩稲5	-	-	-	-	-	-	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	20	岩代P1	0.0	0.0	2.0	0.8	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0	0.0	0.0
	21	岩代P2	10.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	5.0	0.0
	22	高城1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	2.0	0.0	9.0	3.0	0.0	0.0
	23	高城2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	15.0	0.0
	24	高城3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	11.0	14.0	2.0	0.0
	25	清川1	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	26	清川2	4.0	1.3	5.0	0.8	0.0	4.0	2.0	32.0	67.0	9.0	0.0
	27	清川3	1.0	0.2	2.0	0.3	0.0	1.0	4.0	12.0	27.0	0.0	0.0
田辺市	1	下三栖1	1.0	0.2	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	6.0	1.0	0.0
	2	下三栖2	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	2.0	1.0	0.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	33.0	8.0	2.0	0.0
	4	上秋津2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	7.0	17.0	0.0	1.0
	5	上秋津3	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.0	63.0	0.0	0.0
	6	団栗	7.0	1.3	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	14.0	17.0	2.0	0.0
	7	中芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	8	中芳養2	0.0	0.0	1.0	0.7	0.0	1.0	0.0	19.0	27.0	0.0	0.0
	9	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	13.0	18.0	0.0	0.0
	10	秋津川1	1.0	0.3	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0
	11	秋津川2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	秋津川3	1.0	0.7	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	64.0	62.0	0.0	0.0
	13	上芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	4.0	8.0	12.0	13.0	0.0
	14	上芳養2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	22.0	9.0	3.0	0.0
	平均		1.0	0.3	1.0	0.2	0.0	0.6	0.9	14.5	29.1	1.3	0.4
	発生ほ場数		15		18		1	16	8	33		10	4
	発生ほ場率(%)		36.6		43.9		2.4	39.0	19.5	80.5		24.4	9.8